福岡市埋蔵文化財調査報告書第1221集

今宿五郎江　16

― 今宿五郎江遺跡第11次調査報告（2）―

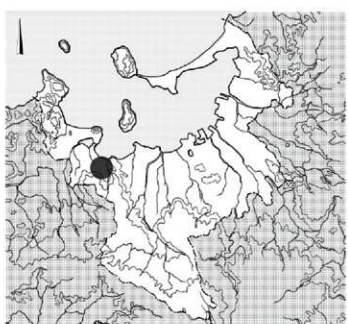
2014

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1181集

今宿五郎江　16

― 今宿五郎江遺跡第11次調査報告（2）―



調査番号　0531
遺跡略号　IZG-11

2014

福岡市教育委員会

序

福岡市の西部に位置する今宿平野は、中国の史書にその名を残す糸島平野の東を占め、歴史的にみても重要な位置にある地域です。しかし今、土地区画整理事業により、縦横に整備された道路が走り、日々街の姿を整えつつあります。

福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で伊都土地区画整理事業地内において実施した今宿五郎江第11次調査の報告書として刊行するものです。

発掘調査では、膨大な量の土器のほかに、農具や漁撈具をはじめとする木器、石錘などの石製品、鏡や銅鐸といった金属器など様々な種類の遺物が多数出土しました。このような遺物の内容は、今宿五郎江遺跡が、かつての伊都国とされる地域のなかでも、重要な位置を占めていたことを物語っています。

本書の刊行は、関係各位の多大なご理解とご協力の結果であることをここに記し、心からお礼を申し上げます。また、本書が今宿平野の歴史について、理解を深めるために資するところがあれば幸いです。

平成26年3月24日

福岡市教育委員会
教育長　酒 井 龍 彦

はじめに

1 本書は、2005（平成17）年から2006（平成18）年度にわたり、福岡市西区今宿町伊都土地区画整理事業地内で福岡市教育委員会がおこなった、今宿五郎江第11次調査報告の２であり、出土遺物について報告する。なお、遺構についての報告は、第1181集『今宿五郎江13』（2013）で行った。

2 発掘調査は、文化財保護法57条の３（改正前）に基づく通知を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、福岡市都市整備局（当時）伊都区画整理事務所の依頼により、記録保存を目的として、教育委員会埋蔵文化財課（平成24年度組織改編により移管し 経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課）が実施したものである。作業は、関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。

3 整理・報告は、埋蔵文化財調査課 杉山富雄が全般を担当したほかに、木器実測・写真撮影を加藤隆也が、土器実測を埋蔵文化財事前審査課森本幹彦が行った。また、木器実測図については埋蔵文化財センターの協力を得た。本文執筆は担当のほか森本が行った。

4 木製品の整理については、首都大学東京山田昌久先生の指導を頂いた。記して感謝申し上げます。

5 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡例

1 位置の記録は、伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を利用した。

2 調査区画については、座標系の格子を利用し、表記の標準化を図った。100ｍ格子を東西・南北それぞれ10分割し、さらに各５分割した２ｍ格子を設定した。100ｍ格子の位置は、１㎞格子を同様各方向10分割した位置で表示した。実際は各２桁の数字を用い、上の桁が西方向、下の桁が北方向への分割区画を示す。100ｍ格子に「G」を冠して記述中でわかるものとした。

例）G46-8032は100ｍ区画46の東から８、南から10番目の10ｍ区画中の、東から３番目、南から２番目の２ｍ格子。

3 図中に用いる方位は国土座標の座標北である。

4 報告中の遺構・遺物番号は、それぞれ登録番号を用い、調査現場での記録から整理、収蔵まで一貫して管理し、台帳・図・日誌等関係に記載した情報と極力関連づけておくことに努めた。記述中必要に応じて、遺物には「R」、遺構には「M」を付した。また、遺構番号については、第10次調査の番号を引き継いで、1201から用いることとした。

遺跡調査番号	０５３１			調査略号	ＩＺＧ－１１
調査地籍	福岡市西区今宿町76-1の一部、76-2、78-5、92-2、92-5、95、97-1の一部、および98			分布地図番号	１１２
工事面積	130 ha	調査対象面積	6,900 ㎡	調査面積	6,900 ㎡
調査期間	2005（平成17）年7月8日 ～ 2006（平成18）年12月9日				

本文目次

1　今宿五郎江遺跡第11次調査の概要
　1．発掘調査の概要 …… 1
　（1）発掘調査 …… 1
　今宿五郎江遺跡の立地
　発掘調査
　（2）調査遺構 …… 1
　2．谷1203の土層 …… 4
2　今宿五郎江遺跡第11次調査出土遺物 …… 5
　1．出土遺物の概要…… 5
　2．出土遺物…… 5
　（1）土器・土製品 …… 5
　（2）金属器・金属製品 …… 6
　（3）木器・木製品 …… 7
　（4）土製品 …… 8
　（5）石器・石製品 …… 8
3　おわりに…… 125

図目次

図1　今宿五郎江遺跡調査区位置図…… 2
図2　今宿五郎江第11次調査区 …… 3
図3　谷1203土層模式図 …… 4
図4　薄片鑑定試料…… 18
図5　薄片（1） …… 19
図6　薄片（2） …… 20
図7　歴年較正結果…… 22
図8　今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真（1） …… 30
図9　今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真（2） …… 31
図10　今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真（3） …… 32
図11　谷1202　4層出土土器 …… 33
図12　谷1202　5層出土土器 …… 34
図13　谷1202・溝1204出土土器 …… 35
図14　谷1202・溝1204出土土器 …… 36
図15　掘立柱建物1831出土土器 …… 36
図16　谷1203　11層出土土器（1） …… 37
図17　谷1203　11層出土土器（2） …… 38
図18　谷1203　11層出土土器（3） …… 39
図19　谷1203　19層・22層出土土器 …… 40
図20　谷1203　23層出土土器 …… 41
図21　谷1203　19層・27b層・39層出土土器 42
図22　谷1203　49層出土土器 …… 42
図23　谷1203　50層出土土器 …… 43
図24　谷1203　50層・25層・35層出土土器　44
図25　谷1203　36層出土土器 …… 45
図26　谷1203　36層・39層出土土器 …… 46
図27　谷1203　40層出土土器 …… 47
図28　谷1203　27層・42層出土土器 …… 48
図29　谷1203　42層出土土器 …… 49
図30　谷1203　51層出土土器 …… 50
図31　谷1203　52層出土土器 …… 29
図32　谷1203　52層・53層・67層出土土器　30
図33　溝1561・溝1567・M1570出土土器 … 53
図34　井戸2029出土土器 …… 24
図35　土器埋置1716～1718 …… 54
図36　楽浪系土器 …… 55
図37　瓦質土器・陶質土器 …… 56
図38　異系統土器・土師器（1） …… 57
図39　異系統土器・土師器（2） …… 58
図40　金属器（1） …… 36
図41　金属器（2） …… 37
図42　金属器（3） …… 38
図43　金属器（4） …… 39
図44　鍬（1） …… 40
図45　鍬（2） …… 41
図46　鍬（3） …… 42
図47　鍬（4） …… 43
図48　鍬（5） …… 44
図49　鍬（6） …… 45
図50　鍬（7）・鍬柄 …… 46
図51　鋤（1） …… 47
図52　鋤（2） …… 48
図53　杵（1） …… 49

図54　杵（2）…… 50
図55　杵（3）…… 51
図56　杵（4）…… 52
図57　籌（やす）（1）…… 53
図58　籌（やす）（2）…… 54
図59　尖頭器 …… 55
図60　網枠・櫂 …… 56
図61　斧柄（1）…… 57
図62　斧柄（2）・鎌柄・柄 …… 58
図63　工具・火錐臼・紡錘車（1）…… 59
図64　紡錘車（2）・木鏃・短甲 …… 60
図65　弓・容器（1）…… 61
図66　容器（2）…… 62
図67　容器（3）…… 63
図68　容器（4）・杓子 …… 64
図69　杓文字 …… 65
図70　蓋（1）…… 66
図71　蓋（2）・机 …… 67
図72　椅子・服飾具 …… 68
図73　装飾部材・形代 …… 69
図74　部材・板材 …… 70
図75　部材・未分類 …… 71
図76　谷1202出土土器 …… 95
図77　谷1202、谷1203
10層・11層出土土器 …… 96
図78　谷1203　11層出土土器 …… 97
図79　谷1203　11層・21層・22層・19層・44層・
27層出土土器 …… 98
図80　谷1203　27（b）層・25層・26層・35層・
36層出土土器 …… 99
図81　谷1203　39層・40層出土土器 …… 100
図82　谷1203　40層・50層出土土器 …… 101
図83　谷1203　50層・23層・38層・45層・49層
出土土器…… 102
図84　谷1203　49層・57層・42層出土土器…
103
図85　谷1203　42層・51層出土土器 …… 104
図86　谷1203　52層・凹地1557・凹地1565・
溝状凹地1567出土土器 …… 105
図87　溝状凹地1569出土土器 …… 106
図88　楽浪系土器 …… 106
図89　土製品 …… 107
図90　石器（1）…… 107
図91　石器（2）…… 108
図92　石器（3）…… 109
図93　石器（4）…… 110
図94　石器（5）…… 11
図95　石器（6）…… 112
図96　石器（7）…… 113

表目次用

表1　放射性炭素年代測定結果…… 12
表2　歴年較正結果…… 12
表3　岩石薄片鑑定結果…… 17
表4　放射性炭素年代測定結果…… 22
表5　今宿五郎江第11次調査出土木製品の
樹種同定結果…… 25
表6　今宿五郎江第11次調査出土木製品の
樹種同定結果一覧…… 29
表7　掲載遺物一覧（1）…… 114
表8　掲載遺物一覧（2）…… 115
表9　掲載遺物一覧（3）…… 116
表10　掲載遺物一覧（4）…… 117
表11　掲載遺物一覧（5）…… 118
表12　掲載遺物一覧（6）…… 119
表13　掲載遺物一覧（7）…… 120
表14　掲載遺物一覧（8）…… 121
表15　搬入土器観察表（1）…… 122
表16　搬入土器観察表（2）…… 123
表17　搬入土器観察表（3）…… 124

別図

図98　今宿五郎江第11次調査出土土器
図99　今宿五郎江第11次調査出土木器
図100　今宿五郎江第11次調査出土金属器

別表

表18　報告遺物一覧
表19　今宿五郎江第11次調査台帳

1　今宿五郎江遺跡第11次調査の概要

1．発掘調査の概要

(1) 発掘調査

今宿五郎江遺跡第11次調査は、発掘作業を2005（平成17）年度着手し、2006年度まで継続した。

調査成果のうち、遺構については2012年度報告した*。続いて、今回出土遺物について報告するが、始めに発掘調査・調査遺構について概要を記す。

今宿五郎江遺跡の立地　今宿五郎江遺跡は、高祖山麓から今津湾に向かって延びる丘陵の末端部に台地発達する台地上に立地する。遺跡の立地する台地は、沿岸砂州の後背湿地に突出するような地形となっている。遺跡の範囲は中央の台地と一段低い周縁の台地、東西に深く入り込んだ谷の一部に及ぶ。全体に北へ緩く傾斜し、最高所で現況の標高８ｍ、西側の低い台地の西縁部に位置する第11次地点調査区では、南東隅で標高5.6ｍ、緩く北へ下った調査区北端で3.2ｍとなる。第11次地点では、調査区の西側を南方から北方に貫流する谷1203が埋没した状態で検出された。

発掘調査　発掘調査は、2005（平成17）年７月８日着手し、調査区を南北４区に区分して進め、調査区西側に遺構分布が広がる可能性が生じたことから、５区を設定した。台地部の調査を終わり、谷1203の調査を進めて、現場作業を2006（平成18）年12月９日完了した。

(2) 調査遺構

第11次調査で検出した遺構は、登録したもの961件、うち台地部で登録したものが大半である。また、登録した以外に遺物の出土がない、あるいは柱痕跡の確認できない小穴が多数分布している。

台地部では、主に谷1203東岸台地の北側に偏って、M1222等不整形状の土壙群が、南に偏って柱穴が分布する。柱穴の分布域と重なって、弧状の溝が群在する。２次調査区から伸びる溝（M1204）も確認した。柱穴から掘立柱建物48棟を復原することができた。１間×１間の構造が多いが、１間×１間、２間×３間規模が多いなかで、建物1531は梁行３間、桁行５間以上を復原できる。

調査区の北東隅では東側を流れる谷1202が埋没している、第２次調査区に谷頭があるもので、岸部では遺物投棄が見られる。

調査区西半部の谷1203底には、南の第12次調査区から続いて溝2495が掘削されおり、調査区内で終わる。溝2195の掘削により、その残土が盛土状に残される。残土層中からは埋置されたような土器の出土があった（M1716～1718）。また、この盛土状の高まりによりそれと、谷岸部との間の谷底に溝状の凹地（M1561・1567）形成され、その底部で纏まった遺物の出土状態が見られる。

溝2495は程なく埋没し、続いて谷1203も埋没してゆく。その過程で、おそらく流水により、浅い凹地が形成される（M1391・1557・1565・2025・2076）。この部分から多数の木器を含む遺物が出土した。

更に谷1203埋没途中、井戸2029が掘削され、その下位堆積層を掘り込んで設置されていたものとみえる。溝2495北端部では、埋没の進行した段階で、杭群2086が打設される。また、東西両岸、特に東岸から土器の投棄が行われて、大量の土器が集中して出土した。その遺物については、一部を土器投棄1569（39層）・1670（40層）として取り上げた。

以上の様に谷1203では、溝2495掘削後に様々な変化、人為的改変が加わっている。それを反映してか、本調査において出土した遺物の大半は谷1203中の出土である。また、このような改変が加わる以前、あるいは古い段階の可能性考えられる矢板列1560・2205・2028の構築も行われている。

* 『今宿五郎江13』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1181集 2013

図1 今宿五郎江遺跡調査区位置図（1：2,000）

※ 数字は、今宿五郎江遺跡調査地点（調査次数）
OTS 大塚遺跡調査地点
TAN 谷遺跡調査地点

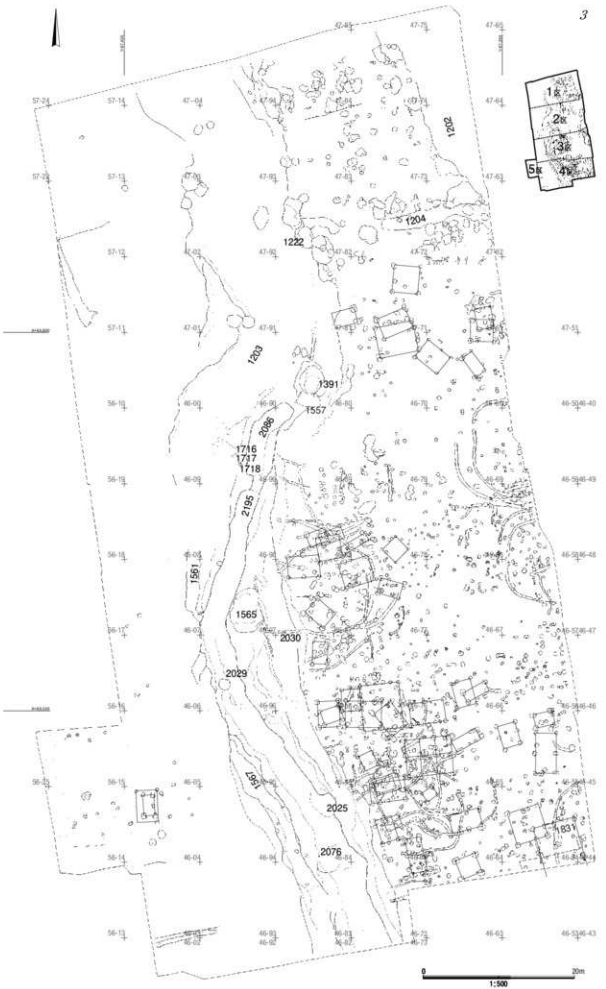


図2 今宿五郎江第11次調査区全体遺構図（1：500）

2．谷1203の土層

第11次地点では、台地部のほかに谷部の調査を行った。本調査で出土した遺物の大半は谷部、特に谷1203からの出土が大半である。調査では、作業の進行順に堆積層を極力細分、層番号を付していったため、必ずしも数字の前後関係が層の上下関係を表していない。また、調査位置ごとに採番した部分もあり、異なる層（番号）で、同一層と見られるものも含まれている。

谷1203の土層について、谷底に掘削された溝2195との関係を含め、再度整理しておきたい。調査地を含む一帯は、東西の谷（谷1202・1203）埋没の後、広く均質な堆積層に覆われる。発掘調査はこの層を除去し、谷部の全体を覆う黒褐色土層（10層）以下について行った。各層は量の多寡はあれ、ほぼ全て遺物包含層である。報告遺物の出土層を大きく分けると以下のようになる。

1）上部層　　谷1203埋没最終段階の部分。谷1203の範囲のほぼ全域に堆積する。粘土質の黒褐色土～泥炭質の黒褐色土層（10層・10b層・11層）の上部、泥炭質の下部に分けることができる（19層・44層）。凹地（M1391・1565・2076）は19層で検出し、19層が埋めている。

11層下面とする位置に、土器投棄層かと思われる遺物の集中出土部が分布する。（27a層・39層・40層・36層・44層・50層）。3区では上下に分層した地点がある（39層/40層）。44層を除き、谷1203東岸に沿う分布である。21層（粘土）、22層・62層（粗砂）もこの位置に部分的に分布する。

2）中部層　　谷底の溝2195埋積層上部。溝が漏斗状に大きく広がった部位の堆積。調査1区では、溝2195を超えて分布する。粗砂・砂礫層、泥炭まじりの粗砂・砂礫層。（23層・28層・48層）

3）下部層　　溝2195下部層。粗砂・細礫層、上・下部に泥炭層の薄層を挟む（45層・49層〈49a ～ c層〉・56層・57層）。最下底には有機物を含まず、細砂薄層を挟む粘土層（67層）が一部に堆積する。

4）基底層　　溝2195掘削以前または、掘削に伴い形成された層である。谷1203東岸から谷底面にかけて、投棄されたように土器が密集出土する（27b層・41層・42層・52層）のは、溝2195掘削以前か、これに掘削に伴い生成したと思われる層が重複する（51層）。溝2195掘削に伴う残土を盛り上げたとおもわれる層が溝の東西岸に分布する（29・53層）。

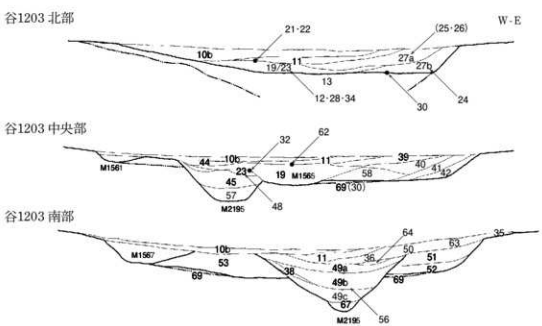


図3　谷 1203 土層模式図

2　今宿五郎江遺跡第11次調査出土遺物

1．出土遺物の概要

今宿五郎江第11次調査の出土遺物は、土器類・木質遺物が大半を占め、石器類が続く。加えて少量の金属製品・ガラス製品が加わるという構成であった。

土器について、整理作業（注記分別）中、出土単位（現場遺物番号）で計量を行った。結果、出土土器の総量は28,634kgとなる。谷1203内からの出土が最も多く、24,903kgで計量総量の67％近くを占めている。これに次いで谷1202出土土器が623kg（２％強）、溝1204出土土器270kg（0.9％強）となる。更に不整な土壙1222（53kg）・1211（49kg）の土器量が目立つが、いずれも谷1203の遺物集中部に重複していることから理解できる。ちなみに、出土量10kg以上の遺構が別に6基、10kg未満の遺構は、769基。そのうち、出土量１kg未満のもの668kg、平均土器量150gとなる。このように、谷1203・1202、溝1204から集中出土したことがわかる。

谷1203においても、偏りがあり、10（b）・11層で6,944kg、総量の30％近くを占めている。

木器と分類するものは、840点余りが出土し、ほかに杭の類が多数出土した。出土層は、下部層（49層）からのものが多く、上部の11層、次いで中部の23層となる点、土器とは相違する。

石器と分類した資料は2,770余点となる。最も多いのは敲打刃器（縁部打ち潰し状石器）でほぼ40％を占める。以下、石鏃（19％）、敲石（13％）、砥石（11％）が主要な構成器種である。出土層は、谷1203上部層に偏り、総数の70％となる、うち10（10b）層・11層から36％近くを占めている。以下、中部層13％、下部層７％、基底層（谷1203底部）４％。谷1203以外からは４％の数出土している。

今回、実測図を示すことのできなかった遺物は、一部写真で補った。後掲一覧表（表７～14）に、遺物分類・出土位置について記し、以下の詳細については、紙数の関係から、別表（データ）で示す。

2．出土遺物

（1）土器・土製品

谷1203については層別、他は遺構別で出土土器を報告する。なお、外来系土器については、集成して、別項で詳述する。

谷1202出土土器（図11～13、76・77）５層、15層出土遺物を示す。５層出土の大形甕315は、細片となったものが、いくつかに纏まって出土した。同様の大形土器は、溝1203では顕著でない。。

谷1204出土土器（図14・77）上半部から、土層の堆積に沿うような状態で出土した。破片が多く、全形のわかる資料は器台が多い。

建物1831・建物1832出土土器（図15）布掘りの柱穴があり、大形の掘立柱建物。12987・12988・12989は建物1831柱穴、R12986は建物1832柱穴出土。小破片～細片資料である。

谷1203 10b層出土土器（図19・77）細片化した資料が谷の岸から一面に分布するような状況が見られた。高坏脚部9080は、中程に線刻による文様を刻んでいる。

谷1203 11層出土土器（図16～18、77～79）部分的に投棄したような土器の出土が見られる。地点により土師器、須恵器の出土があったが、層を分離できるような出土状況は確認できなかった。

谷1203 21層・22層出土土器（図19・79）11層下に部分的に分布する粘土層、粗砂層であり、洗い出しによるような出土状況も観察された。高坏8759は、圧潰したような状態で坏部が細片化して出土した。

谷1203 25層・26層・27（a）層出土土器（図12・21・24・28・79・80）いずれも1・2区の谷岸部に沿って地点的に分布堆積する。27層はa・b層に分離したが、その境界部は不明瞭。上下層の土器が接するようにして出土した。断面観察では、別々の面に沿って堆積していることがわかる。

谷1203 35層・36層・50層出土土器（図23～25・80～83）35層は調査4区、谷東岸、岸部付近の台地状に細片化した土器の密集分布部分。肩部から谷へ向かって堆積する50層、谷中央に近く土器が密集する36層となる。36層では、土器がほぼ完形のまま内部に空隙を残して出土した。

谷1203 39層・40層出土土器（図19・26・27～25・81～83）調査3区、溝2195の蛇行により、広く残された谷底面に、東岸から堆積する。39層上部では細片化した土器が顕著である。この中で後述する薬浪系土器の出土があった。二つに割れた破片を重ねた状態で出土し、その位置に置かれたことがわかるものである（図36-薬浪系土器／土器3702）。

谷1203 19層・44層出土土器（図19・21・79）11層から漸移するような地点もある。土器の出土量は減少し、全形がわかる資料は少ない。44層は谷1203西岸に沿って形成されたもの。図21に示す、壺底部12990は、底面に線刻が残る。先端の整っていない工具で、屈曲する薬研彫り状の沈線を刻む。図19下段4819・11805が44層出土。

谷1203 23層出土土器（図20～22・25・83）粘土・泥炭が主となっていた上部層から変わって、粗砂、部部的に砂礫が。主となる層である。遺物出土量は比較的多い。洗い出しによるような出土状況が見られた。図20に示す鉢9604は、やや特異な土器である。口縁部か不整で、口縁に沿う方向に帯状に被熱したような痕跡が残る。

谷1203 45層・49層出土土器（図22・83・84）溝2106の埋積層。土器総量の％程の出土量である。全形のわかる状態での出土は少なく、遺存状態の良好なものは小形の器形が多い。

谷1203 67層出土土器（図32）溝2195の最下底層。調査区南半部に分布する。出土遺物は少量であるが、壺7528が成立した状態で出土した。

谷1203 27（b）層出土土器（図28・79・80）調査1区、谷東岸から底面に堆積する層で、先述したように上層との境界が不明瞭なため上層資料と思われる土器を含む。調査時の所見では完形の土器を含み、壺は丹塗りのものが多い。

谷1203 41層・42層出土土器（図27～29・33・84・85）調査3区谷1203東岸から谷底面にかけて、流れ込んだ様な状態で土器が密集する。丹塗り土器が顕著である。

谷1203 51層・52層出土土器（図23・30～32・85・86）51層は、溝2195掘削残土、52層は、それに先立つ堆積としたが、52層は谷底面部分のみか。崩落した第11次調査区南壁では、より密集した出土状況が見られた。壺は丹塗りのものが特徴的。破片も比較的大振りである。

谷1203 53層出土土器（図32・85・86）主として調査4区、溝2195両岸にのこる、掘削残土と考えられる層中の出土。全形がわかるような破片が、点々と残っているような状態での出土があった。赤色顔料塗彩の壺が含まれる。2区29層と同じ契機による形成。

井戸2029出土土器（図34）谷1203埋没途中の段階で設置されたものと考えられるが、調査では確認できなかった。底部近くにやや斜めに傾いて甕7479が出土し、その中に落ち込んだ状態で手捏ね土器7475が出土した。後者が浮いた状態で出土していることから、やや遅れて流入したものか。

土器埋置1716～1618（図35）調査2区、溝2195西岸に残る、溝掘削残土層とする粘土層中に埋め込まれた状態で、近接して出土した。土器埋置1716・1717は壺を倒立した状態で、下層の粘土上に据えた状態、土器埋置1718は下に壺底部5395を置き、上に甕上半部5375を乗せた状態で出土した

（2）金属器・金属製品

溝1204出土の銅鏃を除き、谷1203上部層からの出土である。溝2195中・下部層からの出土である。

耳環は、11層の出土。同層には極小量の須恵器が出土する地点がある。鋳造鉄斧は、谷2103上部層からの出土の他溝2195掘削時の残土層とする（51層）、下位の包含層（52層）からの出土があった。図40・42に銅鏡、貨泉、耳環、小銅鐸を、図41・43に銅鏃、鉄斧他、図42・43に鋳造鉄斧を示す。

（3）木器・木製品

以下、分類に沿って報告する。

鍬・柄（図44～51）平鍬を図44～47に、狭鍬を図48・50、又鍬を図48～50、広鍬を図49に示す。鍬を構成する部材として図47下に泥除け、図50・51に柄を示す。狭鍬3644には、柄3644が装着された状態で出土した。鍬とするものの1/2近くは49層の出土、1/4が23層出土。

鋤・柄（図51・52）いずれも一木鋤である。刃先の広狭、形状に幅がある。5589は、握把部の再加工品で、尖端部を削りだしている。

柄振・田下駄（図51・52）柄振2727は、柄を装着した状態で出土した。装着状態を復原図示するが、楔の上下は不明。柄振本体に柄の形状に合わせた抉り込みがある。また柄の切欠きは、鍬柄とは逆の位置が深い。

杵・槌（図53・～56）図53・54に大形、図54・55に小形の資料を示す。大形の2262は柄の形状から両頭の杵と考えられる。小形の資料は、搗面が平滑もしくは球面状にならないものがあり、側面に敲打痕を残すものと合わせて砧（小形の横槌）とする（1861・2237・3706・5802・12735）。図56の2575・5914・6291は横杵、掛矢5841は顕著な敲打痕を残す。6870は広く平滑な搗面をもつ。竪杵とするが、臼に対するものかは不明。

箝・尖頭器（図57～59）長尺細身の尖頭器を箝（やす）とする。大半がイスノキを材に使用するものと見える。先端部に片側の切欠き、全周する削り込みにより、逆刺を作り出すものがある。基部の片側あるいは両側を削ぎ取り薄くするものがあり、束ね合わせて放射状に開く先端部を構成するための加工と考えられる。箝5707には基部近くに切欠き部があり、結束用の加工ともとれるが、他資料には見られない。箝以外に径が大で、先端が筵状に薄くなり、基部端を丸く削るもの（7812・5279・5978・1305）、両端を薄く削ぐもの（7051・7613）などがある。

網枠・櫂（図60）枠部分の他、枠部が分岐する位置の柄（6772）、枠の結束部（4509）がある。

斧柄・鎌柄・工具柄・鞘（図61・62）斧柄の台は、金属斧の袋部を受ける形状に整形される。本地点では横斧が多い。5209は、鶴嘴状の端部に整形されている点得意である。鞘7079は、平滑な端面が残り、鞘口部分か。

工具類・火鑽臼（図63）5979・7065は、全長の1/2程の部分を広く厚い板状に整形する。1858は、板状の材の一端を臍状に削りだし、片側と他端に顕著な磨耗部が残る。5525・7449・5748は土器の器面調整具かとする資料である。前2者は両端部が磨耗、鰐入している。スギ材。5748は端部を上に置いた位置で右側に当たる縁部が顕著に磨耗し、側面観では形成された稜線がSの字状にねじれる。アカガシ材。火鑽臼は、未使用のもの（1876）、部分的に使用したもの（5695・3802・7583）がある。

紡錘車（図63・64）中央部が僅かに厚い形状が多いが、片側がより膨隆するものがあり、その程度に変異がある。5288は、石製であるが、木製の軸が遺存する。図64に、未成品と思われる資料を掲げる。連接して整形を進めている。成品は紡錘車6295のような片側がより膨隆する形状か。

武器・武具（64・65）5366・1236・3634は木鏃。1647・1648は楯の断片。2179は短甲の右前胴部分か。側面に紐孔が残る。5646・4767・7340・8984は弓。後2者は断片で、赤色の顔料で塗彩されている。

容器（図65～71）12530・5351は刳り抜きの壺、2321は底部中央に穿孔がある。2664～4426は筒

形容器の部分。2664は体部断片か、4426は底部、それ以外は蓋。11558・7449は壺を想定するが、全形不明。6831・2722は筒形容器、1881・1862は桶部材。5895は脚付皿。12148・4635・6737は高坏脚部。12732は脚付鉢、7101・5711・6383・7040は脚付槽。5727・3957は小形の槽。図68下は杓子。杓子4411は未成品か。図69は杓文字。図70・71-5729は蓋。

家具（図71・72）図71上・中段に示すのは案（机）部材。図72には刳り抜き椅子を示す。

服飾具（図72）5510は沓。7620は簪。4419・5583は竪櫛。5583は薄く、刃部は刻線。

装飾部材（図73）7037・2733ともに部材であるが、組み合わせの位置、原形不明。

人形・鳥形（図73）1866は取りか。6897は、線刻で顔を表現する。

部材ほか（図74・75）図74は建築にかかる部材。1903は独楽形木製品。459は臍穴のある部材。5610は留め具か。6460は組輪の掛かった棒材。12733は切断材。12734軸状突起ある断片。

(4) 土製品

少数が出土し、図89に示す。8666は、土製勾玉、1022・9086は卵形で、投弾とする。1552は丸玉、9081・8806は大小あるが円盤。5182は、紡錘車とする。孔径は小さく不整、側面形は山形を呈す。

(5) 石器・石製品

先土器時代・縄文時代の石器（図90）8590は２側縁加工のナイフ形石器。4066以下12369までは石鏃。9270・8658は石匙。

磨製石鏃・石斧（図90）3883は磨製石鏃。8603・4996は偏平片刃石斧。9384は柱状片刃石斧。

石包丁（図91）背の部分が直線状と曲線を成すものとがある。各段階の未成品を含む。

太型蛤刃石斧（図91中）完形の資料は無いが、製作各段階の資料が含まれる。

敲打刃器（図91下）剥片縁部に剥離痕が連続するもの・打ち潰し状となるものが典型的であるが、礫の縁辺にも同様の痕跡が残るもの（10105）があり、それも含めた。

紡錘車（図92上）厚い板状が大半、片側が膨隆する例（5221）がある。各段階の未成品を含む。

石錘（整形石錘）（図92下～94）紡錘形（図92）・涙滴形（図93上）・鐘形・環形（図94上）に分類できる。各段階の未成品を含む。紡錘形の石錘は、溝の位置により、縦溝・横溝・縦横溝の分類をすることができる。環形とする石錘は、厚薄の変異がある。

石錘（礫石錘）（図94中）素材礫により角柱形、平形２分類できる。側縁中央部を打ち欠く。極大形の例（9519）がある。平形は更に上下編を打ち欠く交差形のものがある。

浮子（図94）素材軽石に穿孔（1292・8692）、切欠きを行い（9507・12043）、紐掛かりを設ける。

砥石（図95）平形と角柱形とがある。平形の12524・12525には、溝状の窪みが形成されている。砥石10343・10345・10349・8677は鋳型転用と思われる。3180は大形で、広く平滑な凹面が形成されて、石皿とする。

鳥形（図95）1287は滑石材。。頭部の表現が先述した木製鳥形（1366（図73）に似る。

石杵（図96）454以下10344まで、何れも、研磨により、図上の下面が平滑な面となっている。454下面には赤色顔料が遺存する。10344は他資料が砂岩成であるのに対して玄武岩製。研磨面と見た部分は節理面の可能性もある。厚い礫11676の上面は、平坦な平滑面で、僅かに赤色顔料が残る。石杵と組み合わせ使用した石皿か。

(6) 玉類

図95に玉未成品、製作残滓を示す。2294は青色のガラス小玉。図示しないが極小径のガラス小玉が限られた範囲から多数出土した。R2341以下は、碧玉素材の角柱状の加工品である。一見すると石核であるが、剥片となるものの規模が小さく、角柱状に整形されているようにもみえる。玉素材か。

3．外来系土器について

今宿五郎江遺跡の中でも第11次調査地点から朝鮮半島系土器が最も多く出土している。今宿五郎江遺跡・大塚遺跡からは楽浪系土器約40点と三韓系瓦質土器約20点が出土しているが、それらは95％以上が環濠集落域周辺に集中しており、さらにその８割以上が11次調査出土である。また、外来系の弥生土器の出土も多く、本章で合わせて報告することにする（第36～39図、表15～17）。

（1）楽浪系土器（第36図）

図化28点、未図化４点出土している。いずれも灰色泥質胎土で、個体識別が難しいが、25個体前後はあるとみられる。全て鉢（椀）類である。法量は口径11.6～17cm、底径6.9～10cm器高６cm前後の小型のものが多いが、8608は底径12cm、9442は底径15.4cm前後とやや大型である。出土層位は環濠周辺の上層から上面の包含層であり、弥生終末期前後の土器が多い層である。

調整は、内外面凹凸のある回転ナデ、底面は静止糸切で、外底面～底側部を手持ちケズリで調整している。風化しているものが少なくないが、基本的に内外面黒化処理が施されている。内面に暗文が確認されるもの（141、1986、3732、8602、8994、9051）、外底面にX字状のヘラ記号（3702）や円形刺突（8606）のあるものなどがある。暗文（沈線に近いものもある）は斜行の放射線文が多いが、3732は底面に斜格子文も施されている。口縁形態を中心に、以下のように大きく３つに分類することができる。

A類（口縁端部が内傾気味で、単純口縁から肥厚するものを含む。法量等でも細分可）：3702、8607、9203、12984

B類（口端部はA類に準じるが、口縁下と胴中位に突帯状の稜線を作出）：8604、3625、3732、3314、8994

C類（口縁がL字状に外方へ突出）：8660、8602、9438、8664、192、9202

C類は楽浪土城出土土器（谷1985他）にあるが、B類はなく、A類も楽浪土城のものとは、器形等違いが目立つ。「帯方郡の土器」が多いのではないかと推測しているが、その区別については今後の課題である。博多湾沿岸では糸島地域を中心にA～C類の各類例が出土しているが、今宿五郎江遺跡は明らかにこの器種に特化しており、優品を含むことから、「伊都国」内における交易品の集積地であり、市場であったことがうかがえる（森本2010）。

（2）三韓系瓦質土器と陶質土器（第37図）

三韓系瓦質土器は図化12点、未図化４点出土しており、10個体前後とみられる。出土層位は楽浪系土器と同様である。また、陶質土器が１点出土している。9056が、陶質土器大型鉢である。「く」字状口縁であるが、端部に面があり、先端が垂下気味である。４世紀前後、古墳前期段階の、他の瓦質土器よりは新しいものとみられる。

瓦質土器は716と8605を除き、全て縄目タタキの壺である。8501・7621の個体は頸部周辺から底部付近までの破片が出土している。頸部が比較的すぼまっており、胴部に沈線等がみられない。同様のタイプは12次調査でも出土している。

716は半島中西部系、平底タイプの小型甕（鉢）とみられ、３世紀前後に位置づけられるものである。格子目タタキの瓦質土器はこの716と8605のみであった。

（3）外来系の弥生土器、土師器（第38・39図）

12985、11782、11926、1382は、凹線（擬凹線）文を有する内傾口縁の瀬戸内系土器で、型式的に弥生時代後期前半以前のものである（ただし、出土層位は環濠上層）。12985は胴部に瘤のある特異

な壺である。内面は、ケズリでなく、西部瀬戸内系とみられる。11782は比較的精製の作りで、器壁も薄い。口頸内面の凹線や胴部内面のケズリが頸部まで及んでいないことからも、中部瀬戸内ではⅣ様式の型式となる。1382は白っぽい胎土で、頸部下が列点文風となっており、山陰寄りのものとみられる。

9078・9054は櫛描波状文の施された広口長頸壺で、10次の7533と同一型式のものである。弥生後期後半から終末期前半の西部瀬戸内系とみられる。

8788、4049は山陰系壺、12377、8812は山陰系の小型壺や甕、9528、9085は山陰系甕、11867、11862、9164は山陰系鼓形器台、9278は山陰系低脚杯である。8812は弥生後期後半の可能性があるが、多くは弥生時代終末期以降の型式で、9085は古墳前期前半の型式である（古墳前期前半以降のものは他にも一定量出土）。鼓形器台は厚手粗製で、脚台の方が受け部の段より径が大きいので、搬入品ではなく在地産とみられる。低脚杯も、胎土は外来的であるが、器面調整が粗く、在地産と考えられる。

9091は近畿系の垂下口縁広口小型壺で、竹管文や櫛描波状文が施される弥生後期の型式である。胎土は「チョコレート色」生駒西麓のものに近いように見受けられる。

2661は垂下口縁の器台で、脚部の円形透孔は、縦位に２個並び、横位には段違いとなるよう配置されている。やや大型の器台で、近畿西部と西部瀬戸内が候補地であるが、柱状の脚部形態から北近畿の影響が及んだ播磨地域周辺のものとみられる。弥生後期末から終末期であろう。

9079は細かい櫛描文や貝殻列点文を特徴とする精製の小型壺または高杯である。野方久保遺跡、元岡桑原遺跡群、唐津の千々賀遺跡等に類例がある。類例から身下部に重心と稜線がある器形とみられる。文様は山陰等の外来系とみられるが、類似する器形のものを他地域には見出し難い。9206も細線による鋸歯文や羽状文等を特徴とする精製の鉢で、豊前や肥後等にも類例がある。これも文様は瀬戸内等、外来系のものとみられる。9184は脚部に刻目突帯状の段を有する低脚の高杯である。系譜が明確でないが、外来的要素をもつ高杯である。9185は櫛描波状文を有する複合口縁壺で、搬入品かどうかは明確でないが、豊前との関連がうかがえる。8308も「遠賀川以東系」の跳上口縁の甕で、弥生中期後半の型式である。9483は縦長の透孔を有する器台脚部で、「肥前型」とみられる。近隣では、三雲遺跡群で複数個体の肥前型器台が出土しており、大塚遺跡や谷遺跡では有明海沿岸系譜の高杯が出土している。9204、4924は耳状の把手と片口を有する浅鉢形である。瀬戸内や豊前等で出土している、朱の精製用煮沸器に類例を求めることができる。本例には赤色顔料が付着していないものの、12次調査で朱の付着した破片が出土しているほか、Ｌ字形を含む赤色顔料精製用の石杵が11次調査等でも出土しているので、遺跡内で朱の精製が行われていたことは間違いない。

748は布留系の甕で、古墳前期初頭の型式である。今宿五郎江遺跡では、後続型式の布留系甕が多いので、稀少型式として報告したものであるが、福岡平野産の可能性がある。

11次調査出土の外来系土器には弥生後期前半型式の瀬戸内系土器等もあり注目される。後期後半から終末期に増加するが、10次、12次調査地点などでも外来系弥生土器がまとまって出土しており、河内系を含む近畿系の垂下口縁広口壺、西部瀬戸内系の壺や高杯、山陰系の壺、甕、器台、東海系の壺、高杯などがみられる。本州広域から土器が入っている状況は、朝鮮半島系土器からもうかがえる対外交易の拠点遺跡としての性格ゆえであろう（森本2013）。

朝鮮半島系土器について、金武重氏、寺井誠氏（大阪歴史博物館）、久住猛雄氏（福岡市）よりご教示を得ました。末筆ながら御礼申し上げます。

（森本幹彦）

【参考文献】
谷豊信1985「楽浪土城址出土の土器（中）」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』4
寺井誠2007「日本列島出土楽浪系土器についての基礎的研究」『古文化談叢』第56集
寺井誠2009「一の町遺跡および糸島地域出土の朝鮮半島系土器」『一の町遺跡発掘調査概要』志摩町教育委員会
森本幹彦2010「玄界灘沿岸地域における朝鮮半島系土器の様相２－弥生時代後期前後の楽浪系土器と三韓系土器の様相－」『日本出土の朝鮮半島系土器の再検討～弥生時代を中心に～』第59回理蔵文化財研究集会
森本幹彦2013「博多湾沿岸域における外来系土器の様相」『平成25年度九州考古学会総会』研究発表資料集

3　自然科学分析

今宿五郎江遺跡第９次・10次・11次調査出土資料について、自然化学分析を委託実施した。分析は平成21年度・24年度・25年度実施した。

分析内容は、平成21年度、今宿五郎江第９次・10次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定（1）及び第11次調査出土礫の岩石薄片鑑定（2）、24年度、第11次調査出土炭化材の放射性炭素年代測定（3）、25年度、第11次調査出土木製品の樹種同定（4）である。以下分内容別に報告する。分析・報告者については文頭に記す。

１．今宿五郎江第９次・10次調査出土炭化材の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

（1）試料

試料は、今宿五郎江遺跡９次調査で出土した炭化材２点（試料番号6122、6132）と10次調査で出土した炭化材１点（試料番号1895）の合計３点である。各試料の調査番号、遺構、出土層位などは、結果を示した表１に併記する。

（2）分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 5.02のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表された値を記す。

(3) 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を表1に示す。試料番号6122は2,075±20BP、試料番号6132は3,065±25BP、試料番号1895は1,980±20BPであった。

各試料の較正暦年代を表2に示す。測定誤差σの年代でみると、試料番号6122は紀元前2世紀中頃～紀元前1世紀中頃、試料番号6132は紀元前14世紀、試料番号1895は紀元前1世紀末～紀元後1世紀中頃となる。藤尾（2009）に示されている九州北部の編年表に従えば、試料番号6122の年代は弥生時代中期後半に相当し、試料番号6132の年代は縄文時代後期末頃、試料番号1895の年代は弥生時代後期初頭頃の年代にそれぞれ相当する。

表1 放射性炭素年代測定結果

調査次	調査番号	試料番号	遺構	出土層位	種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	Code No.
今宿五郎江9次	0255	6122	4	23層	木炭	2,075±20	−27.03±0.13	10853-1
今宿五郎江9次	0255	6132	427	36層	木炭	3,065±25	−29.28±0.11	10853-1
今宿五郎江10次	0420	1895	427	16層	木炭	1,980±20	−26.39±0.14	10853-1

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

※ 試料番号は遺物登録番号。

表2 暦年較正結果

試料番号	補正年代 (BP)		暦年較正年代 (cal)											相対比	Code No.
6122	2,074±20	σ	cal	BC	148	−	cal	BC	141	cal	BP	2,098	− 2,091	0.075	10853-1
			cal	BC	111	−	cal	BC	48	cal	BP	2,061	− 1,998	0.925	
		2σ	cal	BC	166	−	cal	BC	43	cal	BP	2,116	− 1,993	1.000	
6132	3,066±23	σ	cal	BC	1,389	−	cal	BC	1,313	cal	BP	3,339	− 3,263	1.000	10853-2
		2σ	cal	BC	1,408	−	cal	BC	1,289	cal	BP	3,358	− 3,239	0.961	
			cal	BC	1,282	−	cal	BC	1,269	cal	BP	3,232	− 3,219	0.039	
1895	1,982±22	σ	cal	BC	18	−	cal	BC	14	cal	BP	1,968	− 1,964	0.037	10853-3
			cal	AD	0	−	cal	AD	55	cal	BP	1,950	− 1,895	0.963	
		2σ	cal	BC	39	−	cal	AD	66	cal	BP	1,989	− 1,884	1.000	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4) 統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
5) 相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

※ 試料番号は遺物登録番号。

2．今宿五郎江第11次調査出土礫の岩石薄片鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

（1）試料

試料は、今宿五郎江遺跡11次調査で出土した礫５点（調査番号0531、試料番号11753～ 11757）である。いずれも破損した円礫であり、径５～ 10cm程度である。外観からは、花崗岩類、砂岩、緑色岩、火山岩などそれぞれ異なる岩種であることが推定される。各試料の出土遺構および出土層位などは、結果を示した表３に併記する。また、試料の外観を図４に示す。

（2）分析方法

薄片観察は、岩石を0.03mmの厚さに研磨して薄片にし、顕微鏡下で観察すると、岩石を構成する鉱物の大部分は透光性となり、鉱物の性質・組織などが観察できるようになるということを利用している。

薄片を作製するために試料をダイヤモンドカッターにより22×30×15mmの直方体に切断して薄片用のチップとする。そのチップをプレパラートに貼り付け、＃180～ #800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨する。さらに、メノウ板上で＃2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整する。プレパラート上で薄くなった岩石薄片の上にカバーガラスを貼り付けたものが、観察用の薄片となる。薄片は偏光顕微鏡を用い、下方ポーラーおよび直交ポーラー下において観察記載を行う。

（3）結果

鏡下における各構成物の量比は、薄片上の観察面全体に対して多量（◎：＞50%）、中量（○：20～50%）、少量（△：5～ 20%）、微量（＋：＜5%）およびきわめて微量（±：＜1%）という基準で目視により判定した。鏡下における代表的な箇所については、方ポーラーおよび直交ポーラー下において写真撮影を行い、写真図版として添付した。以下に、各試料の観察記載結果について述べる。

1）**0531-11753**

岩石名：黒雲母角閃石花崗閃緑岩

岩石の組織：完晶質花崗岩状組織（holocrystalline granitic texture）

主成分鉱物

石英：中量存在し、粒径最大1.21mmの他形で不定形状を呈し、斜長石や苦鉄質鉱物の粒間を埋める。径0.3mm以下の細粒なものが大部分を占めている。

カリ長石：少量存在し、粒径最大3.5mmの他形で不定形板状を呈し、マイクロクリン双晶が発達する。石英、長石類、黒雲母、角閃石の粒間を埋める産状を示す。

斜長石：中量存在し、粒径最大3.3mmの半自形～他形で板状～不定形板状を呈し、集片双晶が発達する。カリ長石と接する部分においてはミルメカイト組織が発達する。配向性を示して分布するものが散見される。

黒雲母：少粒存在し、粒径最大0.25mmの他形で不定形柱状を呈し、淡褐色～暗褐色の多色性を示す。斜長石と同様な弱い配向性を示すものが認められる。

角閃石：少量存在し、粒径最大1.72mmの他形で不定形板状を呈し、淡褐色～緑褐色の多色性を示す。細粒な石英をポイキリティックに包有するものが散見される。

副成分鉱物

燐灰石：きわめて微量存在し、粒径最大0.17mmの半自形～他形で六角柱状～不定形状を呈し、角

閃石や黒雲母と接して分布する。

チタン石：きわめて微量存在し、粒径最大0.37mmの他形で不定形楔状～不定形柱状を呈し、褐色を示す。不透明鉱物、黒雲母、角閃石などと接して分布する。

褐簾石：きわめて微量存在し、粒径最大0.25mmの他形で不定形柱状を呈し、淡褐色～暗褐色の多色性を示す。

ジルコン：きわめて微量存在し、粒径最大0.22mmの半自形～他形で柱状を呈し、淡褐色を示す。角閃石や黒雲母と接して分布する。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.28mmの他形で不定形状を呈し、角閃石と接して散在する。

変質鉱物

セリサイト：きわめて微量存在し、粒径最大0.06mmの他形で針状～不定形板状を呈し、斜長石を交代する。

緑簾石：きわめて微量存在し、粒径最大0.27mmの他形で不定形柱状を呈し、無色透光性～淡黄色を示して斜長石を交代する。

炭酸塩鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大0.41mmの他形で不定形状を呈し、斜長石のコアを交代する。

2) **0531-11754**

岩石名：細粒砂岩

岩石の組織：砕屑状組織（clastic texture）

鉱物片

石英：少量存在し、粒径最大0.27mmの他形で破片状を呈して散在する。円磨度の低いものが大部分を占めている。

斜長石：少量存在し、粒径最大0.36mmの他形で板状～破片状を呈し、集片双晶が発達する。セリサイト化しているものが散見される。

白雲母：きわめて微量存在し、粒径最大0.07mmの他形で薄板状を呈する。

角閃石：きわめて微量存在し、粒径最大0.74mmの他形で板状～破片板状を呈し、淡緑色～淡褐色の多色性を示す。

単斜輝石：微量存在し、粒径最大0.48mmの他形で柱状～不定形柱状を呈し、淡緑色を示す。結晶内部の割れ目に沿って粘土鉱物化しているものが散見される。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.29mmの他形で不定形柱状～不定形状を呈する。

岩片

デイサイト：きわめて微量存在し、粒径0.55～ 1.15mmで亜円礫状を呈し、角閃石の斑晶が認められ、石基は珪長質鉱物および変質鉱物の緑泥石で埋められる。

安山岩：少量存在し、粒径0.10～ 0.49mmで亜円礫～亜角礫状を呈し、斜長石の微斑晶を含み、石基はインターサータル組織を示す。

基質

粘土：少量存在し、粒径最大0.002mmで微細粒状～不定形状を呈し、砕屑片の粒間を埋める。

緑泥石：微量存在し、粒径最大0.03mmの他形で繊維束状を呈し、淡緑色を示す。

緑簾石：微量存在し、粒径最大0.14mmの他形で不定形柱状～不定形状を呈し、淡黄色～淡褐色の多色性を示す。砕屑片の粒間に点在する。

酸化鉄：少量存在し、隠微晶質で微細不定形状を呈し、暗褐色を示して基質中に広範に分布する。

肉眼的な褐色の色調の原因物質となっている。

3) 0531-11755

岩石名：アクチノ閃石緑色岩

岩石の組織：交代状組織（replacement texture）

主成分鉱物

斜長石：少量存在し、粒径最大1.55mmの他形で不定形板状を呈し、無双晶で波状消光を示す。一部、集片双晶を示すものも認められる。

アクチノ閃石：中量存在し、粒径最大3.1mmの他形で針状～不定形板状を呈し、淡褐色～淡緑色の多色性を示す。弱い定向配列を示して分布する。板状を呈するものは径0.5mm以上の比較的粗粒なものが主体となっているのに対し、針状を呈するものは、板状結晶のリムに分布する。

緑簾石：微量存在し、粒径最大0.33mmの半自形～他形で柱状～不定形状を呈し、淡黄色～淡緑色を示す。針状のアクチノ閃石と共生して散在する。

副成分鉱物

不透明鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大0.05mmの他形で不定形粒状を呈し、アクチノ閃石に包有される。

変質鉱物

炭酸塩鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大0.22mmの他形で不定形状を呈して点在する。

水酸化鉄：きわめて微量存在し、粒径最大0.01mmの他形で微細不定形状を呈して点在する。

4) 0531-11756

岩石名：かんらん石玄武岩

岩石の組織：インターグラニュラー組織（intergranular texture）

斑晶

単斜輝石：きわめて微量存在し、粒径0.3～ 0.57mmの他形で柱状～不定形柱状を呈し、淡褐色を示す。累帯構造や波状消光を示すものが認められる。

かんらん石：少量存在し、粒径0.3～ 1.32mmの半自形～他形で不定形柱状～不定形粒状を呈し、無色～淡褐色を示す。結晶表面部からイディングサイト化が進行しており、結晶表面部は褐色を呈している。結晶内部には不規則な割れ目が発達する。

石基

斜長石：中量存在し、粒径最大0.16mmの半自形～他形で柱状～不定形柱状を呈し、集片双晶が発達する。弱い定向配列を示して分布する。

単斜輝石：中量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状を呈する。淡褐色を示して石基斜長石の粒間に散在する。斑晶と同様に波状消光を示すものが散見される。細粒な不透明鉱物と共生して径0.8mm以下のオパサイト状の柱状～粒状集合体を形成しているものも認められる。

かんらん石：微量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状～不定形粒状を呈し、無色～淡褐色を示して石基中に点在する。斑晶と同様にややイディングサイト化しているものが多い。

不透明鉱物：少量存在し、粒径最大0.26mmの半自形～他形で四角形、六角形または粒状～不定形粒状を呈して散在する。

変質鉱物

水酸化鉄：微量存在し、隠微晶質で微細不定形状を呈し、褐色を示してかんらん石を汚染している。

5) 0531-11757

岩石名：黒雲母ホルンフェルス

岩石の組織：砕屑状組織（clastic texture）

鉱物片

石英：微量存在し、粒径最大0.09mmの他形で破片状～粒状を呈し、散点状に分布する。やや円磨されているものが多い。鉱物片として含まれる。

カリ長石：きわめて微量存在し、粒径最大0.06mmの他形で不定形板状を呈し、無双晶でマイクロパーサイト組織を示す。

斜長石：きわめて微量存在し、粒径最大0.09mmの他形で不定形板状を呈し、無双晶でやや汚濁している。

燐灰石：きわめて微量存在し、粒径最大0.04mmの他形で破片柱状を呈する。

ジルコン：きわめて微量存在し、粒径最大0.04mmの他形で粒状を呈する。淡褐色を示し、円磨状を呈する。

基質

黒雲母：多量存在し、粒径最大0.14mmの他形で板状～微細不定形板状を呈し、淡褐色～褐色の多色性を示す。砕屑片の粒間を密に埋めている。

緑廉石：微量存在し、粒径最大0.10mmの他形で不定形柱状～不定形状を呈し、淡褐色を示す。結晶度はきわめて不良で、微細不定形状粒子が集合して点在する。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.02mmの他形で微細粒状～微細不定形状を呈して点在する。

クラック

微量存在し、幅最大0.08mmで薄片上に５状程度分布し、連続性は良好で30mm以上のものも認められる。

（4）考察

ここでは、日本の地質「九州地方」編集委員会（1992）、久保ほか（1993）および唐木田（1994）などの既存資料により、今回鑑定された各岩石が今宿五郎江遺跡の周辺を分布域とするか否かについて検討してみたい。

0531-11753の黒雲母角閃石花崗閃緑岩は、九州北部では糸島花崗閃緑岩と呼ばれる岩体として背振山地から糸島半島まで広く分布している。本遺跡周辺では、糸島平野東側の長垂山に部分的に分布し、糸島平野南側の山地斜面にも糸島花崗閃緑岩が分布する。さらに、後述する今宿五郎江遺跡の北東方に位置する今山も基部は、糸島花崗閃緑岩により構成されている。これらの分布状況から、黒雲母花崗閃緑岩は、糸島平野周縁の山地から比較的容易に入手できる石材であると言える。

0531-11754の細粒砂岩については、糸島平野周辺に堆積岩類の分布はなく、最も近い分布域として福岡平野西側の鴻巣山丘陵や福岡平野東側の東平尾丘陵などがあげられる。これらの丘陵は、いずれも古第三紀の始新世や漸新世に堆積した砂岩や礫岩などから構成されている。

0531-11755のアクチノ閃石緑色岩および0531-11757の黒雲母ホルンフェルスは、九州北部では三郡変成岩に伴われる岩石であると推定される。三郡変成岩が広く分布する地域は、その名が示す福岡平野北東方に広がる三郡山地と福岡県西部の背振山地であるが、糸島平野周辺でも能古島および今津半島に分布が認められている。本遺跡から出土した試料は、これら周辺地域の三郡変成岩に由来する可能性がある。

0531-11756のかんらん石玄武岩の産地としては、本遺跡の北西方約２kmに位置する今山の頂上部

に見られるアルカリ玄武岩を第一の候補としてあげることができる。今山産の玄武岩は、弥生時代の石斧の石材に使用されているといわれている。なお、同質の玄武岩は、能古島にも広く分布しており、今山の玄武岩との区別はつかない。

以上述べたように、今回対象試料とされた礫は、細粒砂岩を除けば概ね周辺域で入手できる石材であると言うことができる。細粒砂岩については、最短でも10km程度の移動を伴っていることが推定される。今後とも、糸島平野に分布する弥生時代遺跡における石材の資料を蓄積することができれば、石材の入手という生業活動の一端の実態がさらに明らかになるものと期待される。

引用文献

藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代 西本豊弘編 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代 雄山閣 9-54.

唐木田芳文・富田宰臣・下山正一・千々和一豊 1994 福岡地域の地質. 地域地質研究報告（5万分の1図幅） 地質調査所 192p.

久保和也・松浦浩久・尾崎正紀・牧本 博・星住英夫・鎌田耕太郎・広島俊男 1993 20万分の1地質図幅 福岡 地質調査所.

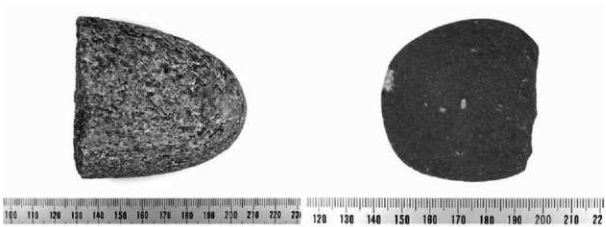
日本の地質「九州地方」編集委員会 1992, 日本の地質9 九州地方, 共立出版, 371p.

表3 岩石薄片鑑定結果

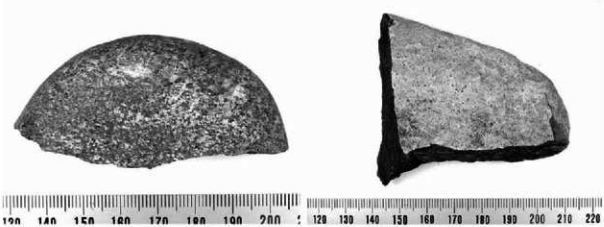
調査次	調査番号	試料番号	遺構	出土層位	種類	鑑定結果（岩石名）
今宿五郎江11次	05311	11753	1565	19層	礫	黒雲母角閃石花崗閃緑岩
今宿五郎江11次	05311	11754	1203	44層	礫	細粒砂岩
今宿五郎江11次	05311	11755	1203	11層	礫	アクチノ閃石緑色岩
今宿五郎江11次	05311	11756	1203	48層	礫	かんらん石玄武岩
今宿五郎江11次	05311	11757	1527		礫	黒雲母ホルンフェルス

※ 試料番号は遺物登録番号。

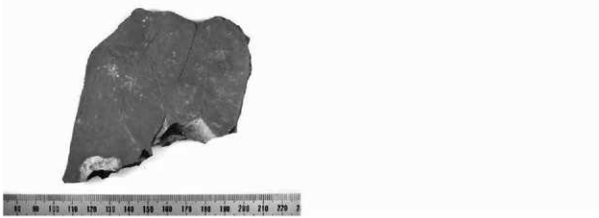
図版1　薄片鑑定試料



1. 0531-11753　　2. 0531-11754

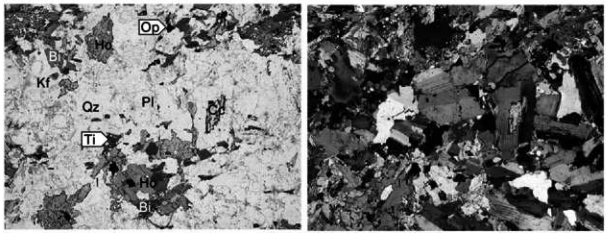


3. 0531-11755　　4. 0531-11756

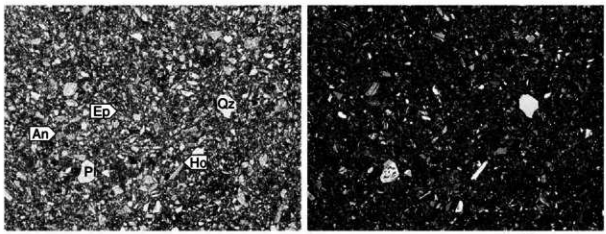


5. 0531-11757

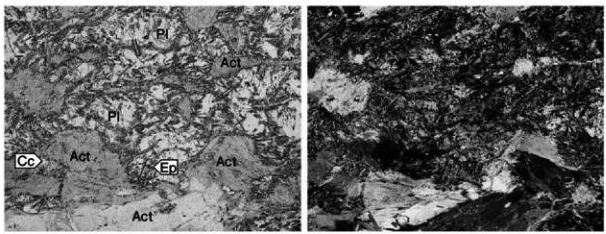
図4 薄片鑑定試料



1. 0531-11753　黒雲母角閃石花崗閃緑岩　0.5mm



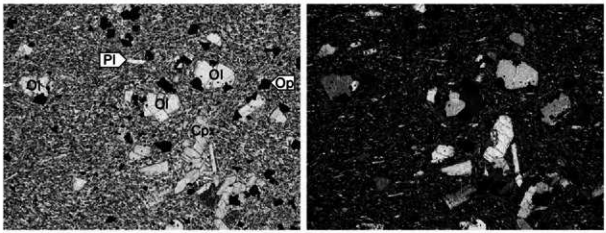
2. 0531-11754　細粒砂岩　0.5mm



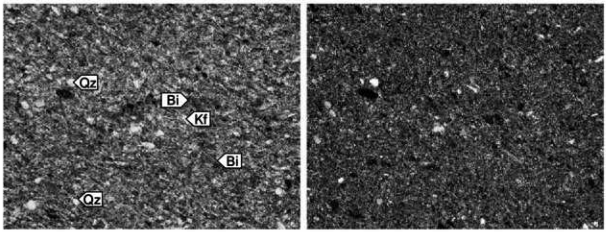
3. 0531-11755　アクチノ閃石緑色岩　0.5mm

Qz：石英　Kf：カリ長石　Pl：斜長石　Bi：黒雲母　Ho：角閃石　Act：アクチノ閃石　Ep：緑簾石
Ti：チタン石　Op：不透明鉱物　Cc：炭酸塩鉱物　An：安山岩
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図5 薄片(1)



4. 0531-11756　かんらん石玄武岩



5. 0531-11757　黒雲母ホルンフェルス

Qz：石英　Kf：カリ長石　Pl：斜長石　Ol：かんらん石　Cpx：単斜輝石　Bi：黒雲母
Op：不透明鉱物
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図6 薄片(2)

3．今宿五郎江第11次調査出土炭化材の放射性年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、今宿五郎江遺跡11次調査区で検出された弥生時代後期の遺物が出土する溝、および弥生時代中期後半の遺物が投棄されたような状態で出土する谷斜面部の包含層の形成年代に関する情報を得ることを目的として、AMS法による放射性炭素年代測定を実施する。

（1）試料

試料は、弥生時代後期の遺物が出土する溝（M1204）の６層から出土した炭化材（№1675）と、南へ深く入り込む谷部東岸に形成された遺物包含層（M1338）の42層から出土した炭化材（№2923）の２点である。

（2）分析方法

試料に土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによるアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1㎜の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表している。暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比は、σ、2σの範囲をそれぞれ１とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

（3）結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表４に示す。同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は、№1675が2,030±20BP、№2923が2,040±20BPを示す。また、誤差を2σで計算した暦年

較正結果（確率１）は、№1675がcal BC104-cal AD25（相対比0.999）、№2923がcal BC111-cal AD23（相対比0.984）である。

なお、測定に用いた炭化材は、一部を分割して樹種同定を併せて実施した。いずれも広葉樹であり、№1675がクスノキ科、№2923がスダジイに同定された。各種類の解剖学的特徴を以下に記す。

・スダジイ（Castanopsis cuspidata var. sieboldii (Makino) Nakai）　ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に１－２個幅で放射方向に配列する。孔圏部は３－４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～ 20細胞高。

・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または２～３個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、１～２細胞幅、１～ 20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

表4　放射性炭素年代測定結果

調査・試料番号	遺構 層位	材質 種類	処理 方法	測定年代 BP	δ 13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code№
							誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比	
№0531 №1675	m1204 6層	炭化材 クスノキ科	AAA	2,090 ± 20	−28.53 ± 0.32	2,030 ± 20 (2,032 ± 21)	σ	cal BC 52 － cal AD 2	cal BP 2001 － 1948	1.00	IAAA-122618
							2σ	cal BC 104 － cal AD 25	cal BP 2053 － 1925	0.999	
								cal AD 44 － cal AD 46	cal BP 1906 － 1904	0.001	
№0531 №2923	m1388 42層	炭化材 スダジイ	AAA	2,080 ± 20	−27.27 ± 0.23	2,040 ± 20 (2,038 ± 22)	σ	cal BC 87 － cal BC 79	cal BP 2036 － 2027	0.117	IAAA-122619
								cal BC 55 － cal AD 1	cal BP 2004 － 1949	0.883	
							2σ	cal BC 154 － cal BC 140	cal BP 2103 － 2089	0.016	
								cal BC 111 － cal AD 23	cal BP 2060 － 1927	0.984	

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。

2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

4）暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV8.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。暦年の計算には、補正年代に（）で暦年較正用年代として示した、１桁目を丸める前の値を使用している。年代値は、１桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は１桁目を丸めていない。統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。）相対比は、σ、2σのそれぞれを１とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

※ 試料番号は遺物登録番号

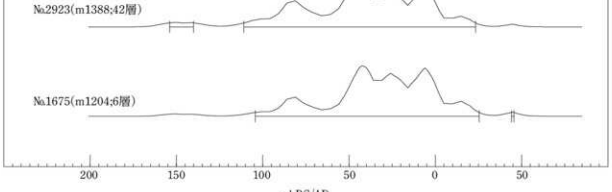


図7　歴年較正結果

（4）考察

弥生時代後期の遺物が出土する溝（M1204）埋土６層から出土した炭化材（№1675）は、14Ｃ補正年代で2,030±20BP、暦年較正年代でcal BC104-cal AD25を示した。一方、谷斜面の弥生時代中期後半の遺物を伴う遺物包含層（M1338）の42層から出土した炭化材（№2923）は、補正年代で2,040±20BP、暦年較正年代でcal BC111-cal AD23を示した。これら２点の年代測定結果および暦年較正年代は、誤差範囲内で一致していた。また、これらの年代値は、北部九州の既存の測定事例（西本,2006）と比較すると、弥生時代中期末～後期初頭頃の年代値に相当している。

今回調査を実施した遺構は、出土遺物から見れば、若干の時期差が生じていることになるが、年代測定結果からは有意な差をみいだすことができなかった。測定対象とした炭化材は、いずれも樹皮が残存していない小破片であり、得られた測定値は実際の伐採・使用年代よりも古い年代を示している可能性がある。そのため、ほぼ同時期の年代値を示した可能性がある。今後、各時期の土器付着物等の年代測定による検証が必要と思われる。

引用文献

西本豊弘（編） 2006,弥生時代の新年代 新弥生時代のはじまり第１巻 雄山閣 143p.

4．今宿五郎江第11次調査出土木製品の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

（1）はじめに

高祖山麓の丘陵末端の、砂丘後背湿地への突出部に立地する今宿五郎江遺跡で出土した木製品について、樹種同定を行なった。

（2）試料と方法

試料は、埋没した谷であるM1203から41点、凹地であるM1391から１点、凹地であるM1565から２点、凹地であるM2025から１点の、出土木製品45点である。時期については、発掘調査所見より、弥生時代後期～終末であると考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

生材の樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

（3）結果

同定の結果、針葉樹であるカヤとマツ属複維管束亜属、スギの３分類群と、広葉樹であるノグルミとクリ、ツブラジイ、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ）、コナラ属クヌギ節（以下クヌギ節と呼ぶ）、ムクノキ、クスノキ、クスノキ科、ツバキ属、サカキ、イスノキ、エゴノキ属、種不明の散孔材の13分類群の、計16分類群が産出した。

サカキが最も多く８点みられ、スギとクスノキが各５点、クリが４点、クヌギ節とムクノキ、イスノキが各３点、カヤとツブラジイ、アカガシ亜属、クスノキ科、ツバキ属が各２点、マツ属複維管束亜属とノグルミ、エゴノキ属、散孔材が各１点産出した。結果を表５に、一覧を付表６に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

1）カヤ　Torreya nucifera (L.) Siebold et Zucc.　イチイ科　図８　1a-1c（No.5351）

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急であるが、試料では２年輪をまたいで採取できなかった。放射組織は単列で、高さ１～７列となる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、１～４個みられる。また仮道管の内壁には２本１対のらせん肥厚がみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。

2）マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科　図８　2a-2c（No.12547）

仮道管と放射仮道管、放射組織、垂直および水平樹脂道で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は、単列のものと、水平樹脂道を含む多列のものがみられる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側に向かって鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。アカマツもクロマツも材質は重硬で、切削等の加工は容易である。

3）スギ　Cryptomeria japonica (L.f.) D.Don　スギ科　図８　3a-3c（No.5525）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ１～９列となる。分野壁孔は大型のスギ型で、普通１分野に２個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

4）ノグルミ　Platycarya strobilacea Siebold et Zucc.　クルミ科　図8　4a-4c（No.12530）

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～5列となる。

ノグルミは本州西南部、四国、九州に分布し、荒地や急傾斜地などに生育することの多い、陽樹の落葉高木の広葉樹である。材はやや重く、割れにくい。

5）クリ　Castanea crenata Siebold. et Zucc.　ブナ科　図8　5a-5c（No.5895）

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列で同性となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

6）ツブラジイ　Castanopsis sieboldii（Makino）Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba　ブナ科　図8･9　6a-6c（No.7079）

年輪のはじめに大型の道管が不連続に1～3列並び、晩材部では急に径を減じた薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと集合放射組織がみられる。

スダジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難でない。

7）コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図9　7a-7c（No.5748）

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

表5　今宿五郎江第11次調査出土木製品の樹種同定結果

樹種/器種	斧柄	火鑽臼	刷毛目調整工具	横杵	紡錘車	網枠	網枠/部材	弓	鞘	盾	短甲	沓	櫛	箭	刳物盌	壺	高坏	盤	桶	筒形容器	筒形容器蓋	杓子	杓文字	案	椅子
カヤ						1										1									
マツ属複維管束亜属	1																								
スギ			2							1									1	1					
ノグルミ															1										
クリ																	1				1	1		1	
ツブラジイ									1																1
コナラ属アカガシ亜属			1																						
コナラ属クヌギ節	1			1																		1			
ムクノキ								2																	
クスノキ											1	1					1	1							
クスノキ科		2																							
ツバキ属														2											
サカキ	7						1																		
イスノキ					2										1										
エゴノキ属																							1		
散孔材																									
合計	9	2	3	1	2	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、ここでのコナラ属アカガシ亜属はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬、強靭で耐水性があり、切削加工は困難である。

8）コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図9　8a-8c（No.5914）

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では径を減じた厚壁で丸い道管が、放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

9）ムクノキ　Aphananthe aspera (Thunb.) Planch.　ニレ科　図9　9a-9c（No.5733）

壁の厚い中型の道管が単独ないし2～3個複合して疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は4列以上の帯状、周囲状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～4列となる。放射組織内には菱形の結晶が見られる。

ムクノキは温帯の日当たりのよい適潤地を好み、海に近い所に比較的多い落葉高木の広葉樹である。材の強さは中庸であるが、靭性があり割裂しにくい。切削加工等は中庸である。

10）クスノキ　Cinnamomum camphora (L.) J.Presl　クスノキ科　図9・10　10a-10c（No.5510）

単独ないし2～3個複合した中型の道管が、晩材部にかけて徐々に径を減じてゆく半環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、1～2列となる。また放射組織や木部繊維には、油細胞が確認できる。

クスノキは本州中南部、四国、九州などの暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材の堅さはやや軽軟～中庸で、切削加工等は容易である。また、材は精油分を含み水湿に強く、耐朽性、耐虫性が極めて高い。

11）クスノキ科　Lauraceae　図9・10　11a-11c（No.1876）

やや小型の道管が単独ないし2～3個複合してやや疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が直立する異性で、幅1～3列となる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

12）ツバキ属　Camellia　ツバキ科　図10　12a-12c（No.4419）

角張った小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、幅1～3列となる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

13）サカキ　Cleyera japonica Thunb.　ツバキ科　図10　13a-13c（No.5581）

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は、20～30段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端2～4列が直立する異性で、1～2列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靭、堅硬で、切削加工は困難である

14）イスノキ　Distylium racemosum Siebold et Zucc.　マンサク科　図10　14a-14c（No.3652）

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は20～40段程度の階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、幅1～2列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靭、堅硬で、切削加工は困難である。

15）エゴノキ属　Styrax　エゴノキ科　図10　15a-15c（No.6680）

小型の道管が単独ないし2～4個放射方向に複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は晩材部で線状となる。道管は10～20段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1～4列が直立となる異性で、幅1～4列となる。

エゴノキ属は温帯から亜熱帯の低山地、原野に分布する落葉小高木の広葉樹である。材はやや重くて靭性があり、切削加工などは容易である。

16）散孔材　Diffuse porous wood

横断面で小型の道管がほぼ単独で散在するのが確認できたが、材の保存が悪くて接線断面が明瞭に確認できなかった。放射断面では、道管内に20～40段程度の階段穿孔がみられ、放射組織は上下端1～4列が直立する異性であった。そのため散孔材までの同定に留めた。

（4）考察

最も試料数の多かった斧柄では、サカキが7点、マツ属複維管束亜属とクヌギ節が各1点みられた。またクヌギ節は横杵でも1点みられ、耐朽性を必要とする器種にみられた。サカキとクヌギ節は堅硬な樹種で、マツ属複維管束亜属も針葉樹の中では堅い部類に含まれる（伊東ほか，2011）。斧柄は強い負荷のかかる器種であり、堅硬な樹種を選択していたと考えられる。

他の堅硬な樹種では、アカガシ亜属が刷毛目調整工具でみられたが、それ以外にスギも2点みられた。木取りはいずれも柾目だが、スギの刷毛目調整工具は、土器の調整によって早材部が摩耗し、残存した晩材部によって特徴的な調整痕が残るようになっていた。アカガシ亜属の刷毛目調整工具は、調整による摩耗は確認できたが、特定の部位が残存するような摩耗はせず、全体的に摩耗していた。アカガシ亜属は堅硬であるのに対し、スギは軽軟な樹種である（伊東ほか，2011）。よって刷毛目調整工具では、異なる土器の調整痕を施すために、スギとアカガシ亜属という、材質の異なる2種類の樹種を選択利用していたと考えられる。

またイスノキでは紡錘車が2点と簪が1点みられ、ツバキ属では櫛が2点みられた。共に堅硬な樹種である（伊東ほか，2011）。北九州市金山遺跡Ⅵ区で出土した、弥生時代後期～古墳時代初頭の紡錘車はアカガシ亜属とイスノキ、櫛はイスノキがみられており、堅硬な樹種が選択されている（伊東・山田編，2012）。今宿五郎江遺跡でも堅硬な樹種が用いられ、同様の傾向を示した。

ムクノキでは、弓が2点と装飾部材が1点みられ、木取りはいずれも芯去削出であった。ムクノキの材は靭性があって割裂しにくく、加工性が中庸である（伊東ほか，2011）。弓はしならせるという動作が必要であり、そのため靭性の高いムクノキを利用したと考えられる。また割裂しにくく、ある程度加工性が良いため、装飾板として利用していた可能性がある。

クスノキは短甲と沓、高坏、盤、装飾板でみられた。クスノキは比較的軽軟だが加工性が良く、耐朽性、耐虫性が極めて高いという材質を持つ（伊東ほか，2011）。そのため長期間使用する木製品では、耐朽性が高いクスノキを選択していた可能性がある。福岡市の弥生時代後期～古墳時代初頭のカキ遺跡でも、クスノキは板や、剜物の椀や鉢といった木製品に利用されている（伊東・山田編，2012）。

九州地方の木製品の集成では、弥生時代中期の沓や弥生時代後期～古墳時代初頭の容器でのクスノ

キの利用や、竪櫛や紡錘車でイスノキやツバキ属の利用が報告されており（山口，2012）、今宿五郎江遺跡における用材と同様の傾向を示した。しかし斧柄については、縄文時代晩期の北部九州地方で石斧の斧柄に堅硬なアカガシ亜属が多く利用されることは確認されているが（山口，2012）、弥生時代後期の傾向は不明であった。今回の斧柄の同定結果でも堅硬なサカキが多くみられ、弥生時代後期の斧柄でも堅硬な樹種が好まれている可能性が高い。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌 238p 青海社.

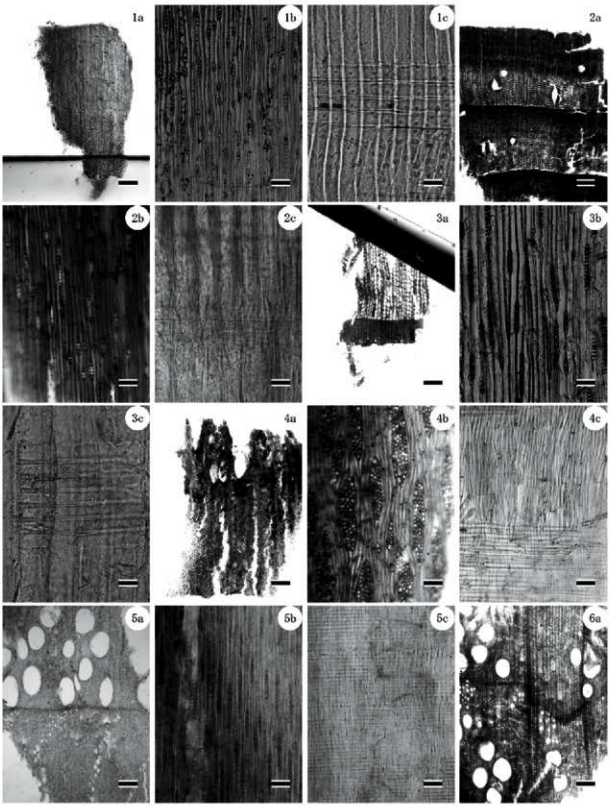
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学 449p 青海社.

山口譲治（2012）九州・沖縄（1）―古代以前― 伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学」; 300-311 青海社.

表6　今宿五郎江第11次調査出土木製品の樹種同定結果一覧

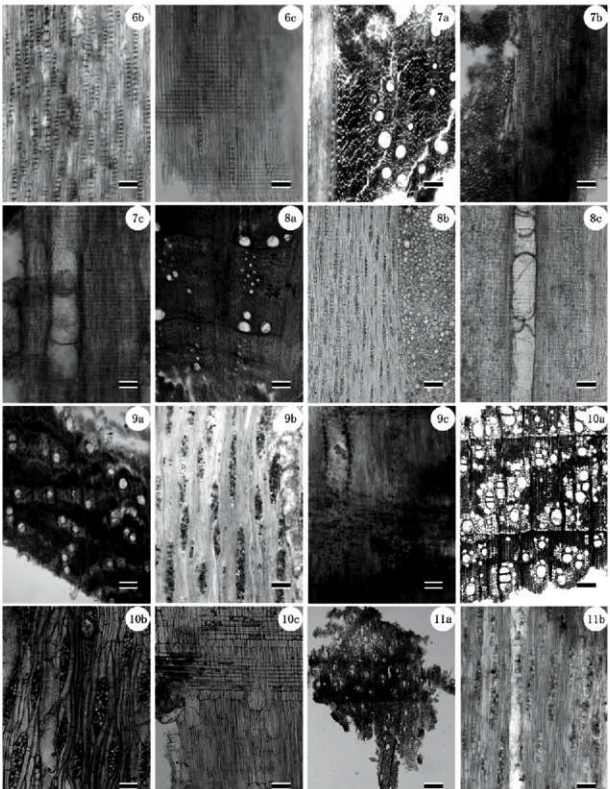
No.	出土遺構	層　位	器　種	樹　種	木取り	備　考　1	備　考　2
1647	M1203	23層	盾	スギ	追柾目	丹塗り盾	断片
1841	M1203	23層	盤	クスノキ	縦木取り	板状脚付盤	半ばを欠く
1842	M1203	23層	杓子	コナラ属クヌギ節	芯去削出	長直柄	端部を欠く
1866	M1203	23層	鳥形	散孔材	芯去削出		部分を欠く
1876	M1203	23層	火鑽臼	クスノキ科	追柾目	未使用	一部を欠く
1881	M1203	23層	桶	スギ	板目	曲物底板/脚付/透かし入り	破片
2179	M1203	26層	短甲	クスノキ	追柾目	右前胴部材	袖部破片
2722	M1391		筒形容器	スギ	追柾目	白木刳り貫き	小破片
2947	M1203	44層	筒形容器/蓋	クリ	横木取り	漆塗	1/3破片
3652	M1203	28層	紡錘車	イスノキ	板目	未成品	完存
4419	M1203	19層	棚	ツバキ属	柾目	竪棚/挽き棚	部分欠く、乾燥収縮
4767	M1565	19層	弓	ムクノキ	芯去削出	丸木弓	一端を欠く
5209	M1565		斧柄	サカキ	芯去削出	鉄斧用縦斧膝柄	末端部核
5351	M1203	45層	盾	カヤ	縦木取り	台付	小破片
5510	M1203	45層	沓	クスノキ	板目		半ばを欠く
5525	M1203	45層	刷毛目調整工具	スギ	柾目	凹型	ほぼ完存
5581	M1203	23層	斧柄	サカキ	芯持丸木	袋状鉄斧用縦斧膝柄	台部を部分的に欠く
5583	M1203	23層	棚	ツバキ属	柾目	未成品/竪棚	棚刃尖端を欠く
5646	M1203	23層	弓	ムクノキ	芯去削出	丸木弓	一端を欠く
5647	M1203	23層	斧柄	サカキ	芯持丸木	横斧膝柄	柄を欠く
5695	M1203	49層	火鑽臼	クスノキ科	芯持削出		一端を欠く
5696	M1203	49層	紡錘車	イスノキ	板目	片面膨隆	半ばを欠く
5733	M1203	49層	装飾部材	ムクノキ	芯去削出		部分的に欠く
5748	M1203	49b層	刷毛目調整工具	コナラ属アカガシ亜属	柾目		ほぼ完存
5799	M1203		杓子	クリ	横木取り	斜め把手	杓子半ばを欠く
5828	M1203	49b層	斧柄	サカキ	芯持丸木	小型鉄斧横斧膝柄	中間部を欠く
5895	M1203	49b層	高坏	クリ	横木取り		坏部破片
5914	M1203	49b層	横杵	コナラ属クヌギ節	芯持丸木		柄端部を欠く
6318	M2025		案	クリ	板目	天板	半ばを欠く
6366	M1203	23層	斧柄	サカキ	芯持丸木	鉄斧用横斧柄	台部一部を欠く
6542	M1203	23層	椅子	ツブラジイ	芯去削出	刳物板状2脚	脚部を含む小破片
6582	M1203	23層	斧柄	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	袋状鉄斧用縦斧膝柄	柄の大部分を欠く
6772	M1203	23層	網枠/部材	サカキ	芯持丸木		柄基部破片
6787	M1203	49層	高坏	クスノキ	横木取り		脚部破片
6880	M1203	49層	杓文字	エゴノキ属	芯去削出		柄端部を欠く
6897	M1203	49b層	人形	コナラ属アカガシ亜属	芯持削出		部分的に欠く
7037	M1203	49b層	装飾板	クスノキ	柾目		一端を欠く
7079	M1203	49b層	鞘	ツブラジイ	追柾目		断片
7449	M1203	48層	刷毛目調整工具	スギ	柾目	凹型	腐食
7620	M1203	48層	簪	イスノキ	柾目	三本歯	頭部残存
12089	M1203	22層	斧柄	サカキ	芯持丸木	鉄斧縦斧膝柄	末端部欠く
12258	M1203	49b層(下)	斧柄	サカキ	芯持丸木	鉄斧用横斧膝柄	柄端部を欠く
12338	M1203	49層	網枠	カヤ	芯持丸木		半ばを欠く
12530	M1203	55層	刳物盌	ノグルミ	横木取り	無頸平底	端部を欠く
12547	M1203	11層	斧柄	マツ属複維管束亜属	芯持丸木	横斧膝柄	台部を部分的に欠く

※試料番号は遺物登録番号。



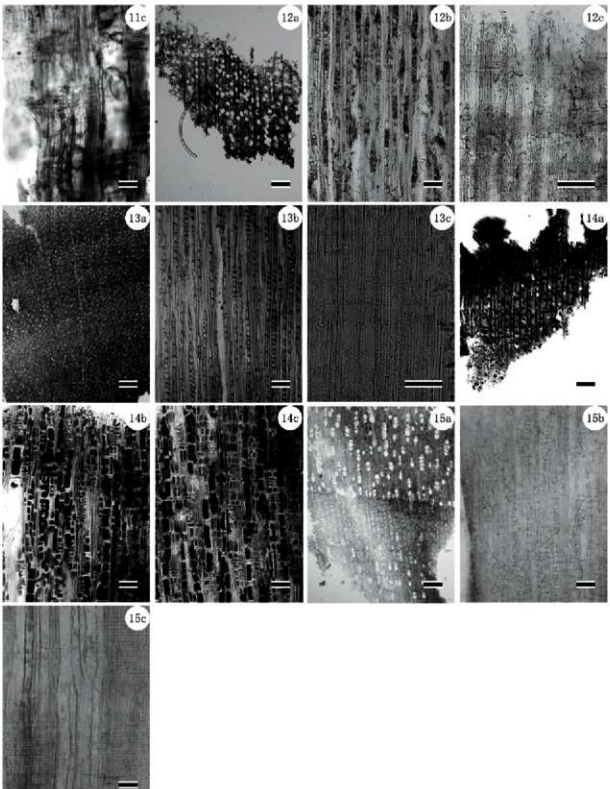
1a-1c.カヤ（No.5351）、2a-2c.マツ属複維管束亜属（No.12547）、3a-3c.スギ（No.5525）、4a-4c.ノグルミ（No.12530）、5a-5c.クリ（No.5895）、6a.ツブラジイ（No.7079）
a:横断面（スケール=250 μm）、b:接線断面（スケール=100 μm）、c:放射断面（スケール=1-3:25 μm・4-5:100 μm）

図8 今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真(1)



6b-6c.ツブラジイ（No.7079）、7a-7c.コナラ属アカガシ亜属（No.5748）、8a-8c.コナラ属クヌギ節（No.5914）、
9a-9c.ムクノキ（No.5733）、10a-10c.クスノキ（No.5510）、11a-11b.クスノキ科（No.1876）
a:横断面（スケール=250 μm）、b:接線断面（スケール=100 μm）、c:放射断面（スケール=100 μm）

図9 今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真(2)



11c.クスノキ科（No.1876）、12a-12c.ツバキ属（No.4419）、13a-13c.サカキ（No.5581）、14a-14c.イスノキ（No.3652）、15a-15c.エゴノキ属（No.6880）
a:横断面（スケール=250 μm）、b:接線断面（スケール=100 μm）、c:放射断面（スケール=100 μm）

図10 今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真(3)

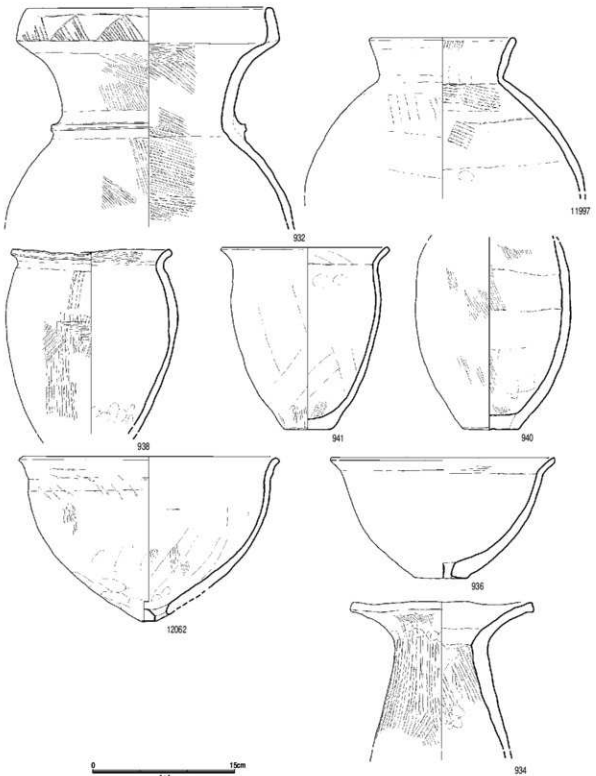


図11 谷1202 4層出土土器 (1:4)

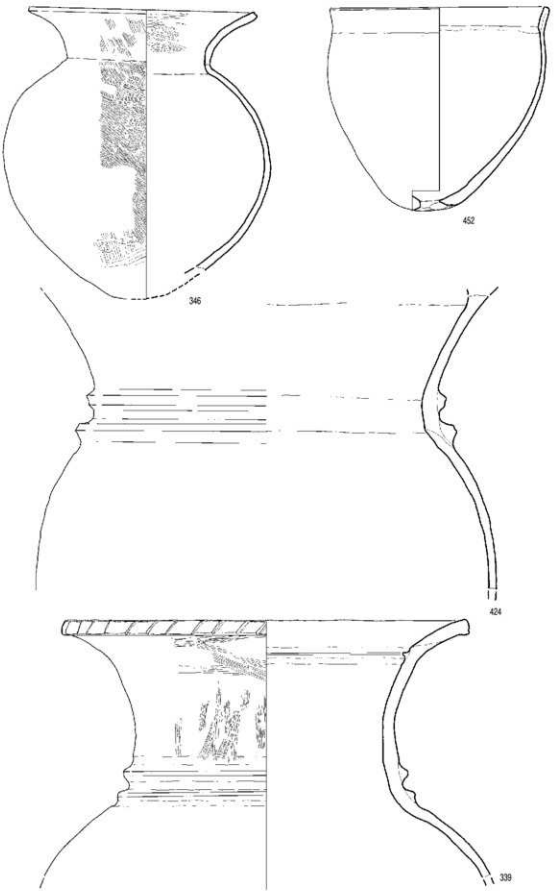


図12 谷1202 5層出土土器 (1:4)

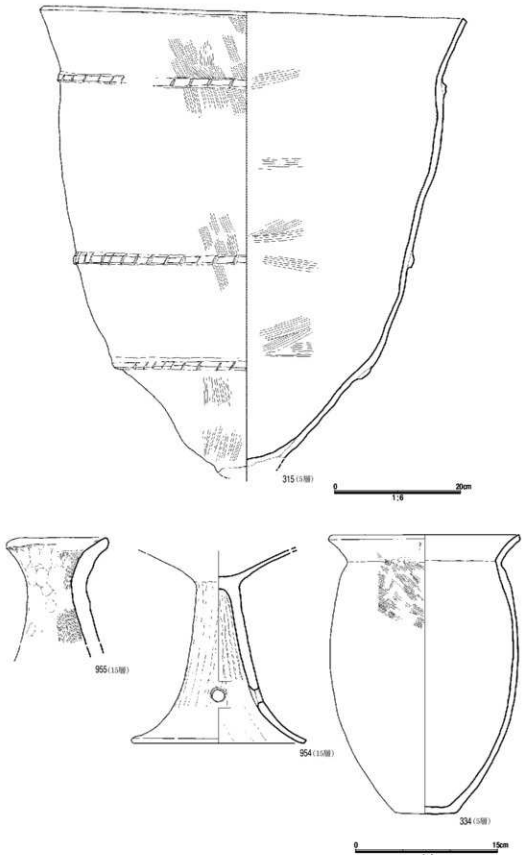


図13 谷1202 5層・15層出土土器 (1:4)

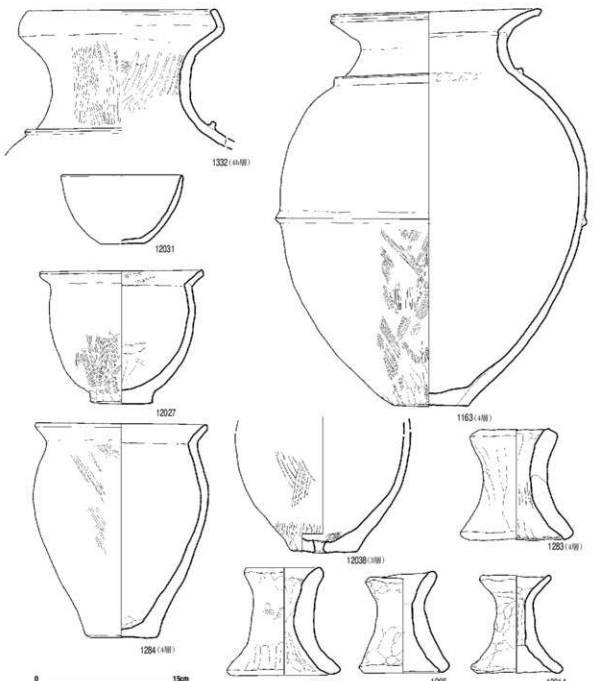


図14 溝1204出土土器 (1:4)

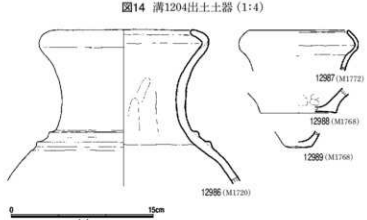


図15 掘立柱建物1831出土土器 (1:4)

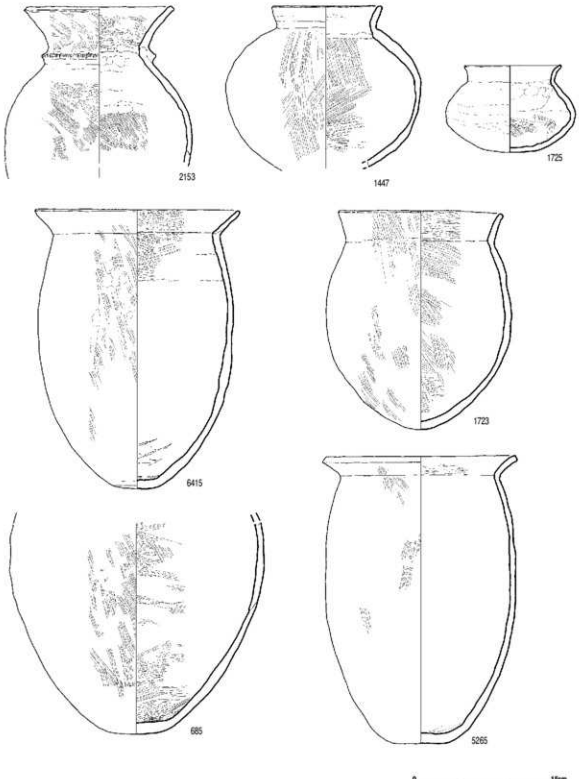


図16 谷1203 11層出土土器(1) (1:4)

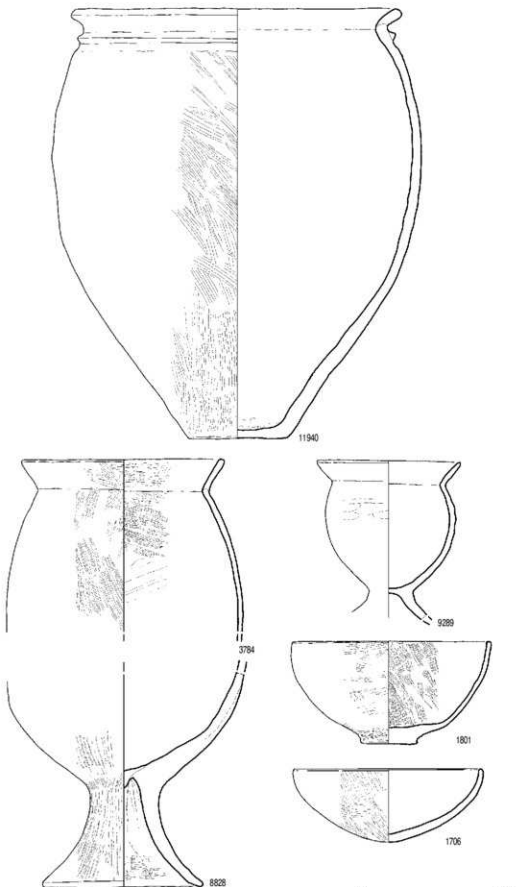


図17 谷1203 11層出土土器(2) (1:4)

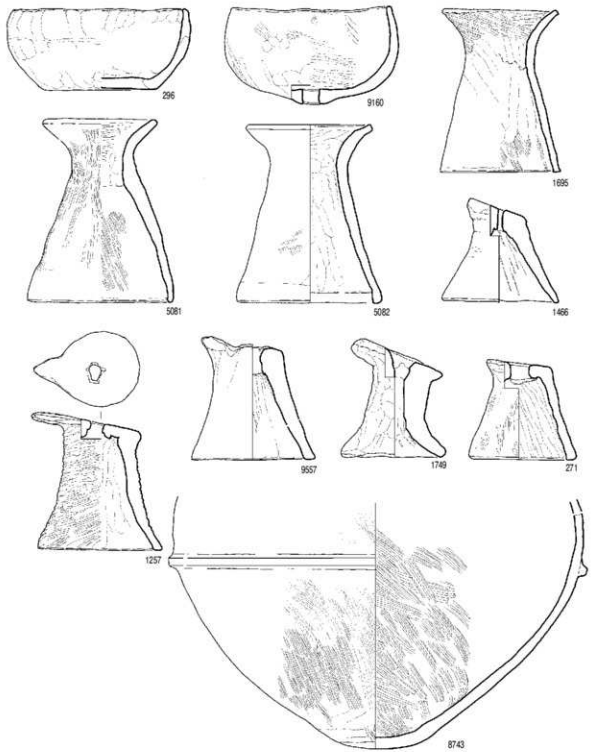


図18 谷1203 11層出土土器(3) (1:4)

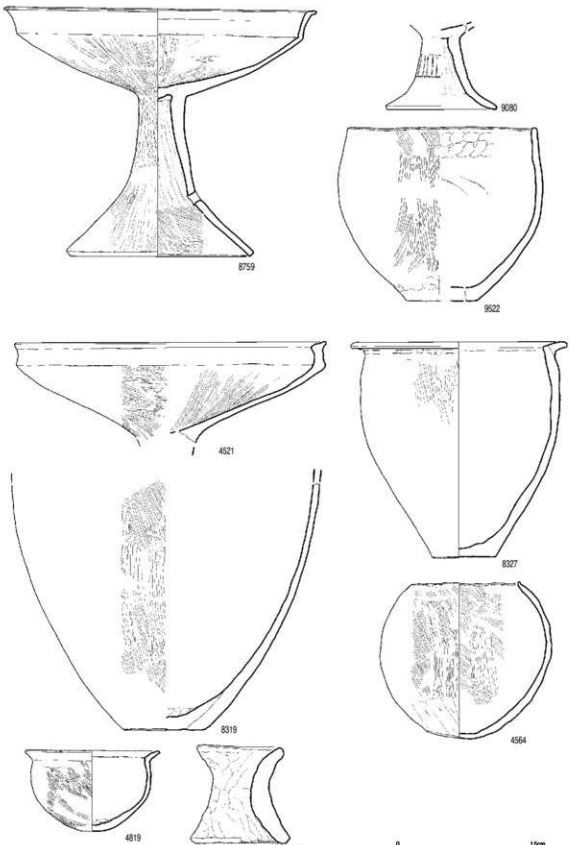


図19 谷1203 22層・19層出土土器 (1:4)

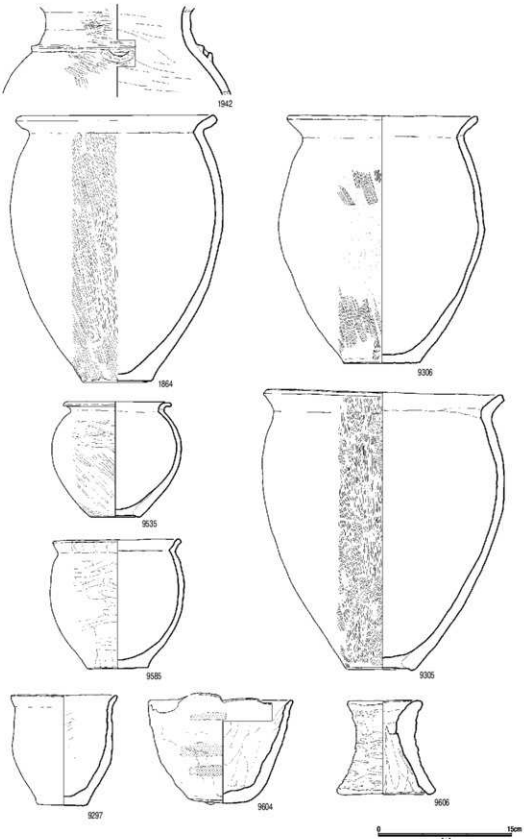


図20 谷1203 23層出土土器 (1:4)

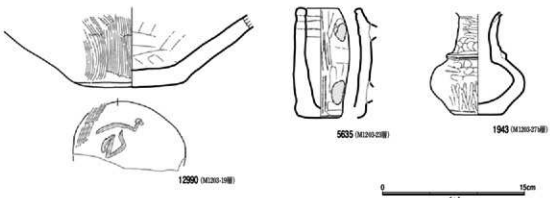


図21 谷1203 19層・27b層・39層出土土器（1:4）

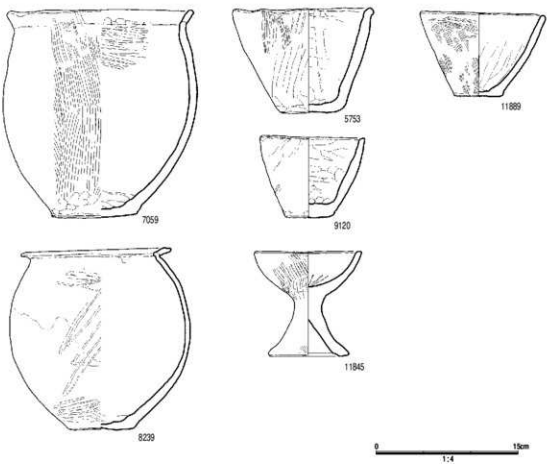


図22 谷1203 49層出土土器（1:4）

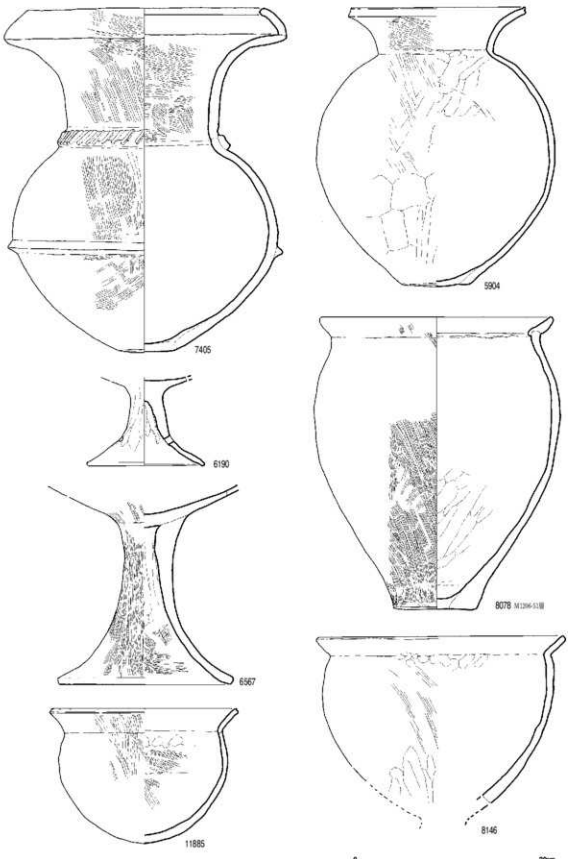


図23 谷1203 50層出土土器 (1:4)

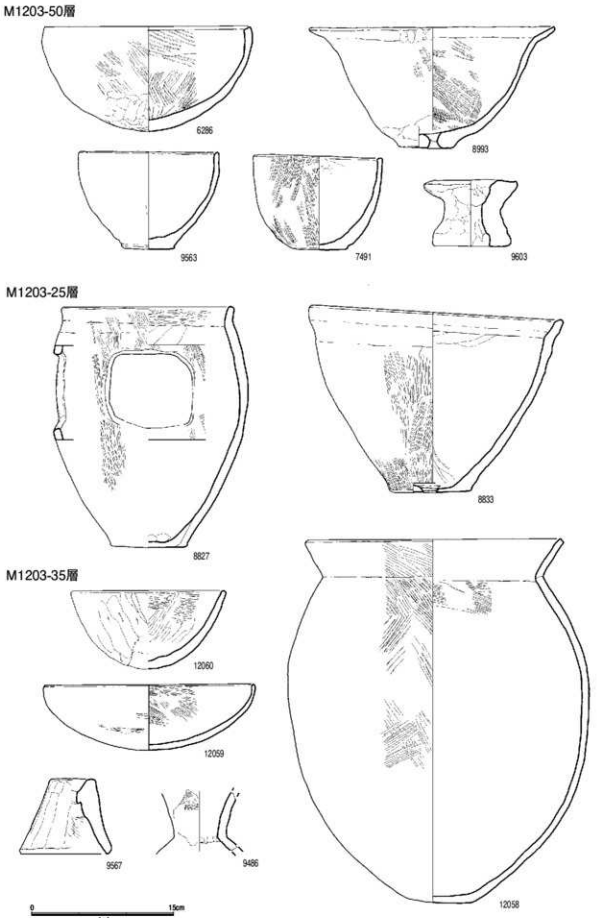


図24 谷1203 50層・25層・35層出土土器（1:4）

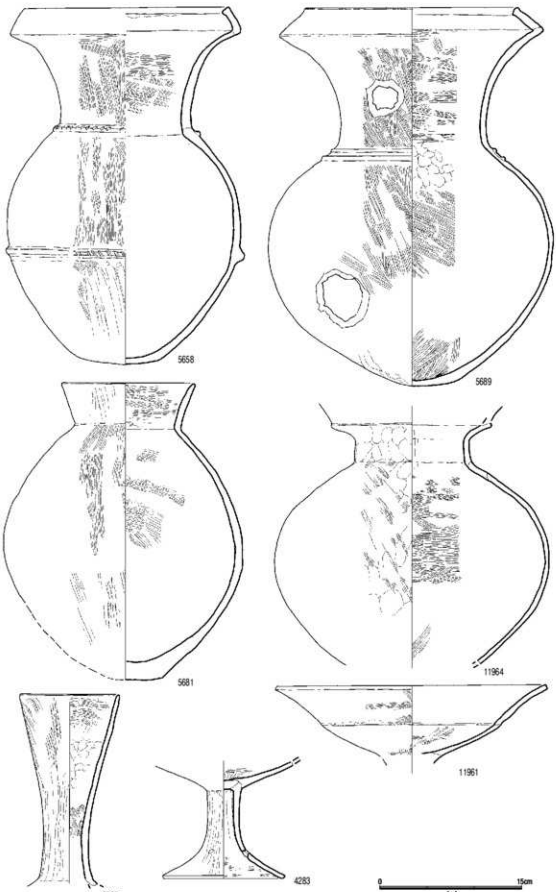


図25 谷1203 36層出土土器 (1:4)

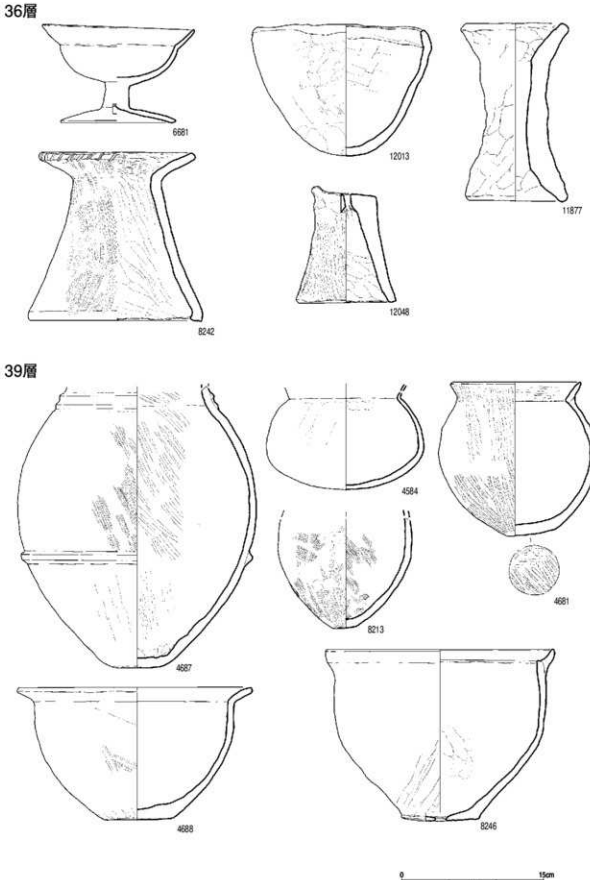


図26 谷1203 36層・39層出土土器（1:4）

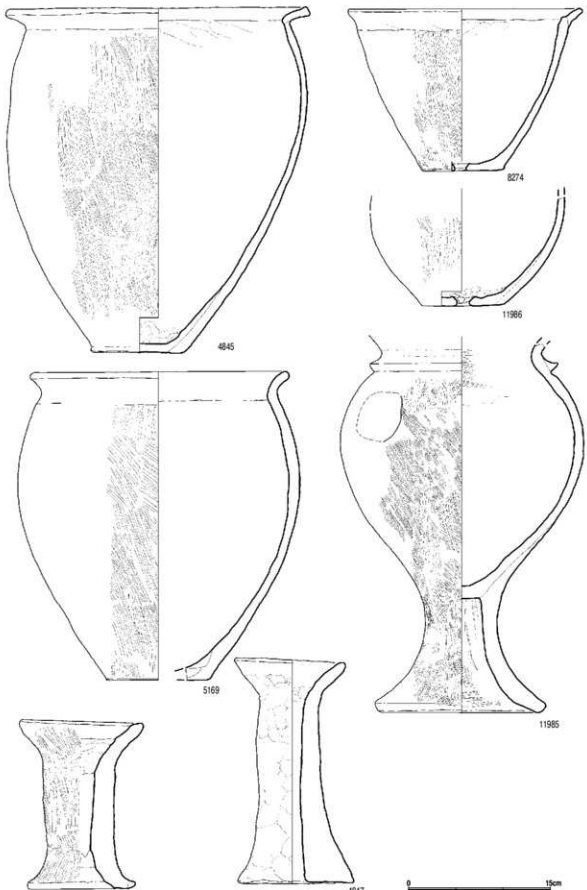


図27 谷1203 40層出土土器 (1:4)

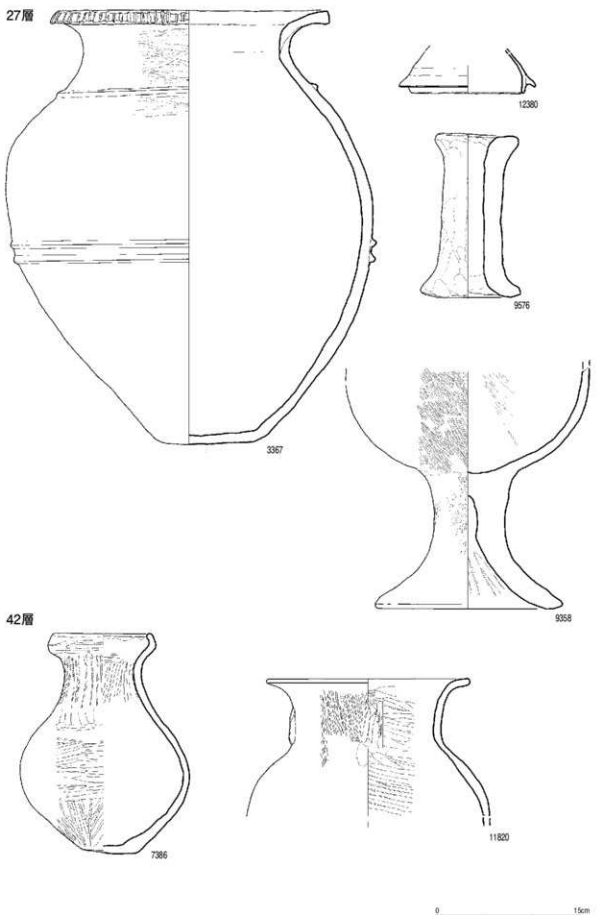


図28 谷1203 27層・42層出土土器 (1:4)

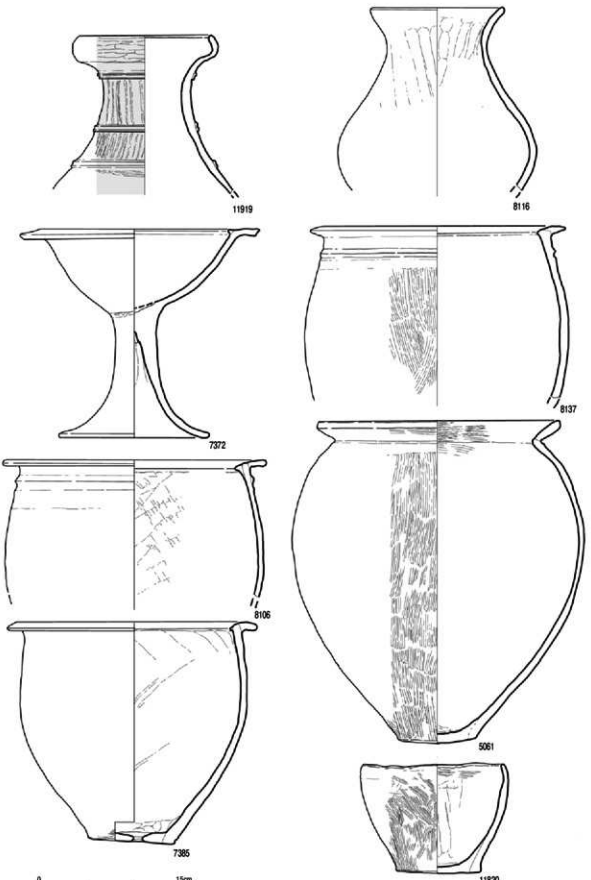


図29 谷1203 42層出土土器 (1:4)

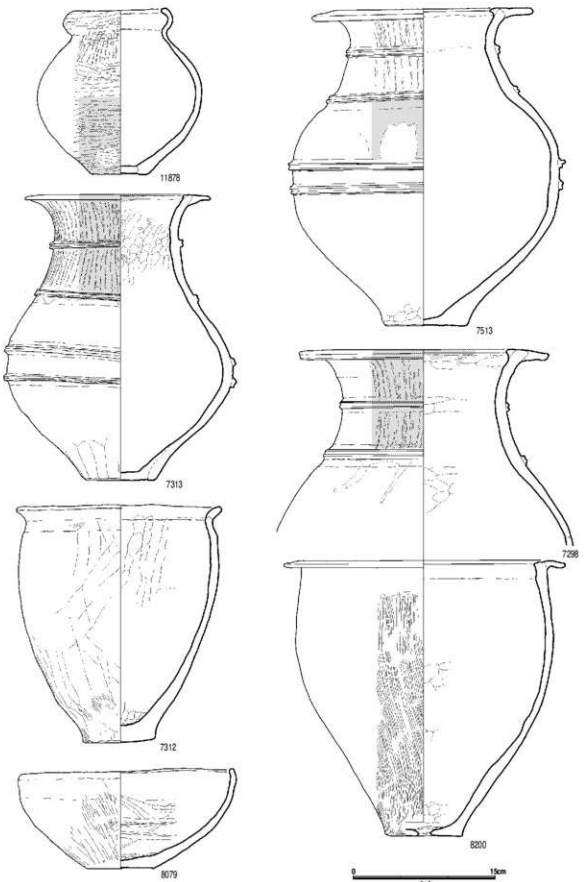


図30 谷1203 51層出土土器 (1:4)

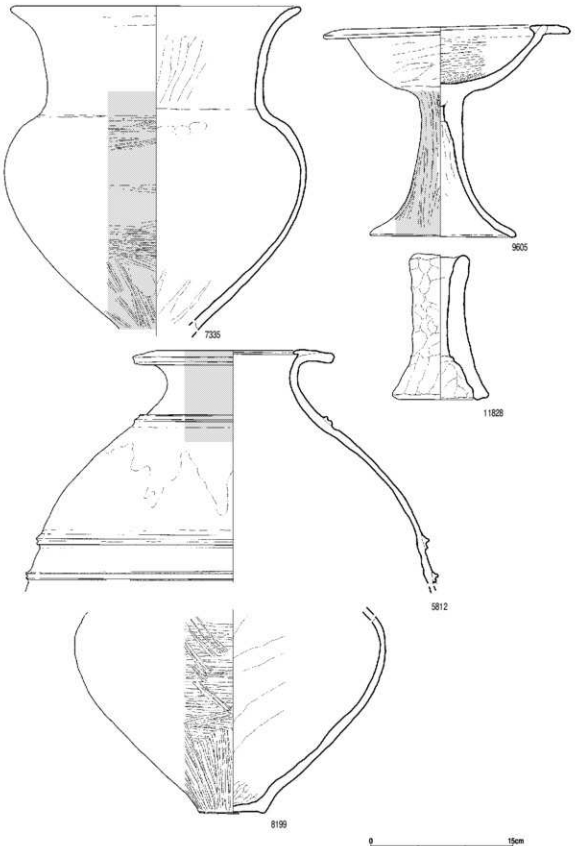
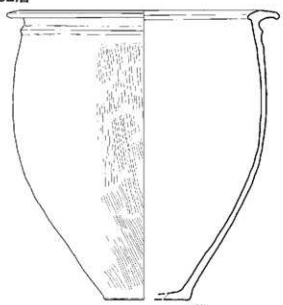
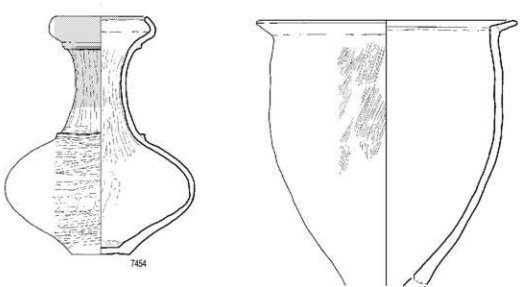


図31 谷1203 52層出土土器 (1:4)

52層



53層



67層

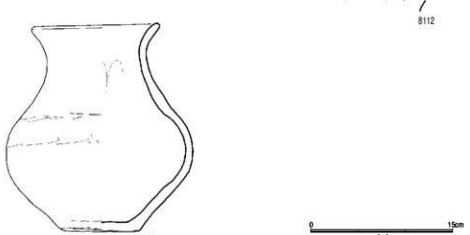


図32 谷1203 52層・53層・67層出土土器（1:4）

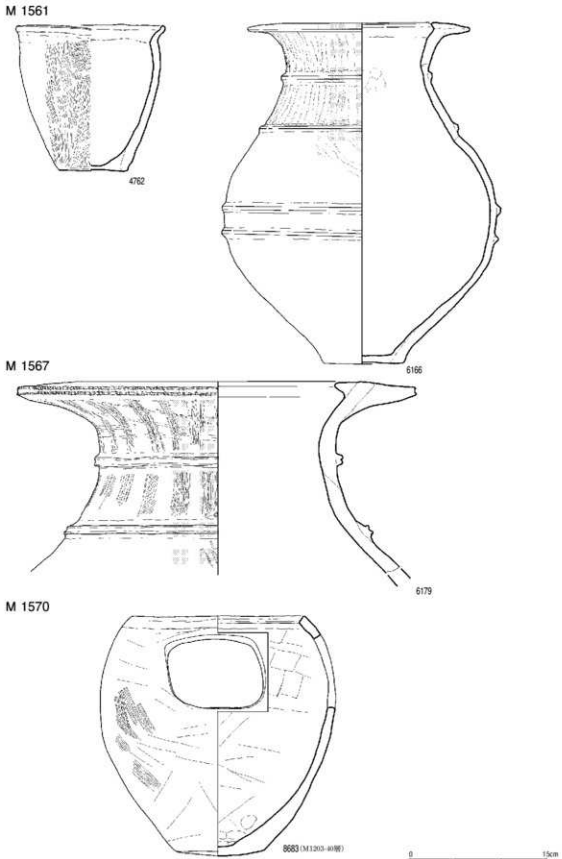


図33 溝1561・溝1567・M1570出土土器（1:4）

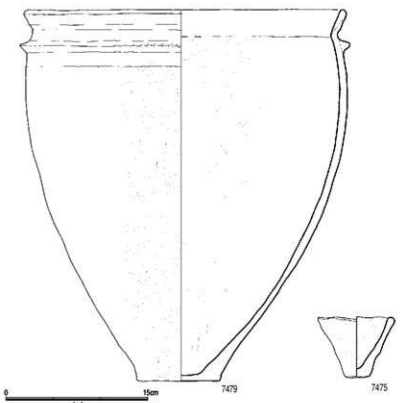


図34 井戸2029出土土器 (1:4)

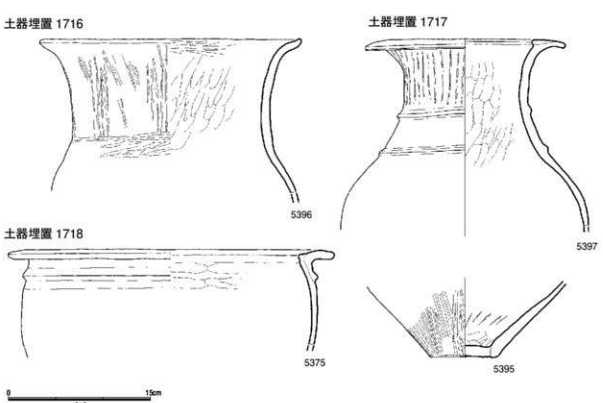


図35 土器埋置1716～1718 (1:4)

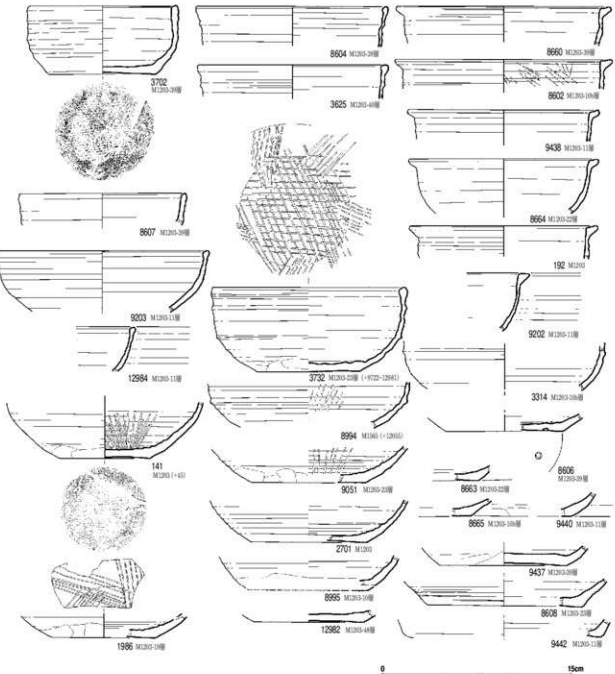
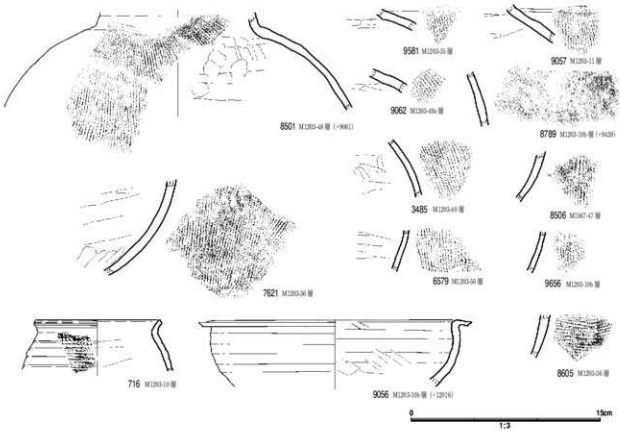

3702 M1203-39層
8604 M1203-39層
3625 M1203-44層
8660 M1203-39層
8602 M1203-10層
9438 M1203-11層
8664 M1203-22層
192 M1203
8607 M1203-39層
9203 M1203-11層
12984 M1203-11層
3732 M1203-22層 (+9122-12941)
9202 M1203-11層
3314 M1203-10層
8994 M1565 (+12055)
141 M1203 (+45)
9051 M1203-22層
8606 M1203-39層
8663 M1203-22層
2701 M1203
8665 M1203-10層
9440 M1203-11層
8995 M1203-10層
9437 M1203-39層
12982 M1203-44層
8608 M1203-22層
1986 M1203-10層
9442 M1203-11層
0
15cm
1:3

図36 薬浪系土器 (1:3)



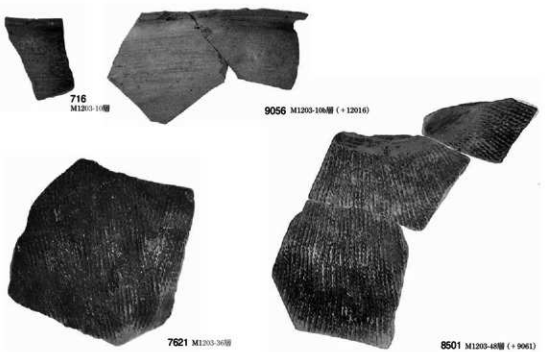


図37 瓦質土器・陶質土器 (1:3)

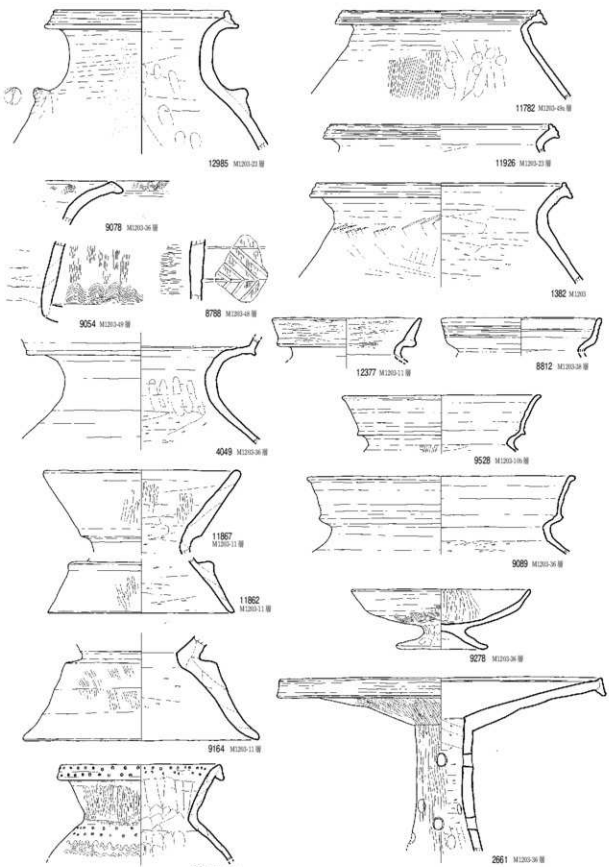


図38 異系統土器・土師器(1) (1:3)

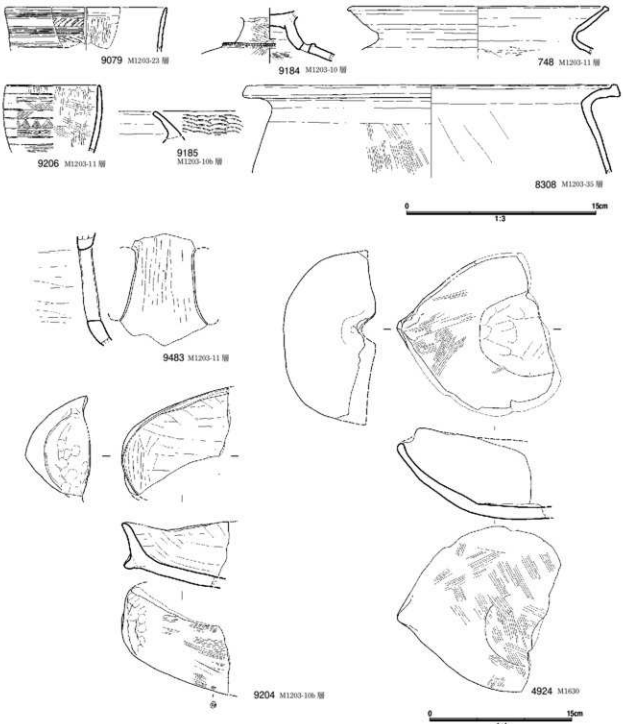


図39 異系統土器・土師器(2)(1:3、1:4)

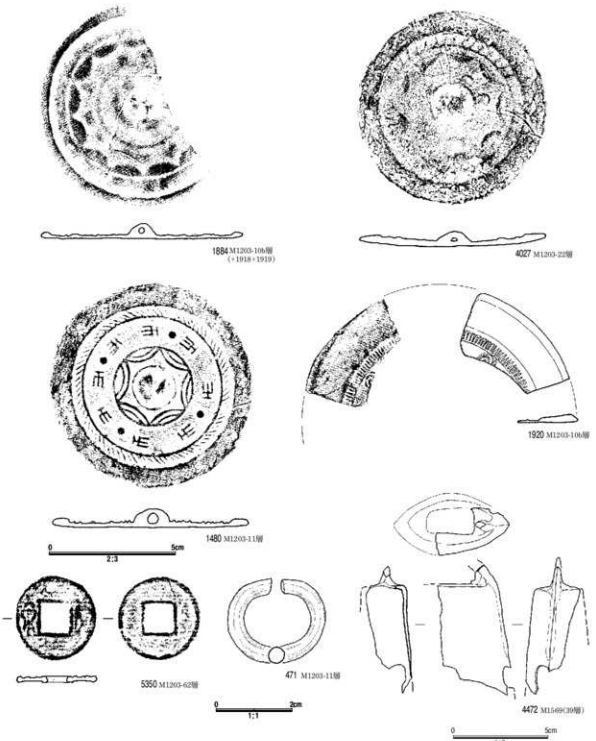


図40 金属器(1) (1:1、2:3、1:2)

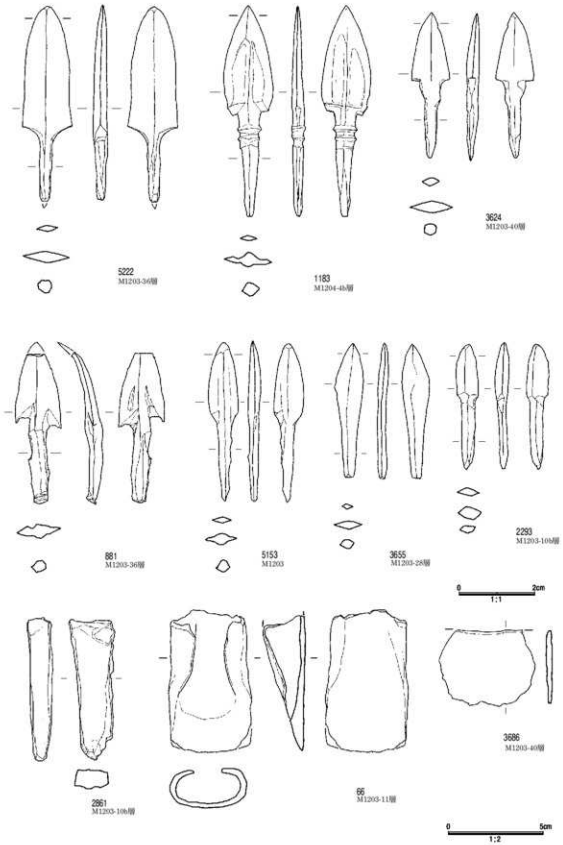


図41 金属器(2) (1:1、1:2)

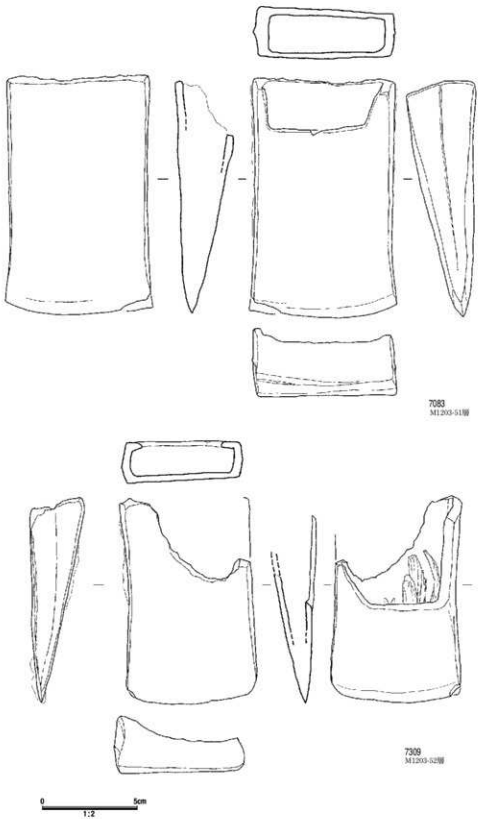
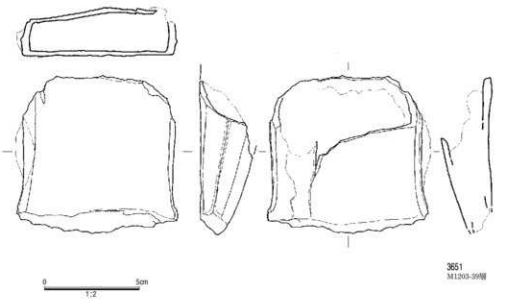


図42 金属器(3) (1:2)


3651
M1203-39層
0
5cm
1:2

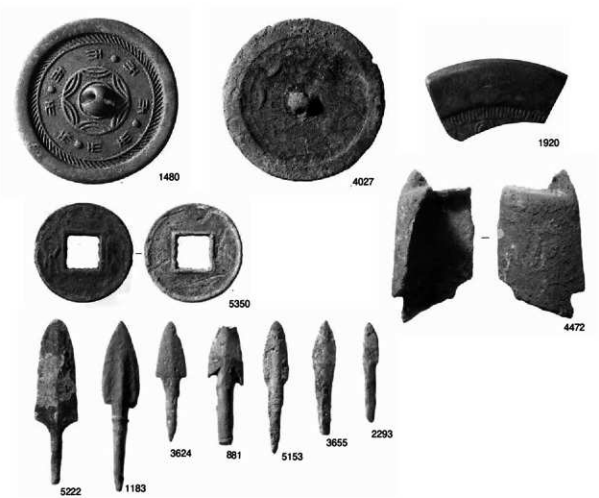

1480
4027
1920
5350
4472
5222
1183
3624
881
5153
3655
2293

図43 金属器(4) (1:2)

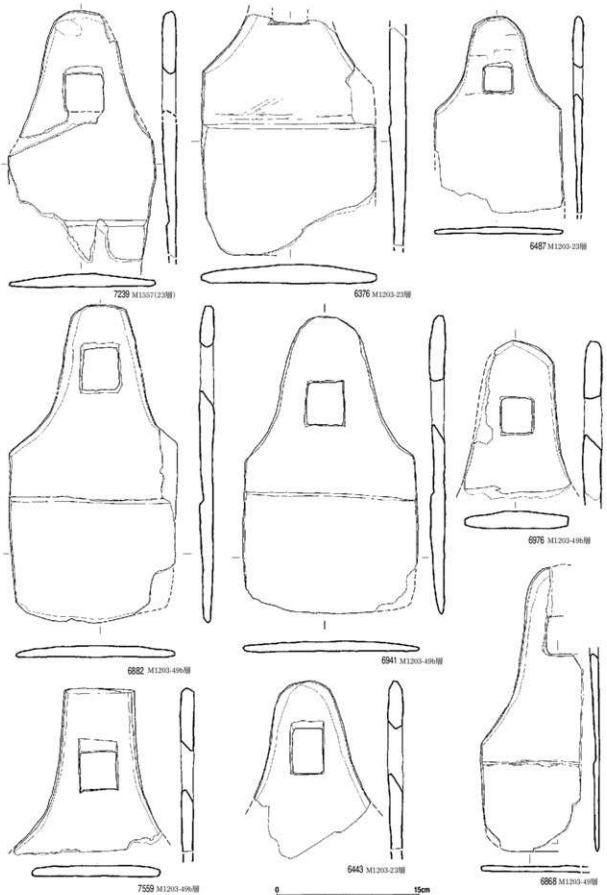

7239 M1537(23層)
6376 M1203-23層
6487 M1203-23層
6882 M1203-49b層
6941 M1203-49b層
6976 M1203-49b層
7559 M1203-49b層
6443 M1203-23層
6868 M1203-49層
0
15cm
1:4

図44 鍬(1) (1:4)

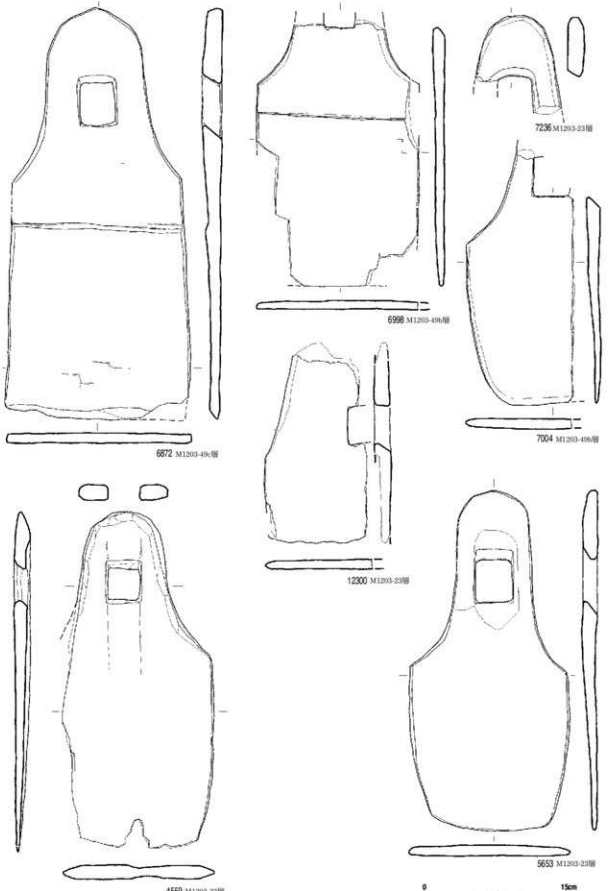

6872 M1203-49c層
6998 M1203-49b層
7236 M1203-23層
7004 M1203-49b層
12300 M1203-23層
4559 M1203-23層
5653 M1203-23層
0
15cm
1:4

図45 銀(2)(1:4)

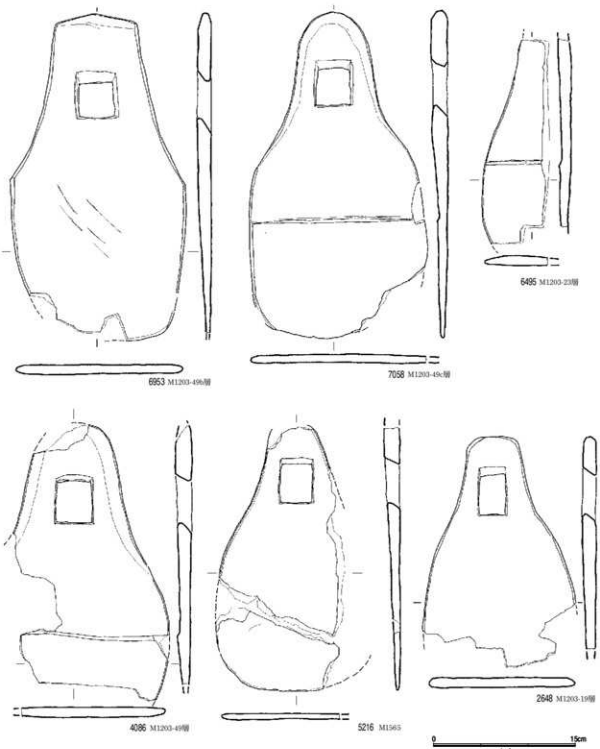

6953 M1203-49b層
7058 M1203-49c層
6495 M1203-23層
4086 M1203-49層
5216 M1065
2648 M1203-19層
0
15cm
1:4

図46 鍬(3)(1:4)

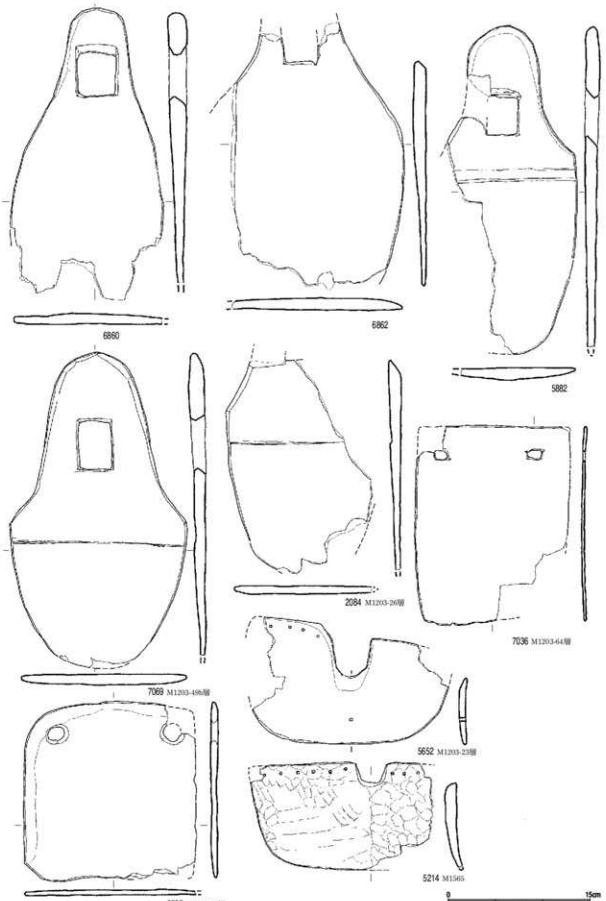

6860
6862
5882
2084 M1203-26期
7036 M1203-64期
7069 M1203-49期
5652 M1203-23期
5214 M1565
5529 M1203-23期
0
15cm
1:4

図47 鍬(4) (1:4)

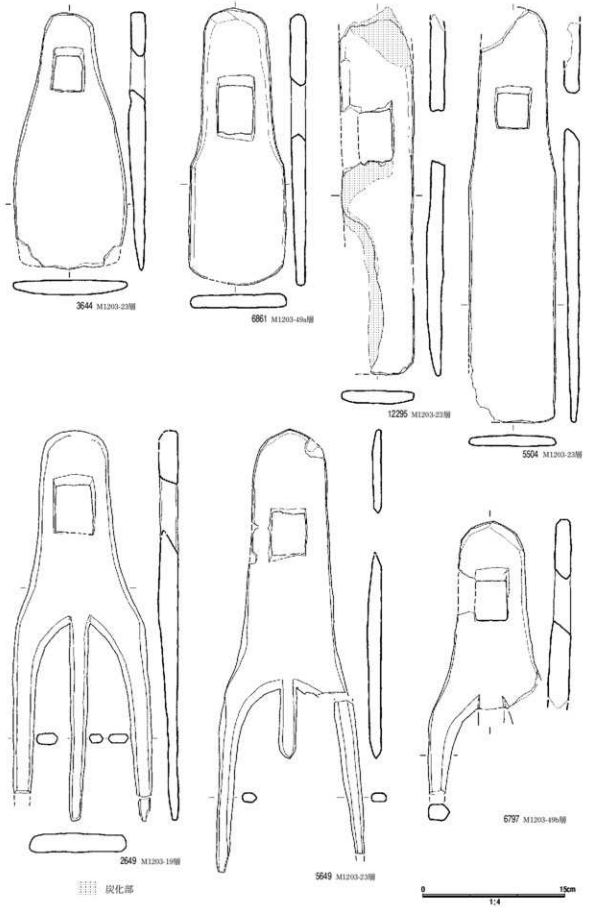

3644 M1203-23層
6861 M1203-49a層
12295 M1203-23層
5504 M1203-23層
2549 M1203-19層
5649 M1203-23層
6797 M1203-49b層
炭化部
0
15cm
1:4

図48 鍬(5) (1:4)

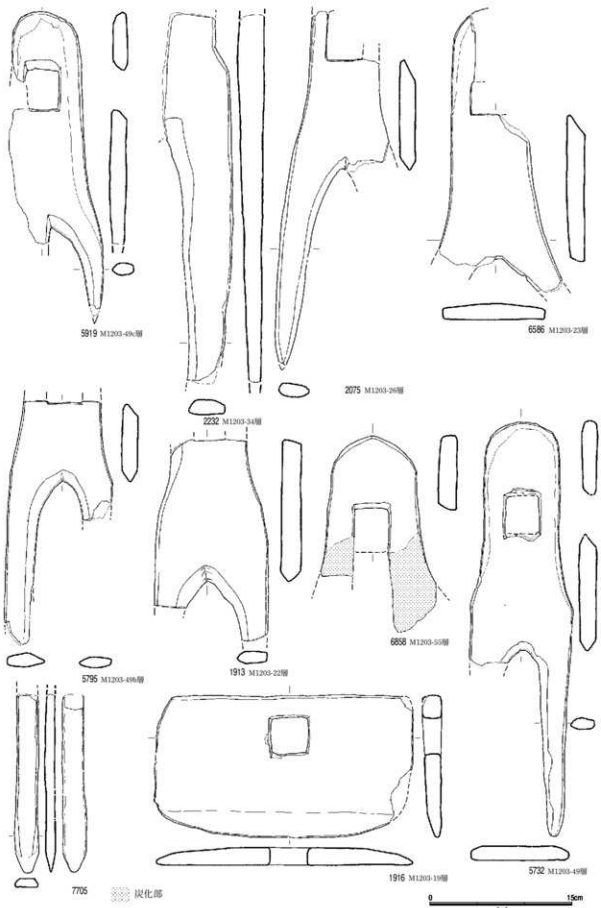

5919 M1203-49c層
2075 M1203-26層
6586 M1203-23層
2232 M1203-34層
5795 M1203-49b層
1913 M1203-22層
6858 M1203-55層
5732 M1203-49層
1916 M1203-19層
7705
炭化部
0
15cm
1:4

図49 鍬(6) (1:4)

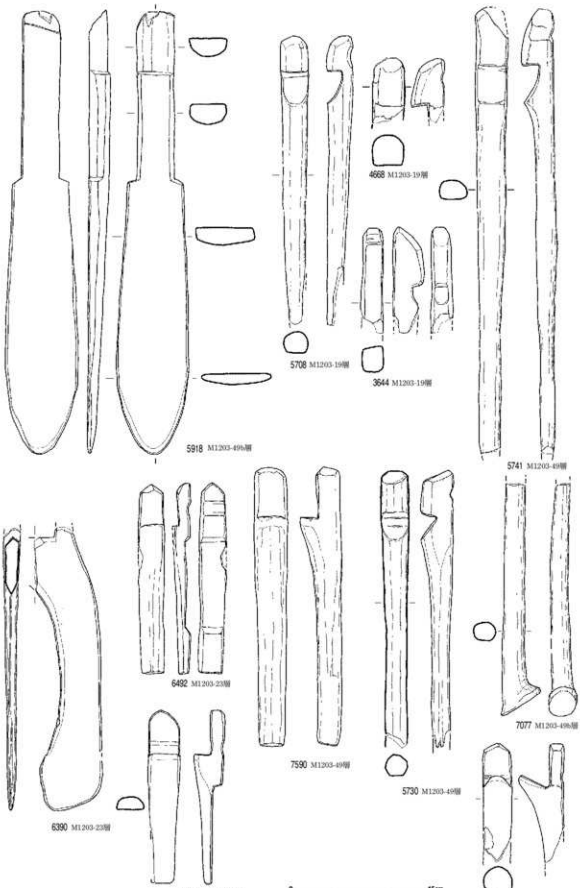

5918 M1203-49b層
4668 M1203-19層
5708 M1203-19層
3644 M1203-19層
5741 M1203-49層
6492 M1203-23層
6390 M1203-23層
7590 M1203-49層
5730 M1203-49層
7077 M1203-49b層
12543 M1203-26層
7238 M1203-49b層
0
15cm
1:4

図50 銀(7)・銀柄(1:4)

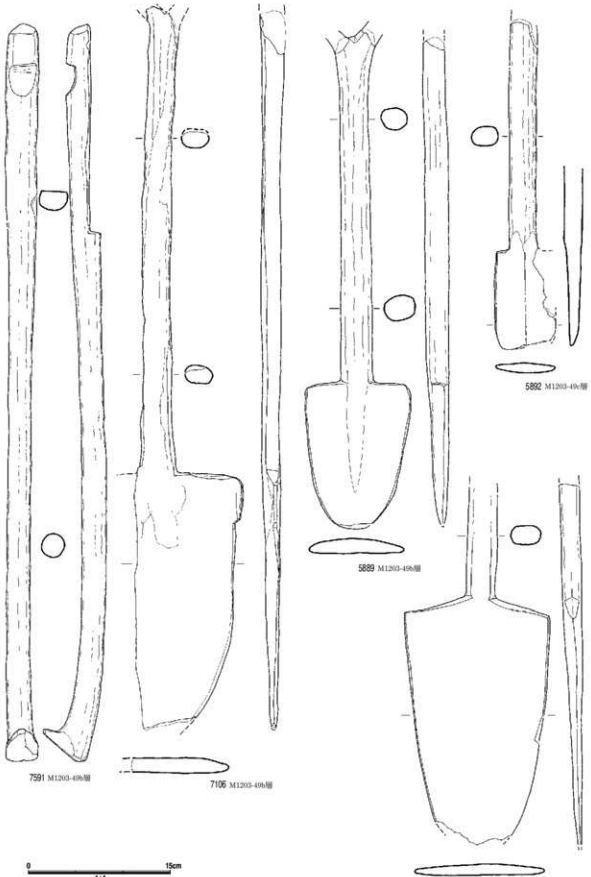

7591 M1203-49h層
7106 M1203-49h層
5889 M1203-49h層
5892 M1203-49c層
5800 M1203-49h層
0
15cm
1:4

図51 鋤 (1) (1:4)

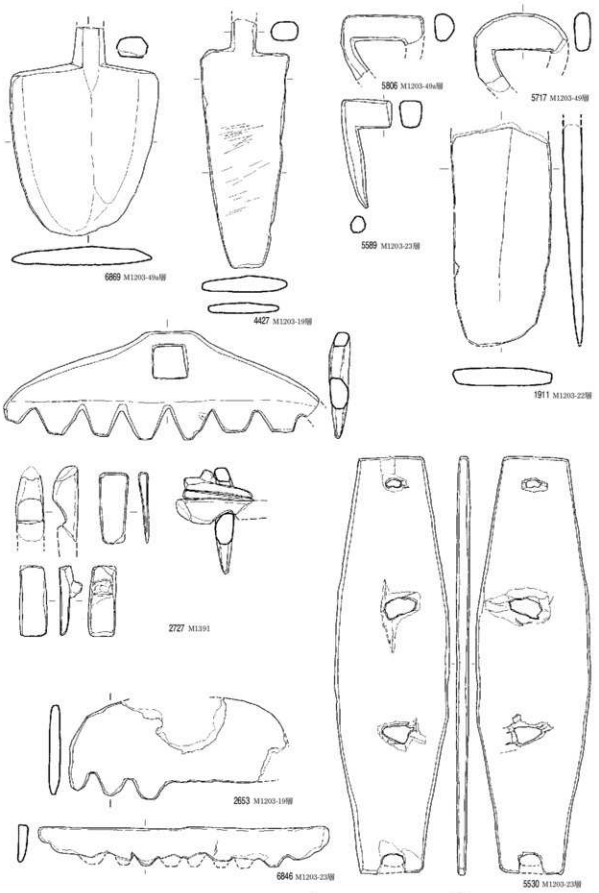

6869 M1203-49a層
4427 M1203-19層
5806 M1203-49a層
5589 M1203-23層
5717 M1203-49層
1911 M1203-22層
2727 M1391
2653 M1203-19層
6846 M1203-23層
5530 M1203-23層
0
15cm
1:4

図52 鋤 (2) (1:4)

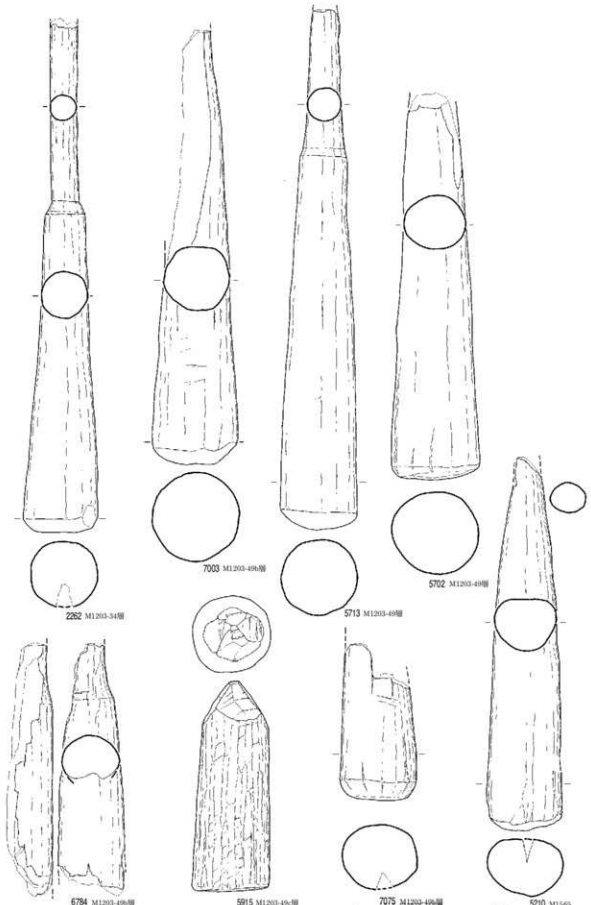

2262 M1203-34層
7003 M1203-49b層
5713 M1203-49層
5702 M1203-49層
6784 M1203-49b層
5915 M1203-49c層
7075 M1203-49a層
5210 M1565
0
15cm
1:4

図53 杵 (1) (1:4)

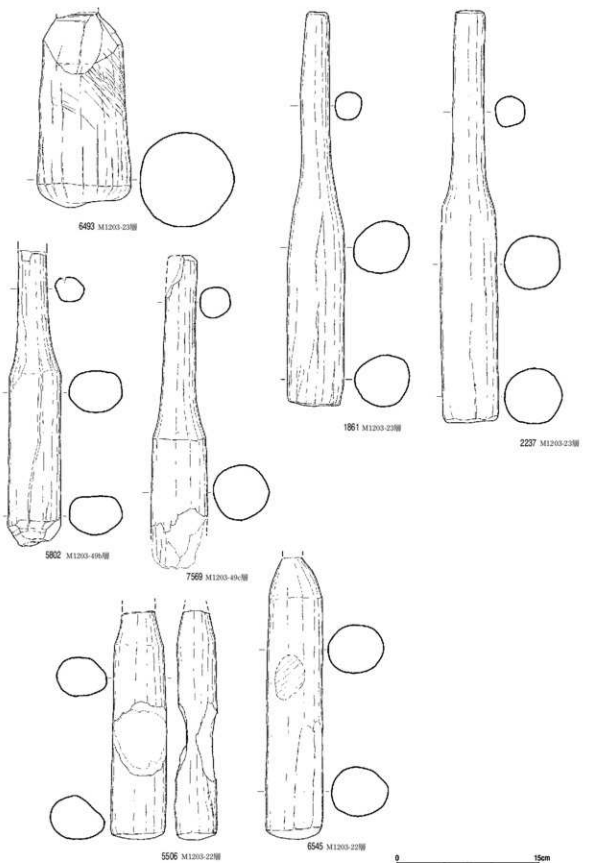

6493 M1203-23層
1861 M1203-23層
2237 M1203-23層
5802 M1203-49b層
7569 M1203-49c層
5506 M1203-22層
6545 M1203-22層
0
15cm
1:4

図54 杵 (2) (1:4)

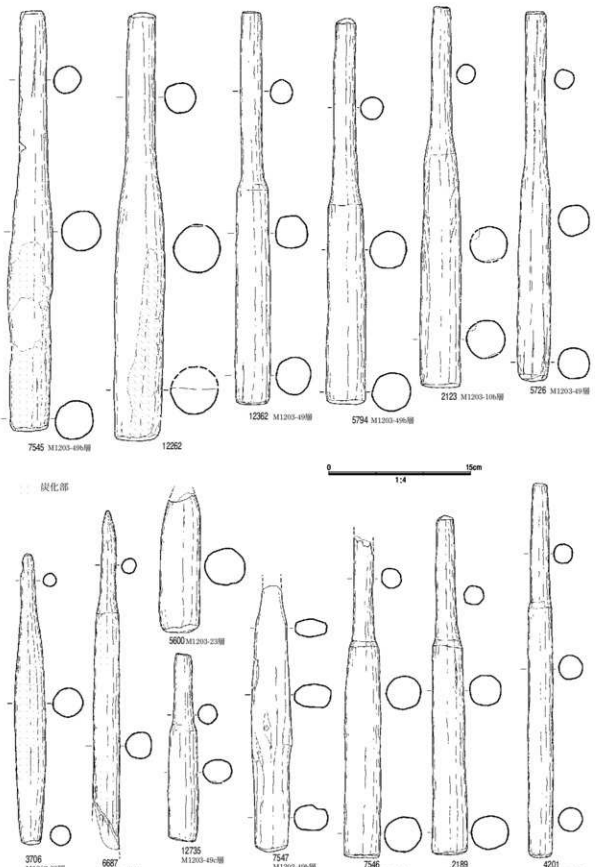

7545 M1203-49b層
12262
12362 M1203-49層
5794 M1203-49b層
2123 M1203-10b層
5726 M1203-49層
0
15cm
1:4
炭化部
5600 M1203-23層
3706 M1203-23層
6687 M1203-23層
12735 M1203-49c層
7547 M1203-49b層
7546 M1203-49b層
2189 M1203-26層
4201 M1203-48層

図55 杵 (3) (1:4)

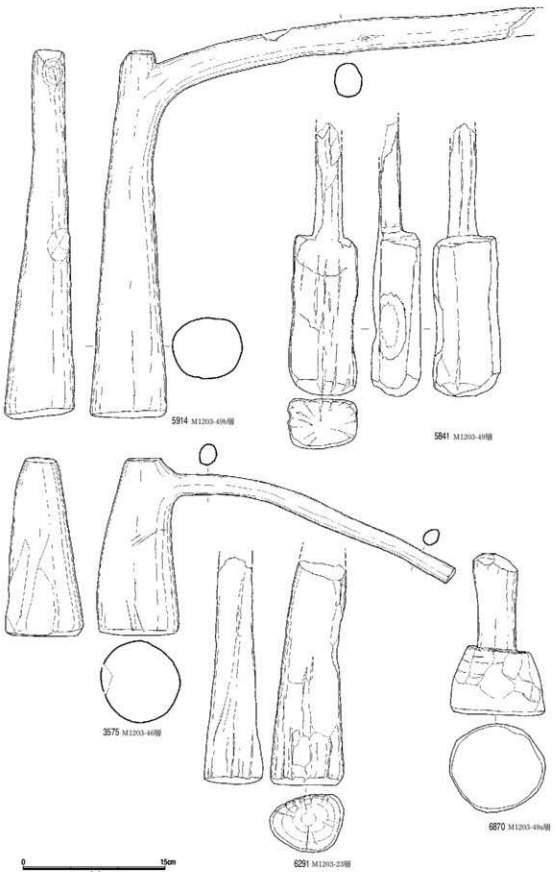

5914 M1203-49h層
5841 M1203-49層
3575 M1203-46層
6870 M1203-49n層
6291 M1203-23層
0
15cm
1:4

図56 杵 (4) (1:4)

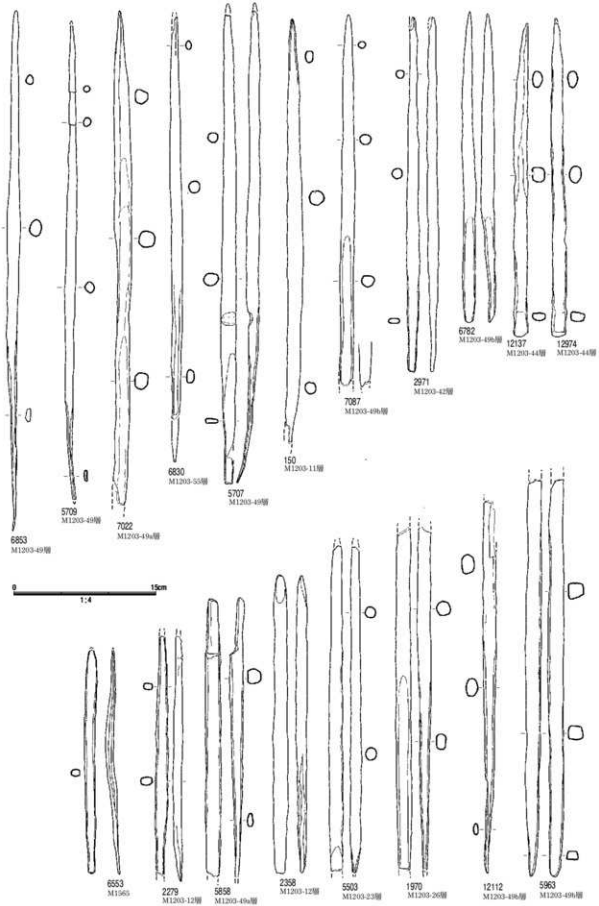

6853
M1203-49層
5709
M1203-49層
7022
M1203-49a層
6830
M1203-55層
5707
M1203-49層
150
M1203-11層
7087
M1203-49b層
2971
M1203-42層
6782
M1203-49b層
12137
M1203-44層
12974
M1203-44層
0
15cm
1:4
6553
M1565
2279
M1203-12層
5858
M1203-49a層
2358
M1203-12層
5503
M1203-23層
1970
M1203-26層
12112
M1203-49b層
5963
M1203-49b層

図57 箆(やす)(1)(1:4)

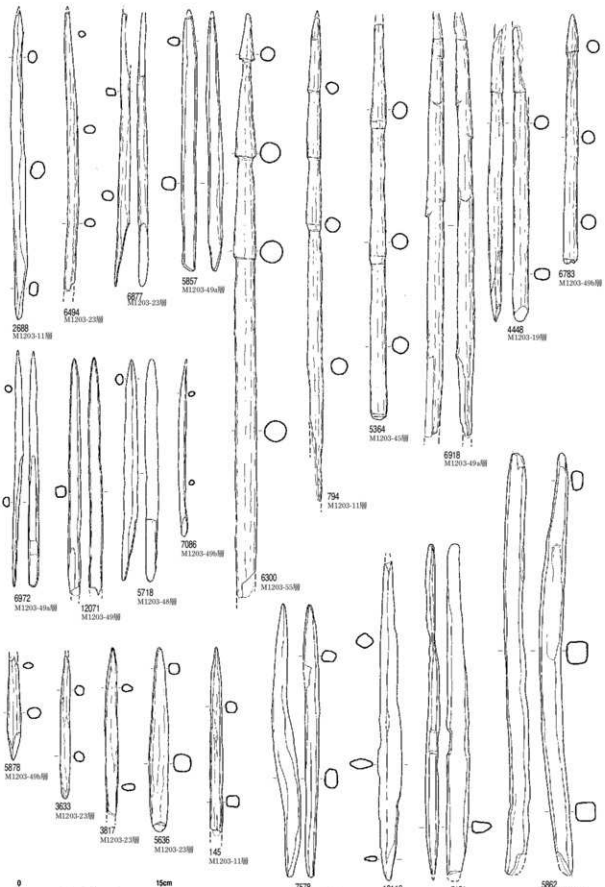

2688
M1203-11層
6494
M1203-23層
6877
M1203-23層
5857
M1203-49a層
6300
M1203-55層
794
M1203-11層
5364
M1203-45層
6918
M1203-49a層
4448
M1203-19層
6783
M1203-49b層
6972
M1203-49a層
12071
M1203-49層
5718
M1203-48層
7086
M1203-49b層
5878
M1203-49b層
3633
M1203-23層
3817
M1203-23層
5636
M1203-23層
145
M1203-11層
7578
M1203-49b層
12116
M1203-42層
5181
M1203-49層
5862
M1203-49b層
0
15cm
1:4

図58 箭(やす)(2)(1:4)

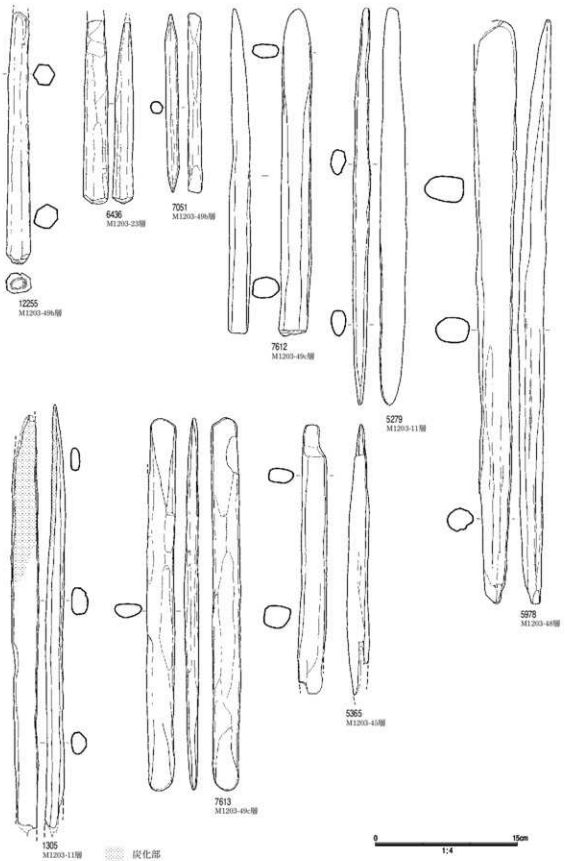

12255
M1203-49b層
6436
M1203-23層
7051
M1203-49b層
7612
M1203-49c層
5279
M1203-11層
5978
M1203-48層
5365
M1203-45層
7613
M1203-49c層
1305
M1203-11層
炭化部
0
15cm
1:4

図59 尖頭器（1:4）

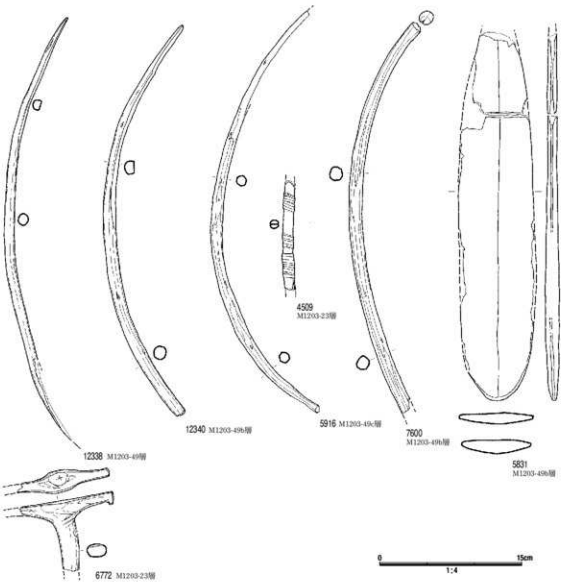

12338 M1203-49層
12340 M1203-49b層
4509
M1203-23層
5916 M1203-49c層
7600
M1203-49b層
5831
M1203-49b層
6772 M1203-23層
0
15cm
1:4

図60 網枠・櫂（1：4）

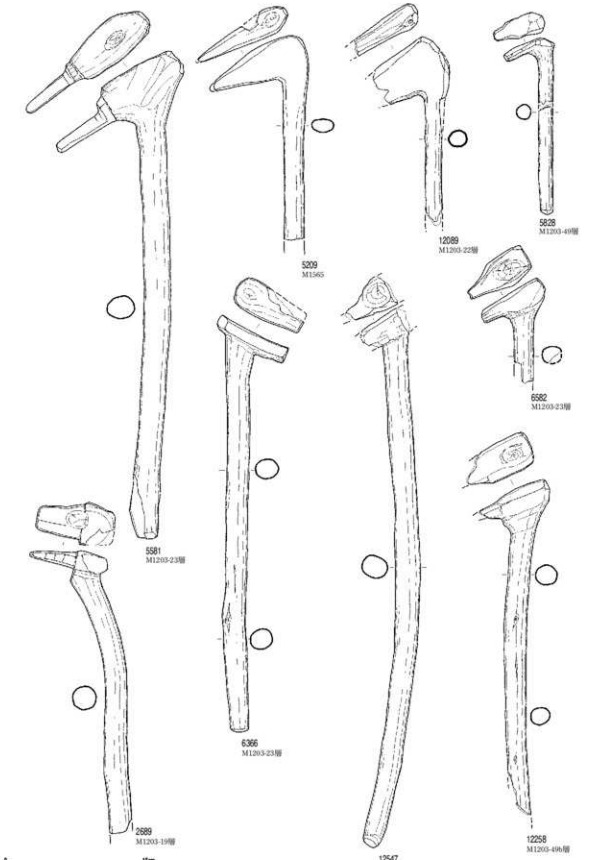

5581
M1203-23層
5209
M1565
12089
M1203-22層
5828
M1203-49層
6582
M1203-23層
6366
M1203-23層
12547
M1203-11層
12258
M1203-49b層
2589
M1203-19層
0
15cm
1:4

図61 斧柄(1) (1:4)

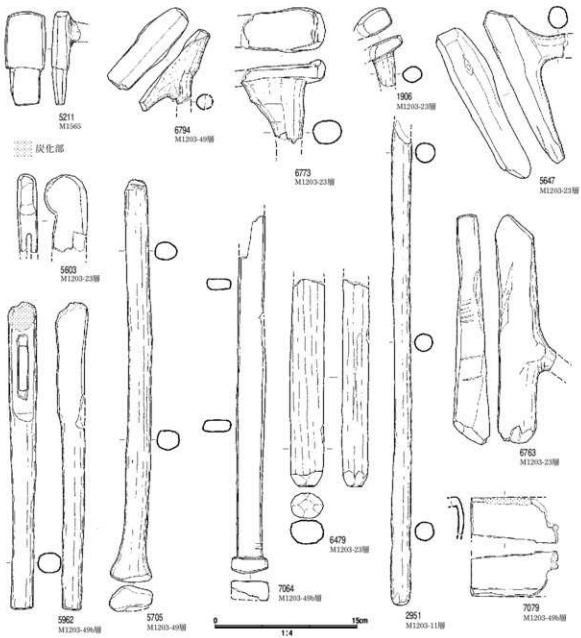


図62 斧柄(2)・鎌柄・柄(1:4)

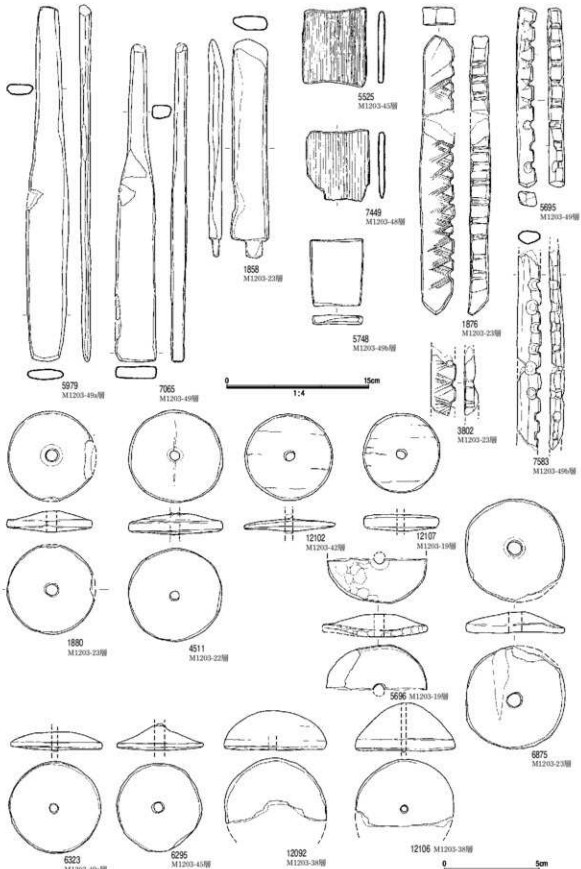


図63 工具・火鑽臼・紡錘車(1)(1:2、1:4)

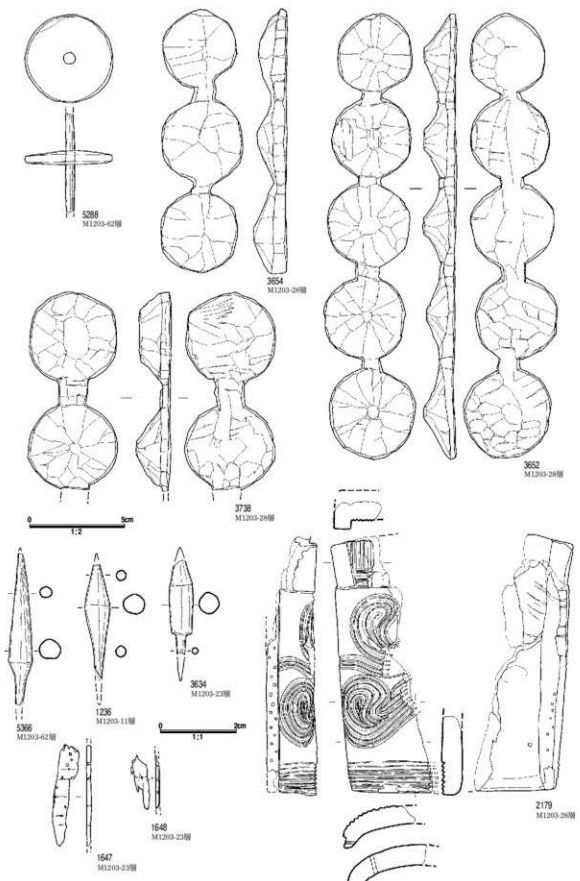


図64 紡錘車(2)・木鍬・短甲 (1:2・1:4)

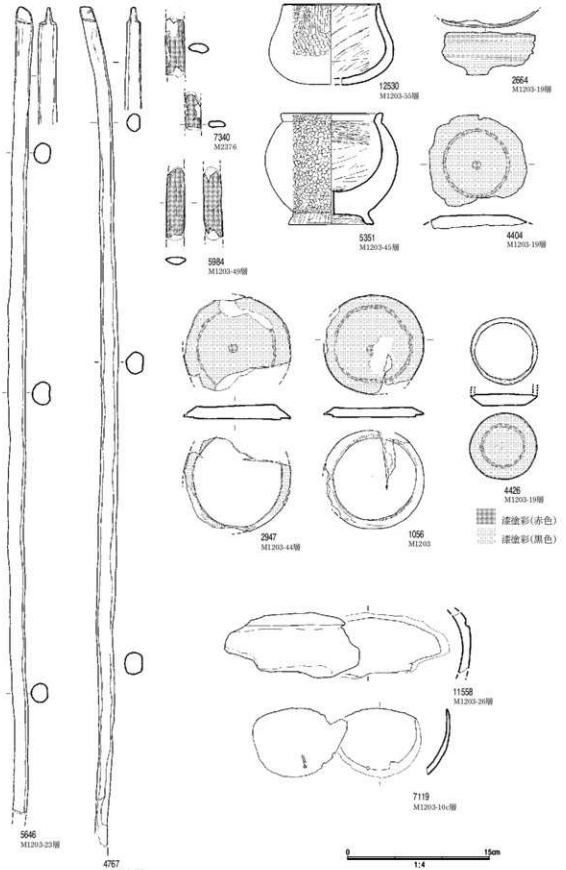

5646
M1203-23層
4767
M1203-19層
7340
M2376
5984
M1203-49層
12530
M1203-35層
5351
M1203-45層
2664
M1203-19層
4404
M1203-19層
2947
M1203-44層
1056
M1203
4426
M1203-19層
漆塗彩(赤色)
漆塗彩(黒色)
11558
M1203-26層
7119
M1203-10c層
0
15cm
1:4

図65 弓·容器 (1) (1:4)

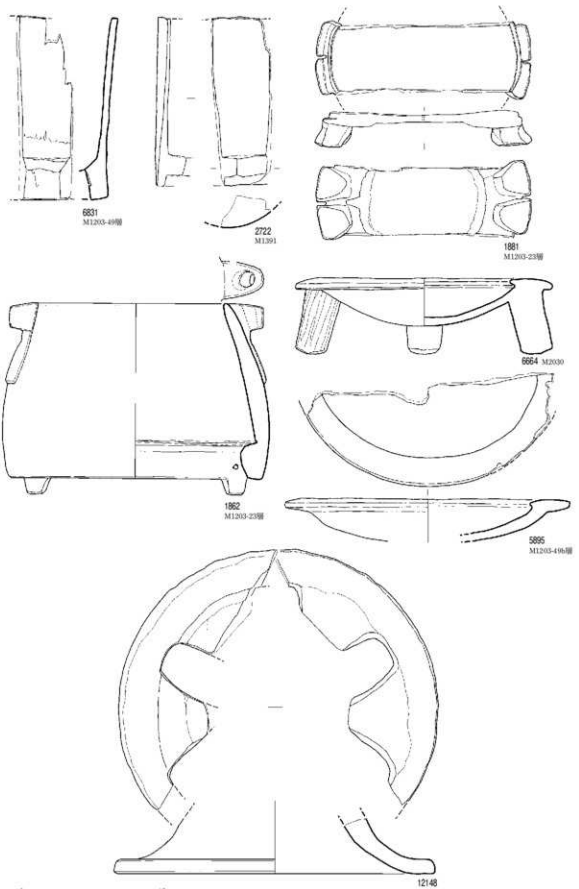

6831
M1203-49層
2722
M1391
1881
M1203-23層
1862
M1203-23層
6664 M2030
5895
M1203-49b層
1214B
M1203-10b層
0
15cm
1:4

図66 容器 (2) (1:4)

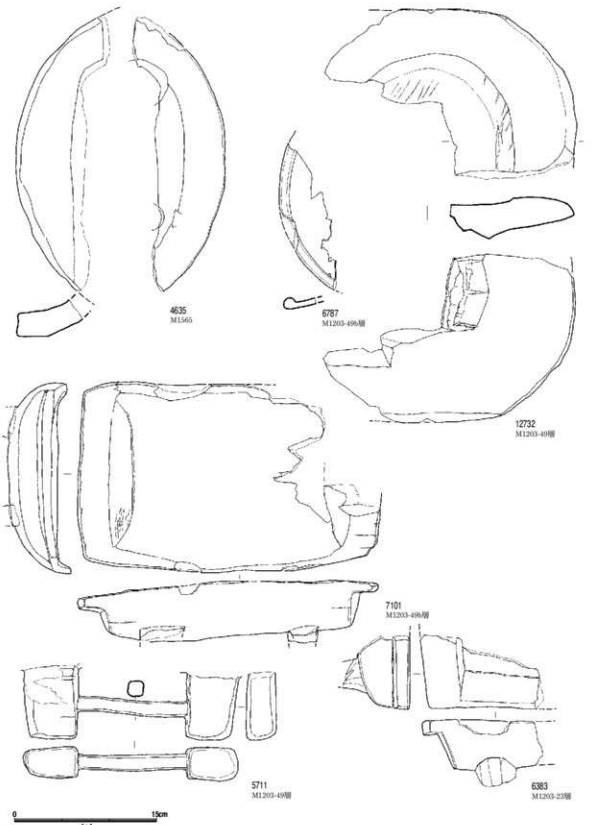

4635
M1565
6787
M1203-69b層
12732
M1203-49層
7101
M1203-69b層
5711
M1203-49層
6383
M1203-23層
0
15cm
1:4

図67 容器(3)(1:4)

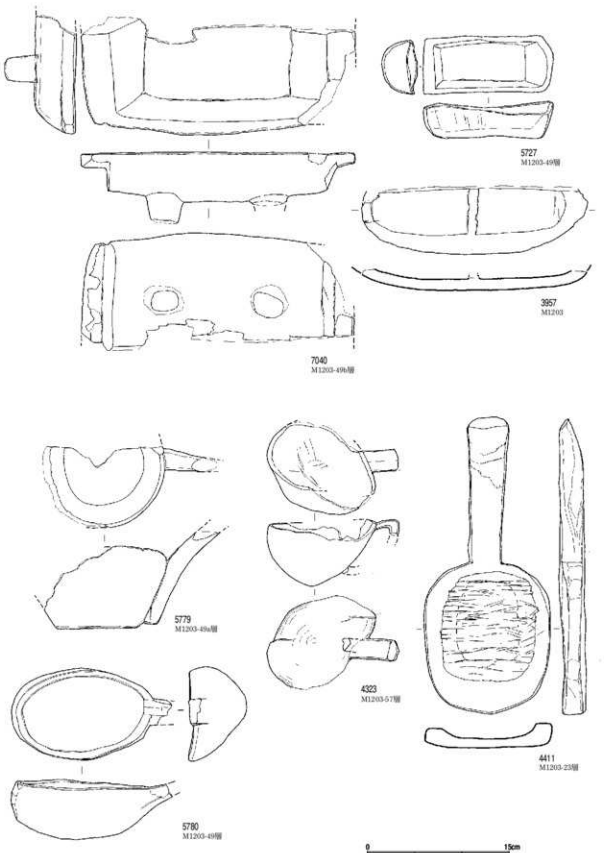

5727
M1203-49層
3957
M1203
7040
M1203-49a層
5779
M1203-49a層
4323
M1203-57層
4411
M1203-23層
5780
M1203-49層
0
15cm
1:4

図68 容器(4)・杓子(1:4)

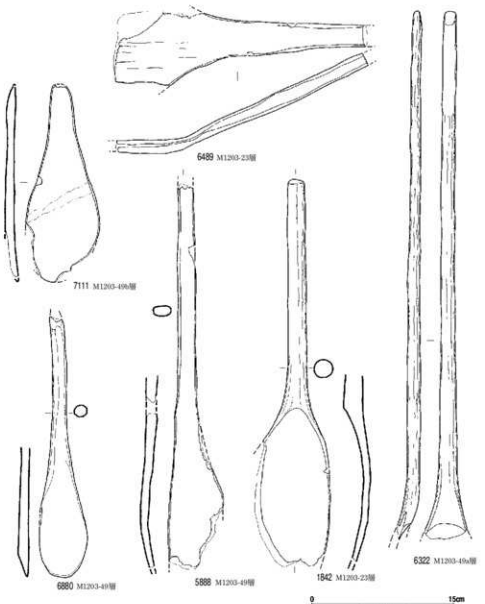

6489 M1203-23層
7111 M1203-49b層
6880 M1203-49層
5888 M1203-49層
1842 M1203-23層
6322 M1203-49a層
0
15cm
1:4

図69 杓文字 (1:4)

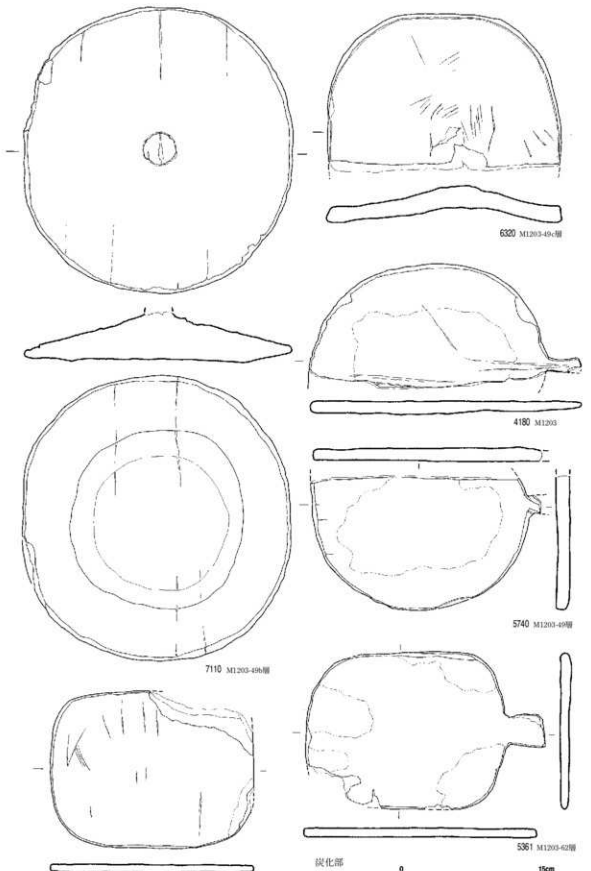

6320 M1203-49c層
4180 M1203
5740 M1203-49層
7110 M1203-49b層
5361 M1203-62層
2698 M1391
炭化部
0
15cm
1:4

図70 蓋(1) (1:4)

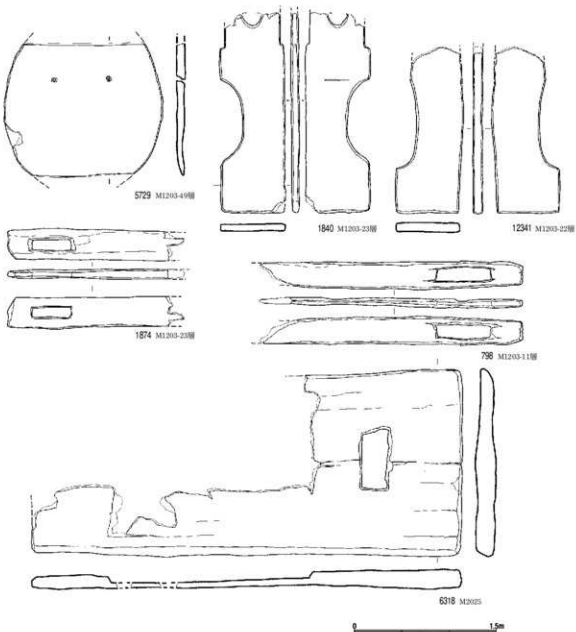

5729 M1203-49層
1840 M1203-23層
12341 M1203-22層
1874 M1203-23層
798 M1203-11層
6318 M2025
0
1:40
1.5m

図71 盖(2)・机(1:4)

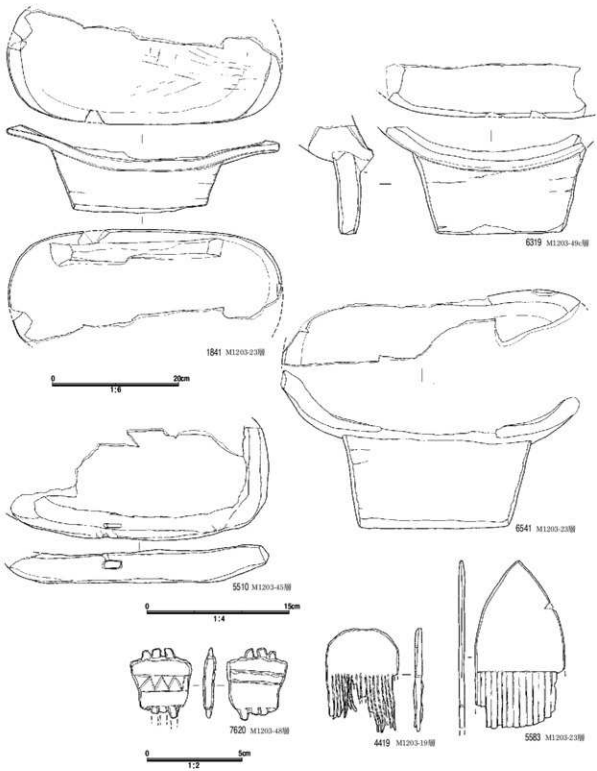

6319 M1203-49a層
1841 M1203-23層
0 20cm
1:6
6541 M1203-23層
5510 M1203-45層
0 10cm
1:4
7620 M1203-48層
4419 M1203-19層
5583 M1203-23層
0 5cm
1:2

図72 椅子・服飾具（1:4）

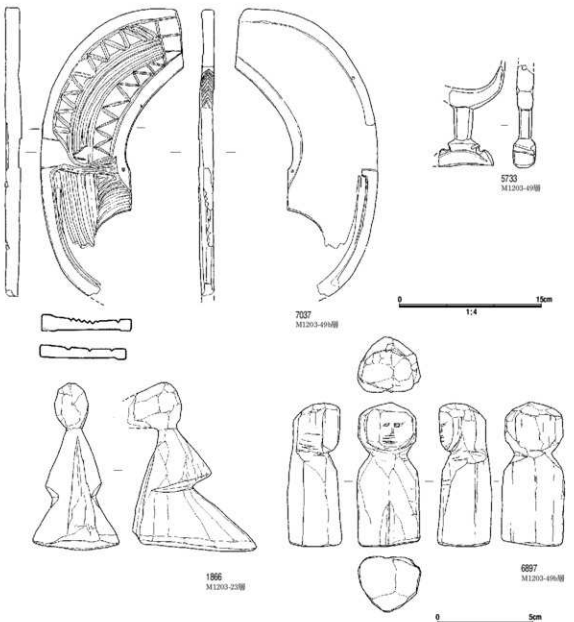


図73 装飾部材・形代 (1:4)

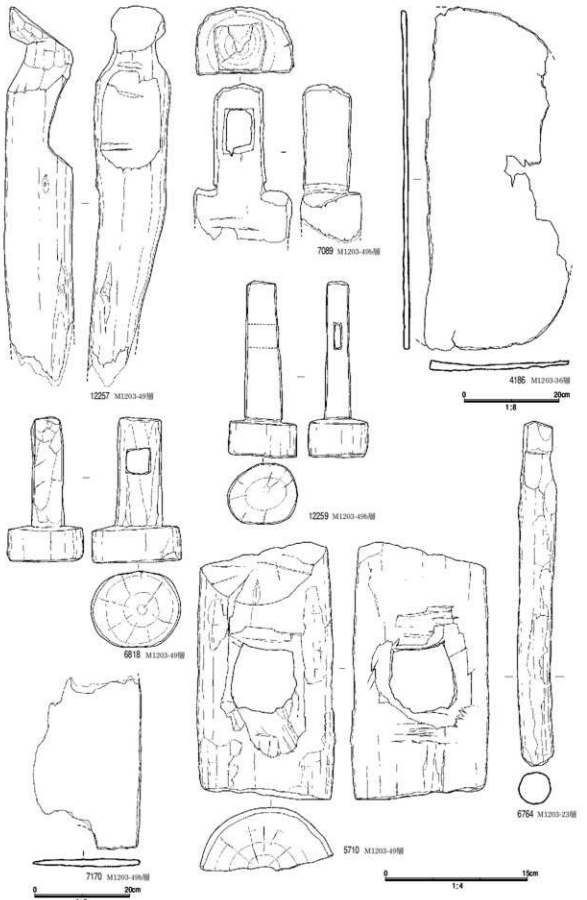

12257 M1203-49層
7089 M1203-49b層
4186 M1203-36層
0 20cm
1:8
12259 M1203-49b層
6818 M1203-49層
6764 M1203-23層
7170 M1203-49b層
5710 M1203-49層
0 15cm
1:4
0 20cm
1:8

図74 部材・板材（1:4）

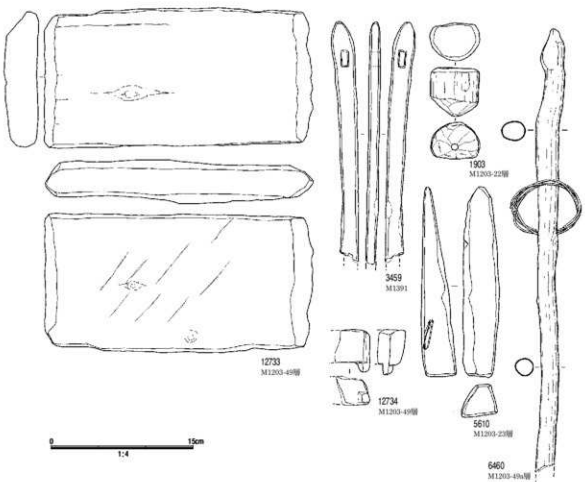

12733
M1203-49層
3459
M1391
1903
M1203-22層
12734
M1203-49層
5610
M1203-23層
6460
M1203-49a層
0
15cm
1:4

図75 部材・未分類(1:4)

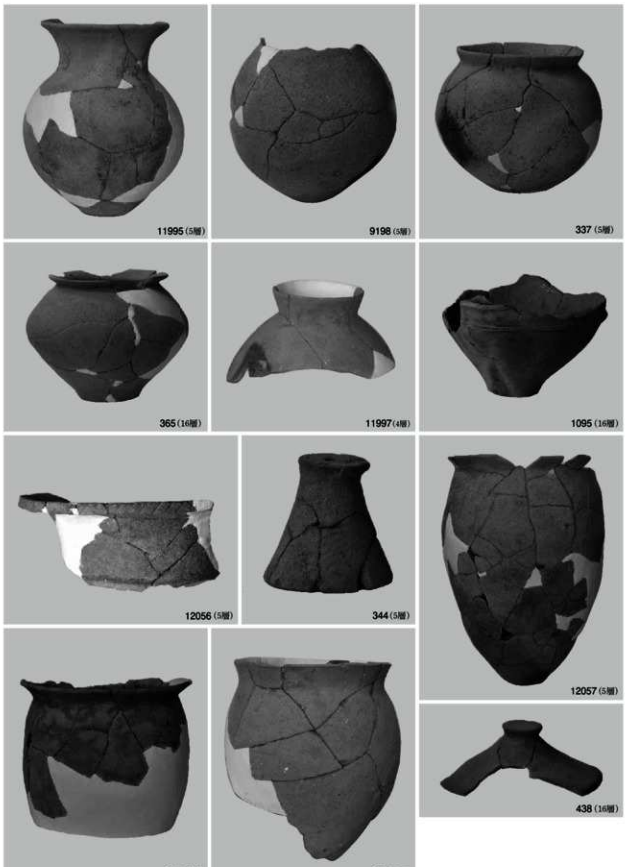


図76 谷1202出土土器

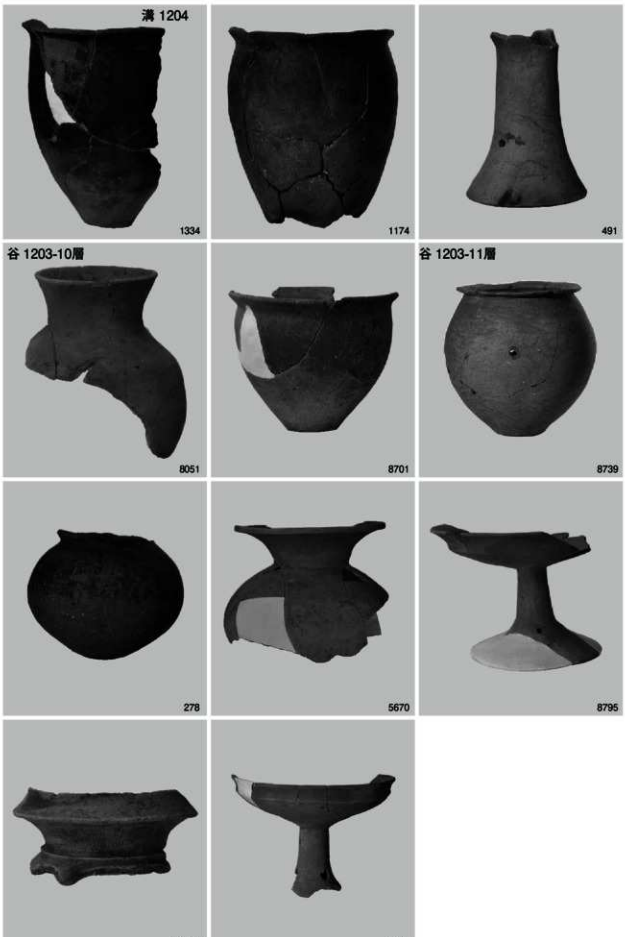


図77 谷1202, 谷1203-10層・11層出土土器

図78 谷1203-11層出土土器

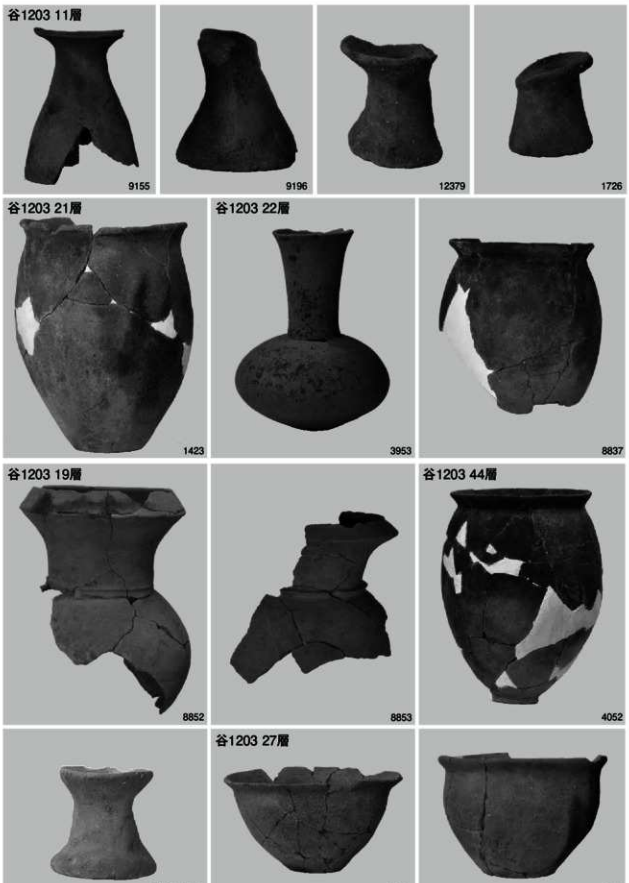


図79 谷1203 11層・21層・22層・19層・44層・27層出土土器

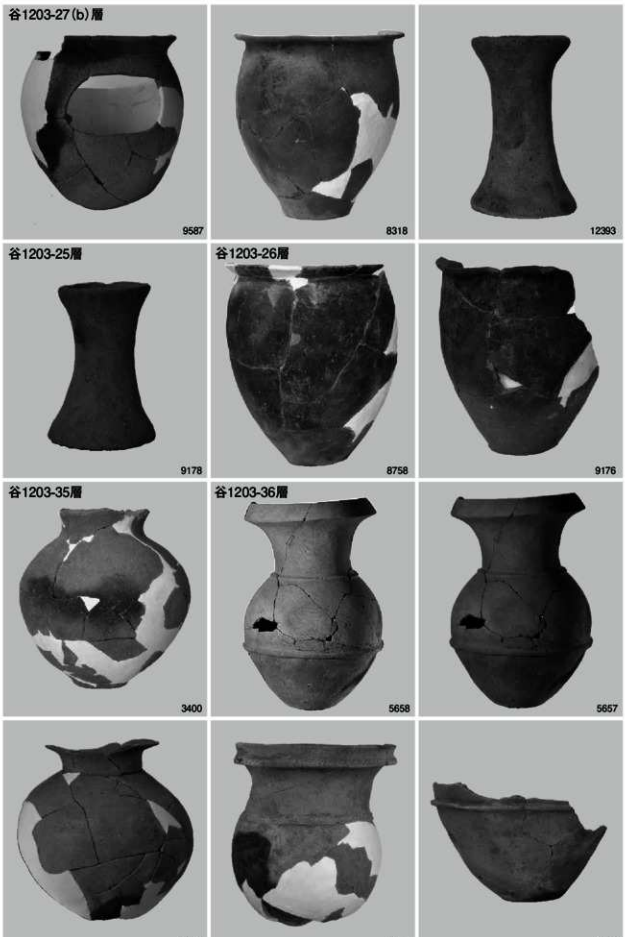


図80 谷1203 27(b)層・25層・26層・35層・36層出土土器

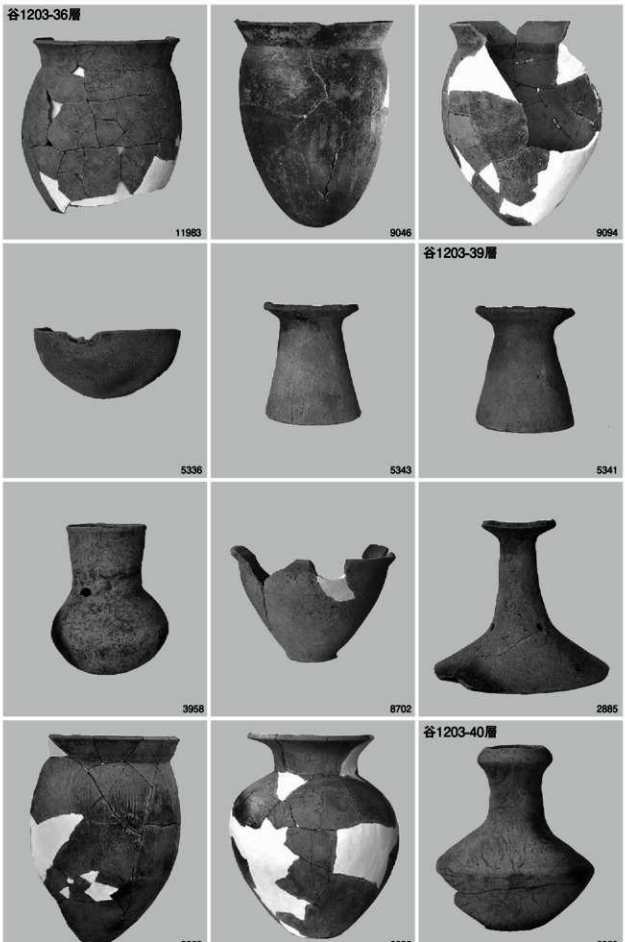


図81 谷1203 39層・40層出土土器

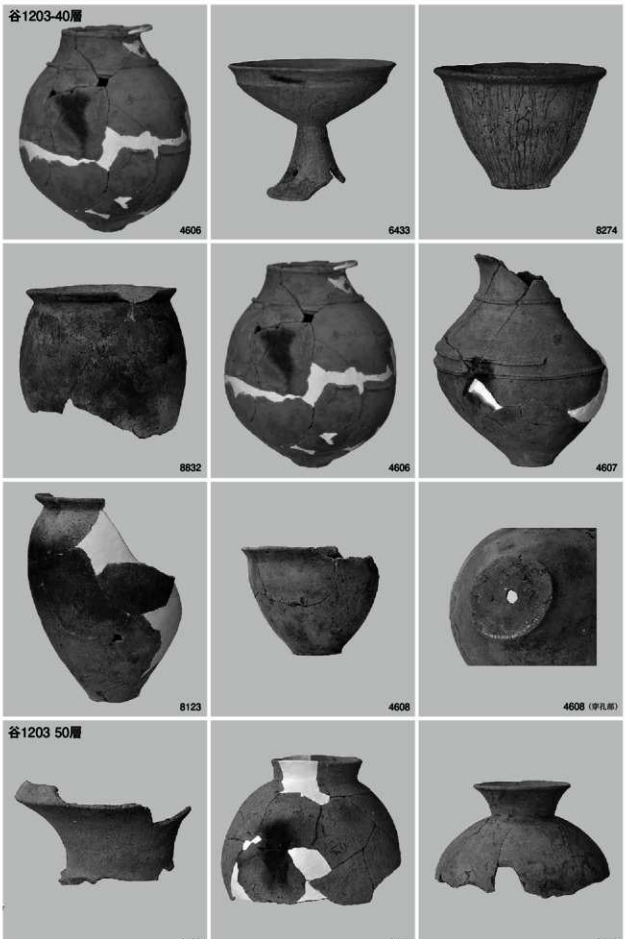


図82 谷1203 40層・50層出土土器

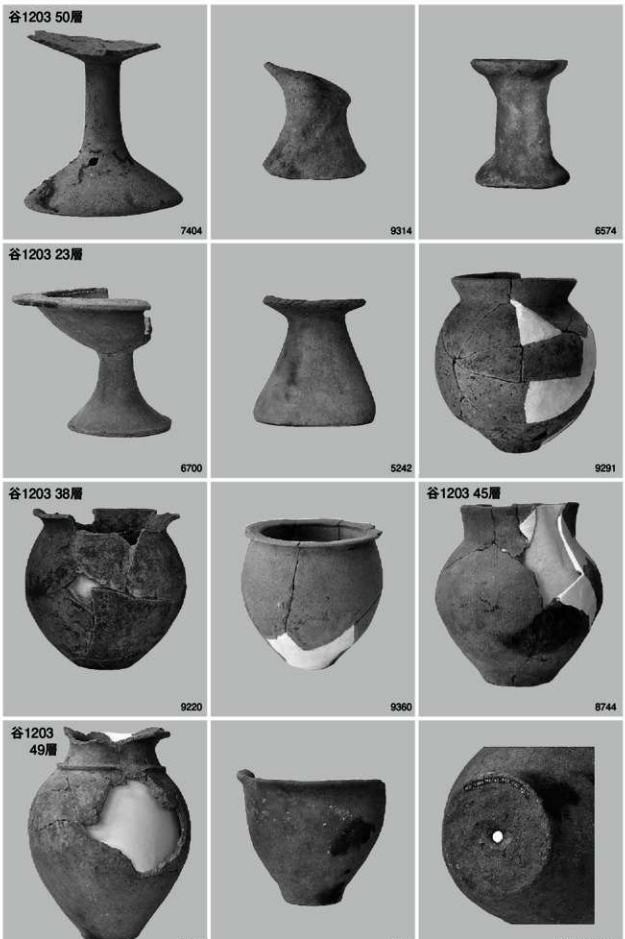


図83 谷1203 50層・23層・38層・45層・49層出土土器

図84 谷1203 49層・57層・42層出土土器

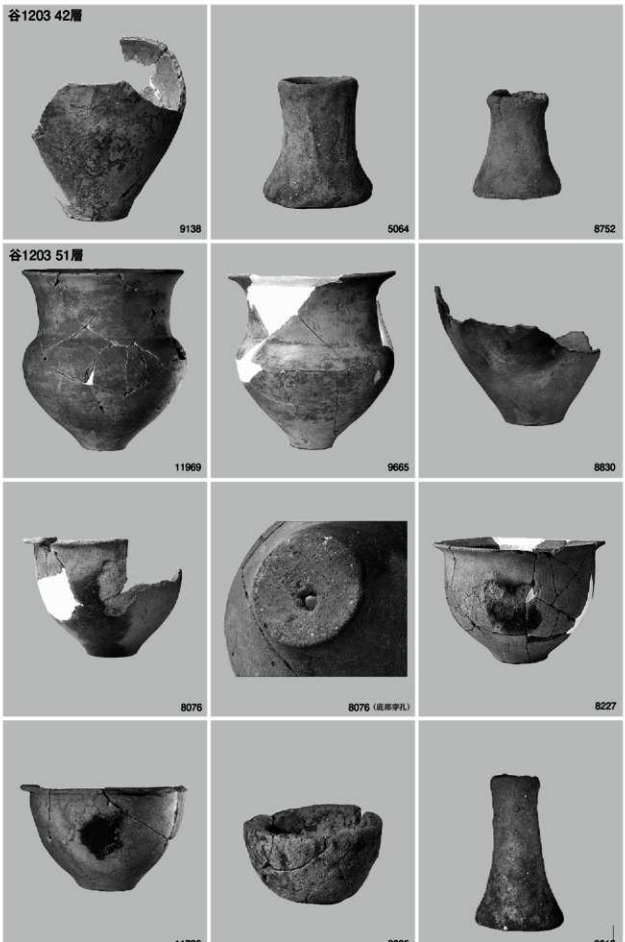


図85 谷1203 42層・51層出土土器

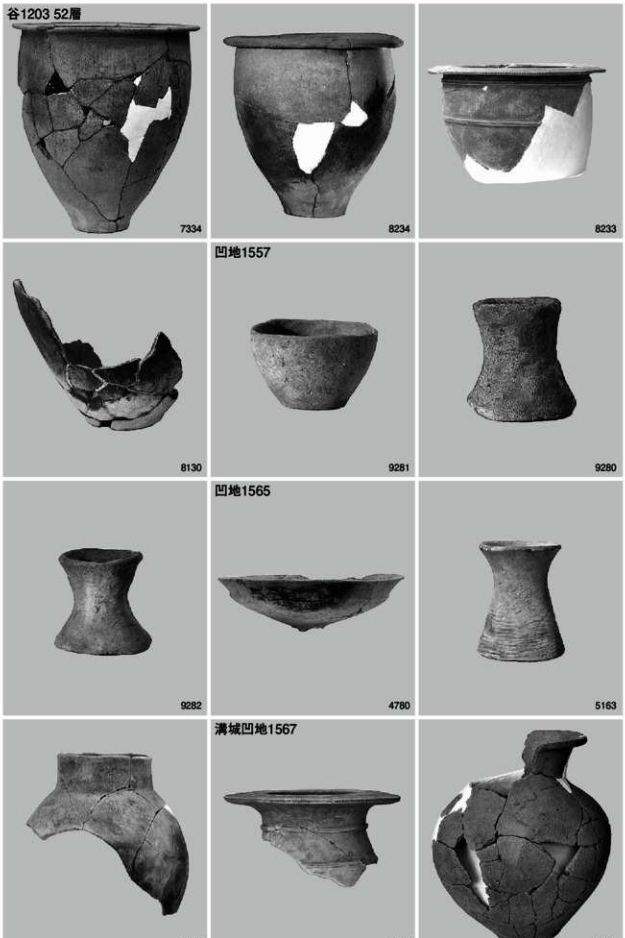


図86 谷1203 52層・凹地1557・凹地1565・溝状凹地1567出土土器

図87 溝状凹地1569出土土器

図88 楽浪系土器

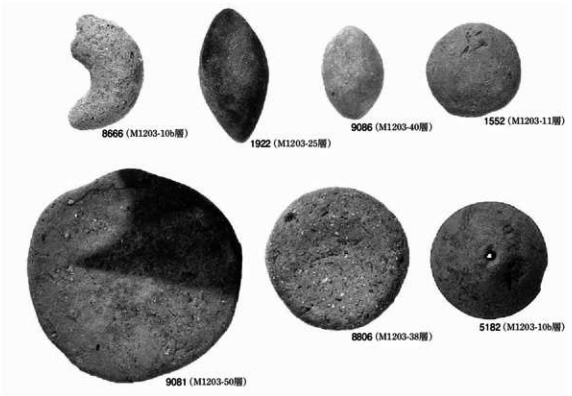


図89 土製品

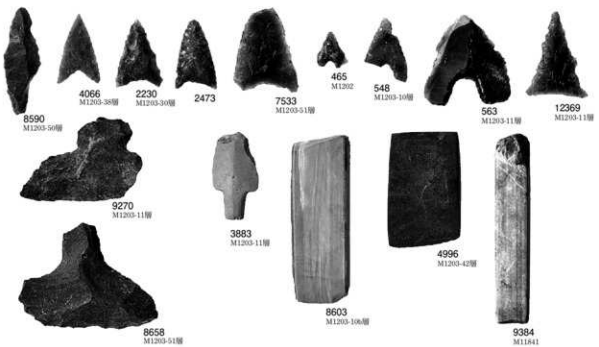


図90 石器(1)

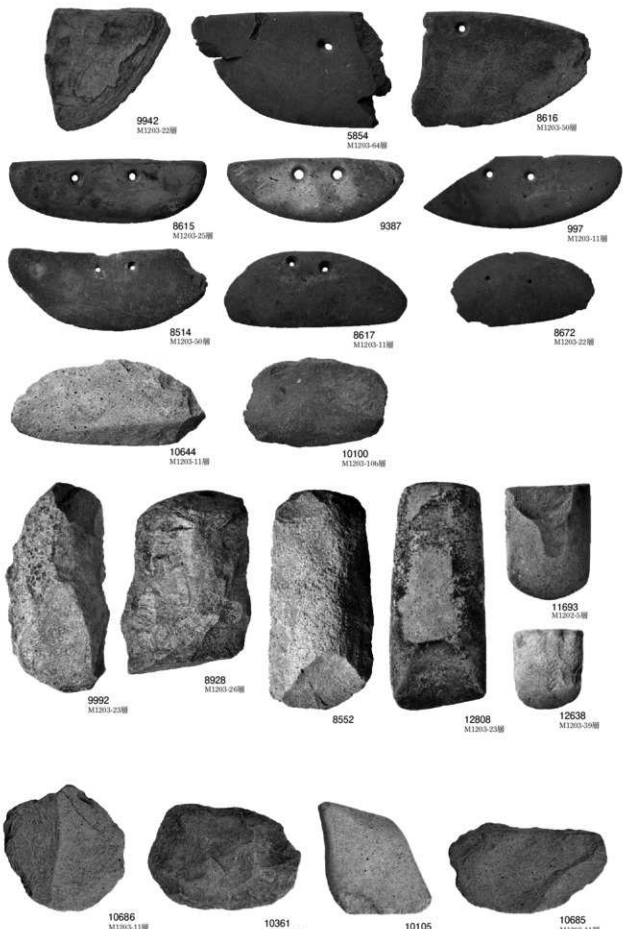

9942
M1203-22層
5854
M1203-64層
8616
M1203-50層
8615
M1203-25層
9387
997
M1203-11層
8514
M1203-50層
8617
M1203-11層
8672
M1203-22層
10644
M1203-11層
10100
M1203-106層
9992
M1203-23層
8928
M1203-26層
8552
12808
M1203-23層
11693
M1202-5層
12638
M1203-39層
10686
M1203-11層
10361
M1203-11層
10105
M1202-5層
10685
M1203-11層

図91 石器(2)

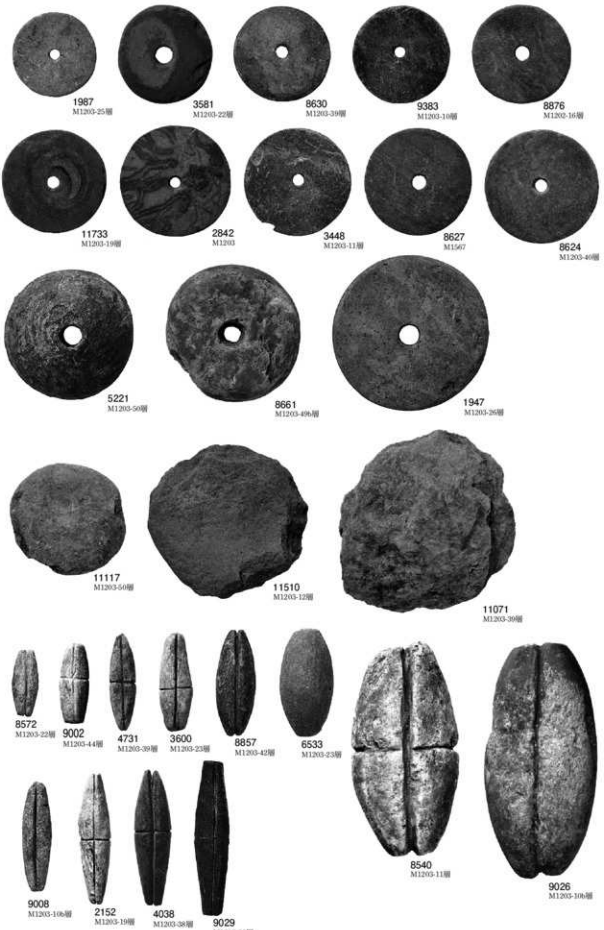

1987
M1203-25層
3581
M1203-22層
8630
M1203-39層
9383
M1203-10層
8876
M1202-16層
11733
M1203-19層
2842
M1203
3448
M1203-11層
8627
M1567
8624
M1203-40層
5221
M1203-50層
8661
M1203-40b層
1947
M1203-26層
11117
M1203-50層
11510
M1203-12層
11071
M1203-39層
8572
M1203-22層
9002
M1203-44層
4731
M1203-39層
3600
M1203-23層
8857
M1203-42層
6533
M1203-23層
8540
M1203-11層
9026
M1203-10b層
9008
M1203-10b層
2152
M1203-19層
4038
M1203-38層
9029
M1203-23層

図92 石器(3)

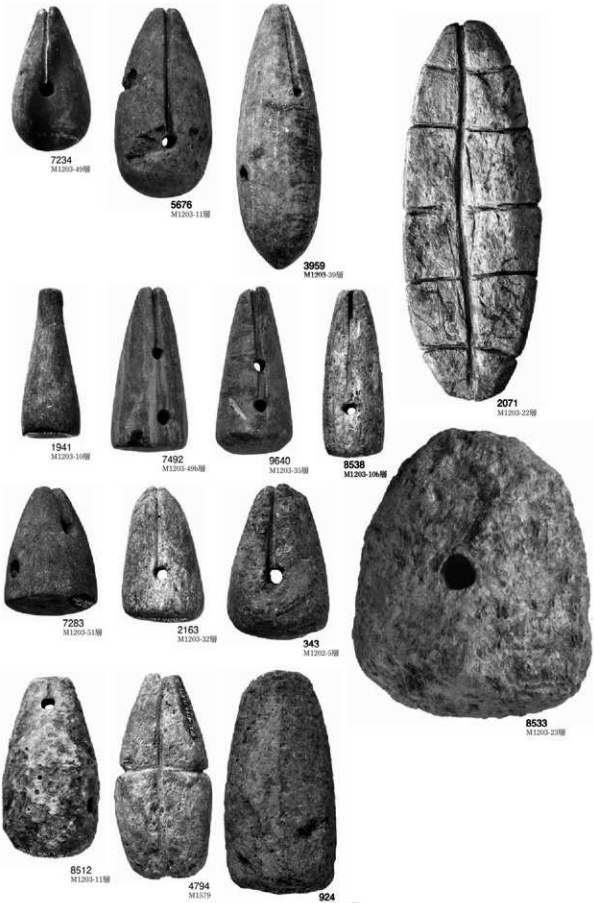

7234
M1203-49層
5676
M1203-11層
3959
M1203-39層
2071
M1203-22層
1941
M1203-10層
7492
M1203-49b層
9640
M1203-35層
8538
M1203-10b層
7283
M1203-51層
2163
M1203-32層
343
M1202-5層
8533
M1203-23層
8512
M1203-11層
4794
M1579
924
M1202-16層

図93 石器(4)

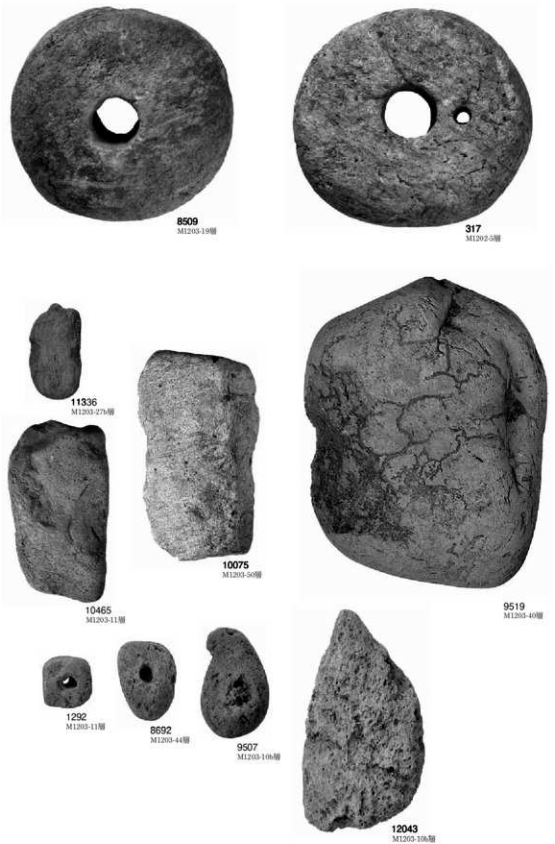

8509
M1203-19層
317
M1202-5層
11336
M1203-27b層
10075
M1203-50層
9519
M1203-40層
10465
M1203-11層
1292
M1203-11層
8692
M1203-44層
9507
M1203-10b層
12043
M1203-10b層

図94 石器(5)

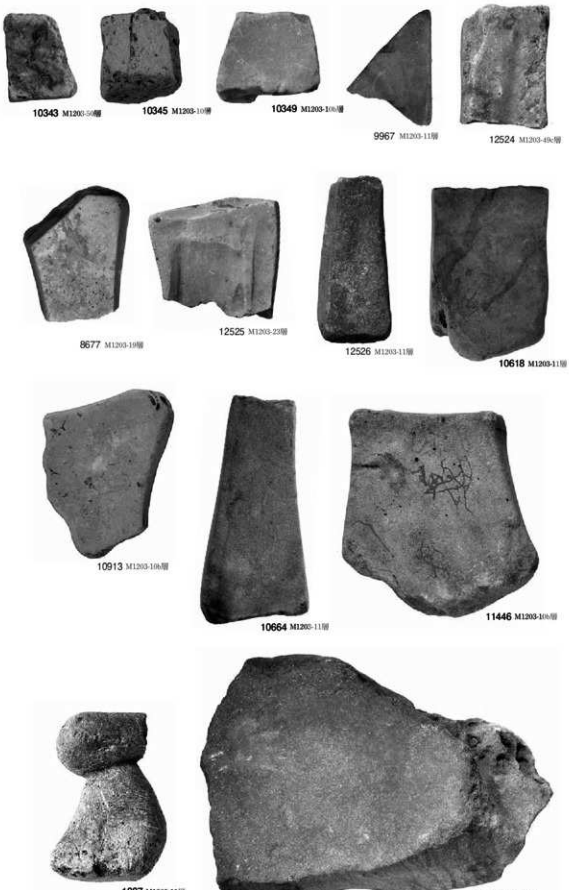

10343 M1203-5b層
10345 M1203-10層
10349 M1203-10b層
9967 M1203-11層
12524 M1203-10b層
8677 M1203-10層
12525 M1203-22層
12526 M1203-11層
10618 M1203-11層
10913 M1203-10b層
10664 M1203-11層
11446 M1203-10b層
1287 M1203-11層
3180 M1203-10b層

図95 石器(6)

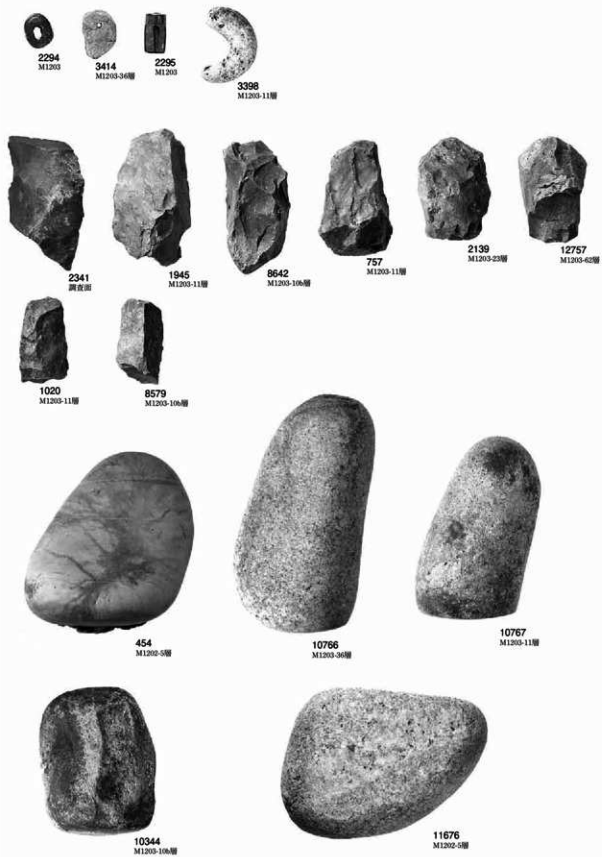

2294
M1203
3414
M1203-36層
2295
M1203
3398
M1203-11層
2341
調査面
1945
M1203-11層
8642
M1203-10b層
757
M1203-11層
2139
M1203-23層
12757
M1203-62層
1020
M1203-11層
8579
M1203-10b層
454
M1202-5層
10766
M1203-36層
10767
M1203-11層
10344
M1203-10b層
11676
M1202-5層

図96 石器(7)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
33	11	932	弥生土器 壺（袋状口縁壺）	流路1202-4層 G47-6344
33	11	934	弥生土器 器台	流路1202-4層 G47-6344
33	11	936	弥生土器 鉢（底部穿孔鉢）	流路1202-4層 G47-6344
33	11	938	弥生土器 小形甕	流路1202-4層 G47-6344
33	11	940	弥生土器 甕	流路1202-4層 G47-6354
33	11	941	弥生土器 小形甕	流路1202-4層 G47-6344
33	11	11997	弥生土器 壺	流路1202-4層 G47-62
33	11	12062	弥生土器 鉢	流路1202-4層 G47-6322
34	12	339	弥生土器 大形壺	流路1202-5層 G47-6343
34	12	346	弥生土器 壺	流路1202-5層 G47-6333
34	12	424	弥生土器 大形甕	流路1202-5層 G47-6321
34	12	452	弥生土器 鉢	流路1202-5層 G47-6333
35	13	315	弥生土器 大形甕	流路1202-5層 G47-6344
35	13	334	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6344
35	13	954	弥生土器 高坏	流路1202-15層 G47-6331
35	13	955	弥生土器 器台	流路1202-15層 G47-6331
36	14	1066	弥生土器 器台	溝1204 G46-6240
36	14	1086	弥生土器 器台	溝1204-3層 G47-7210
36	14	1163	弥生土器 壺	溝1204-4層 G47-6253
36	14	1283	弥生土器 器台	溝1204-4層 G47-7213
36	14	1284	弥生土器 甕（小形）	溝1204-4層 G47-7213
36	14	1332	弥生土器 壺	溝1204-4b層 G47-6223
36	14	12014	弥生土器 器台	溝1204 G47-62
36	14	12027	弥生土器 甕（小形甕）	溝1204 G47-62
36	14	12031	弥生土器 鉢（小形鉢）	溝1204 G47-62
36	14	12038	弥生土器 鉢	溝1204-3層 G47-7210
36	15	12986	弥生土器 壺（複合口縁壺）	柱穴1720
36	15	12987	弥生土器 壺（袋状口縁壺）	柱穴1772
36	15	12988	弥生土器 壺	柱穴1768
36	15	12989	弥生土器 小形手捏ね土器	柱穴1768
37	16	685	弥生土器 甕	谷1203-11層 G47-9241
37	16	1447	弥生土器 壺（無頸壺）	谷1203-11層 G46-8043
37	16	1723	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-8032
37	16	1725	弥生土器 無頸壺	谷1203-11層 G46-8032
37	16	2153	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-8033
37	16	5265	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9634
37	16	6415	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9721
38	17	1706	弥生土器 鉢	谷1203-11層 G46-8045
38	17	1801	弥生土器 鉢	谷1203-11層 G46-8034
38	17	3784	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631
38	17	8828	弥生土器 脚付壺	谷1203-11層 G46-9624
38	17	9289	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G46-8422
38	17	11940	弥生土器 甕	谷1203-10層 G46-0812
39	18	271	弥生土器 支脚（青形支脚）	谷1203-11層 G47-9151
39	18	296	弥生土器 鉢（平底鉢）	谷1203-11層 G47-9214
39	18	1257	弥生土器 支脚（青形支脚）	谷1203-11層 G46-0924
39	18	1466	弥生土器 支脚（青形支脚）	谷1203-11層 G46-8032
39	18	1695	弥生土器 器台	谷1203-11層 G46-8034
39	18	1749	弥生土器 支脚（青形支脚）	谷1203-11層 G46-9945
39	18	5081	弥生土器 器台	谷1203-11層 G46-9721
39	18	5082	弥生土器 器台	谷1203-11層 G46-9721
39	18	8743	弥生土器 大形壺	谷1203-11層 G47-9252
39	18	9160	弥生土器 浅鉢	谷1203-11層 G47-0212
39	18	9557	弥生土器 支脚	谷1203-22層 G46-9842
40	19	4521	弥生土器 高坏	谷1203-19層 G46-9821
40	19	4564	弥生土器 壺	旧地1565-19層 G46-9723
40	19	4819	弥生土器 鉢	旧地1565-19層 G46-9732

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
40	19	8319	弥生土器 甕	谷1203-44層 G46-9752
40	19	8327	弥生土器 甕	旧地1565-40層 G46-9713
40	19	8759	弥生土器 高坏	谷1203-22層 G46-9644
40	19	9080	弥生土器 高坏	谷1203-10b層 G46-9622
40	19	9523	弥生土器 鉢	谷1203-22層 G46-9822
40	19	11805	弥生土器 器台	谷1203-44層 G46-9643
41	20	1864	弥生土器 甕	谷1203-23層 G46-9833
41	20	1942	弥生土器 壺	谷1203-27b層 G46-8023
41	20	9297	弥生土器 小形手捏ね土器（甕）	谷1203-23層 G46-8052
41	20	9305	弥生土器 甕	谷1203-23層 G46-9642
41	20	9306	弥生土器 甕	谷1203-23層 G46-9752
41	20	9535	弥生土器 甕（小形甕）	谷1203-23ク層 G46-9631
41	20	9585	弥生土器 小形甕	谷1203-23層 G46-9535
41	20	9604	弥生土器 鉢	谷1203-23層 G46-9844
41	20	9606	弥生土器 器台	谷1203-28層 G46-8052
42	21	1943	弥生土器 手捏ね土器（壺）	谷1203-27b層 G46-8023
42	21	5635	弥生土器 手捏ね土器（肥手付杯）	谷1203-23層 G46-9631
42	21	12990	弥生土器 大形壺	谷1203-19層 G46-8023
42	22	5753	弥生土器 鉢	谷1203-49a層 G46-9534
42	22	7059	弥生土器 甕	谷1203-49c層 G46-8422
42	22	8239	弥生土器 甕	谷1203-48層 G46-8543
42	22	9120	弥生土器 小形手捏ね土器（鉢）	谷1203-49b層 G46-8531
42	22	11845	弥生土器 高坏	谷1203-45層 G46-9752
42	22	11889	弥生土器 鉢	谷1203-49b層 G46-7353
43	23	8994	弥生土器 壺	谷1203-50層 G46-7354
43	23	6190	弥生土器 高坏	谷1203-50層 G46-8423
43	23	6567	弥生土器 高坏	谷1203-50層 G46-7353
43	23	7405	弥生土器 壺（複合口縁壺）	谷1203-50層 G46-8531
43	23	8078	弥生土器 甕	谷1203-51層 G46-8544
43	23	8149	弥生土器 壺	谷1203-23層 G46-9642
43	23	11885	弥生土器 甕	谷1203-50層 G46-7355
44	24	6286	弥生土器 鉢	谷1203-50層 G46-8412
44	24	7491	弥生土器 高杯	谷1203-50層 G46-7351
44	24	8827	弥生土器 壺（悪付壺）	谷1203-25層 G46-9811
44	24	8833	弥生土器 鉢	谷1203-25層 G46-9811
44	24	8993	弥生土器 鉢	流路1202-5層 G47-6344
44	24	9486	須恵器 壺	谷1203-35層 G46-8413
44	24	9563	弥生土器 鉢	谷1203-50層 G46-7353
44	24	9567	弥生土器 支脚	谷1203-35層 G46-8544
44	24	9603	弥生土器 器台	谷1203-50層 G46-8412
44	24	12058	弥生土器 甕	谷1203-35層 G46-8543
44	24	12059	弥生土器 盤	谷1203-35層 G46-8543
44	24	12060	弥生土器 鉢（丸底）	谷1203-35層 G46-8543
45	25	4283	弥生土器 高坏	谷1203-48層 G46-9722
45	25	5658	弥生土器 壺	谷1203-36層 G46-7353
45	25	5681	弥生土器 壺（無頸壺）	谷1203-36層 G46-7354
45	25	5689	弥生土器 壺	谷1203-36層 G46-7353
45	25	8797	弥生土器 長頸壺	谷1203-36層 G46-7341
45	25	11961	弥生土器 高坏	谷1203-36層 G46-8314
45	25	11964	弥生土器 壺（二重口縁壺）	谷1203-36層 G46-8421
46	26	4584	弥生土器 壺（無頸壺）	土器投棄1569-39層 G46-9614
46	26	4681	弥生土器 甕（小形甕）	土器投棄1569 G46-8652
46	26	4687	弥生土器 壺	土器投棄1569 G46-9612
46	26	4688	弥生土器 鉢	土器投棄1569 G46-9612
46	26	6681	弥生土器 高坏	谷1203-39層 G46-9611
46	26	8213	弥生土器 甕（小形甕）	谷1203-39層 G46-9611
46	26	8242	弥生土器 器台	谷1203-36層 G46-8354
46	26	8246	弥生土器 鉢	谷1203-39層 G46-8545
46	26	11877	弥生土器 器台	谷1203-36層 G46-7353
46	26	12013	弥生土器 鉢（丸底深鉢）	谷1203-36層 G46-8422
46	26	12048	弥生土器 支脚	谷1203-36層 G46-8411
47	27	4845	弥生土器 甕	土器投棄1570-41層 G46-8752

表7 掲載遺物一覧 (1)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
47	27	4847	弥生土器 器台	土器投棄1570-41層 G46-8752
47	27	5167	弥生土器 器台	土器投棄1570 G46-8751
47	27	5169	弥生土器 甕	土器投棄1570 G46-8751
47	27	8274	弥生土器 鉢	谷1203-40層 G46-9715
47	27	11985	弥生土器 台付壺(底付)	谷1203-64層 G46-7441
47	27	11986	弥生土器 鉢	土器投棄1570-40層 G46-8654
48	28	3367	弥生土器 壺	谷1203-27層 G46-8024
48	28	7386	弥生土器 壺 (袋状口縁壺)	谷1203-42層 G46-8644
48	28	9358	弥生土器 台付壺(底付)	谷1203-27層 G46-8024
48	28	9576	弥生土器 支脚	谷1203-27a層 G46-8014
48	28	11820	弥生土器 壺	谷1203-42層 G46-8645
48	28	12380	弥生土器 壺	谷1203-27a層 G46-8013
49	29	5061	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8645
49	29	7372	弥生土器 高坏	谷1203-42層 G46-8751
49	29	7385	弥生土器 鉢	谷1203-42層 G46-8644
49	29	8106	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8751
49	29	8116	弥生土器 壺	谷1203-42層 G46-8644
49	29	8137	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8751
49	29	8735	弥生土器 鉢	谷1203-42層 G46-8645
49	29	11919	弥生土器 壺 (袋状口縁壺)	谷1203-42層 G46-8644
50	30	7298	弥生土器 壺	谷1203-51層 G46-8322
50	30	7312	弥生土器 甕	谷1203-51層 G46-7331
50	30	7313	弥生土器 壺	谷1203-51層 G46-7331
50	30	7513	弥生土器 壺	谷1203-51層 G46-8531
50	30	8079	弥生土器 鉢	谷1203-51層 G46-8544
50	30	8200	弥生土器 鉢	谷1203-51層 G46-8414
50	30	11878	弥生土器 壺 (小形袋状口縁壺)	谷1203-52b層 G46-8413
29	31	5812	弥生土器 壺	谷1203-52層 G46-8425
29	31	7335	弥生土器 壺 (広口壺)	谷1203-52層 G46-8414
29	31	8199	弥生土器 壺	谷1203-52層 G46-8414
29	31	9605	弥生土器 高坏	谷1203-52層 G46-8641
29	31	11828	弥生土器 支脚	谷1203-52b層 G46-8415
30	32	7454	弥生土器 壺 (袋状口縁細頸壺)	谷1203-53層 G46-9533
30	32	7528	弥生土器 壺	谷1203-67層 G46-9633
30	32	8112	弥生土器 壺	谷1203-53層 G46-9523
30	32	8228	弥生土器 甕	谷1203-52層 G46-8414
30	32	11984	弥生土器 甕	谷1203-52層 G46-8414
53	33	4762	弥生土器 甕 (小形甕)	溝状回地1561 G46-0713
53	33	6166	弥生土器 壺	溝状回地1567 G46-8322
53	33	6179	弥生土器 壺 (壺棺)	溝状回地1567 G46-8334
53	33	8683	弥生土器 壺付土器 (無頸壺形)	土器投棄1570-41層 G46-8752
24	34	7475	弥生土器 小形手捏土器	井戸2029
24	34	7479	弥生土器 甕	井戸2029
54	35	5375	弥生土器 甕	土器埋置1718
54	35	5395	弥生土器 壺	土器埋置1718
54	35	5396	弥生土器 壺 (広口壺)	土器埋置1716
54	35	5697	石器/利器 石匙	谷1203-49層 G46-9514
55	36	141	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-8253
55	36	192	楽浪系土器 鉢 (平底鉢)	谷1203-11層 G47-9254
55	36	1986	楽浪系土器 鉢	谷1203-19層 G46-8032
55	36	2701	楽浪系土器 鉢	谷1203-10層 G46-8031
55	36	3314	楽浪系土器 鉢	谷1203-10b層 G46-7235
55	36	3625	楽浪系土器 椀	谷1203-40層 G46-9714
55	36	3702	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-8654
55	36	3732	楽浪系土器 鉢	谷1203-23層 G46-9721
55	36	8602	楽浪系土器 鉢	谷1203-10b層 G46-9812
55	36	8604	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-9713
55	36	8606	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-9614
55	36	8607	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-8654
55	36	8608	楽浪系土器 大型鉢	谷1203-23層 G46-9821
55	36	8660	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-9713
55	36	8663	楽浪系土器 鉢	谷1203-22層 G46-9831
55	36	8664	楽浪系土器 鉢	谷1203-22層 G46-9821

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
55	36	8665	楽浪系土器 鉢	谷1203-10b層 G46-9831
55	36	8994	楽浪系土器 鉢	回地1565 G46-9733
55	36	8995	楽浪系土器 鉢	谷1203-10層 G46-9011
55	36	9051	楽浪系土器 鉢	谷1203-23層 G46-9843
55	36	9202	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-9135
55	36	9203	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-9153
55	36	9437	楽浪系土器 鉢	谷1203-34層 G46-0923
55	36	9438	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G46-9824
55	36	9440	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G46-8542
55	36	9442	楽浪系土器 大型鉢	谷1203-11層 G46-9051
55	36	12982	楽浪系土器 鉢	谷1203-48層 G46-8551
55	36	12984	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-9214
56	37	716	三韓系瓦質土器 鉢	谷1203-10層 G46-9924
56	37	3485	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-40層 G46-7355
56	37	6579	三韓系瓦質土器 鍋	谷1203-50層 G46-7354
56	37	7621	三韓系土器	谷1203-36層 G46-8824
56	37	8501	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-48層 G46-8313
56	37	8506	三韓系瓦質土器 壺	溝状回地1567-47層 G46-8323
56	37	8605	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-36層 G46-8411
56	37	8789	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10b層 G46-9534
56	37	9056	陶質土器 鉢	谷1203-10b層 G46-9851
56	37	9057	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-11層 G46-9743
56	37	9062	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-49a層 G46-8312
56	37	9581	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-35層 G46-8412
56	37	9656	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10b層 G46-8235
57	38	1382	外来系弥生土器 甕 (山陰か) 壺	谷1203 G46-8023
57	38	2661	外来系弥生土器 (近畿西部系) 器台	谷1203-36層 G46-8542
57	38	4049	外来系弥生土器 (山陰系) 壺	谷1203-36層 G46-8435
57	38	8788	外来系弥生土器 (山陰系) 壺	谷1203-48層 G46-8551
57	38	8812	外来系弥生土器 (山陰系) 小型甕	谷1203-38層 G46-7352
57	38	9054	外来系弥生土器 (西部瀬戸内系) 壺	谷1203-49a層 G46-8433
57	38	9078	外来系弥生土器 (西部瀬戸内系) 壺	谷1203-36層 G46-8422
57	38	9089	外来系土師器甕 (山陰系) 甕	谷1203-36層 G46-8423
57	38	9091	外来系弥生土器 (近畿系河内か) 壺	谷1203-49層 G46-7351
57	38	9164	外来系弥生土器 (山陰系) 器台 (鼓形器台)	谷1203-11層 G46-9014
57	38	9278	外来系弥生土器 (山陰系) 低脚杯	谷1203-36層 G46-8553
57	38	9528	外来系弥生土器 (山陰系) 甕	谷1203-10b層 G46-9822
57	38	11782	外来系弥生土器 (瀬戸内系) 甕	谷1203-49a層 G46-8445
57	38	11862	外来系弥生土器 (山陰系) 鼓形器	谷1203-11層 G46-9032 か
57	38	11867	外来系弥生土器 (山陰系) 鼓形器	谷1203-11層 G46-9032 か
57	38	11926	外来系弥生土器 (瀬戸内系) 甕	谷1203-23層 G46-9612
57	38	12377	外来系弥生土器 (山陰系) 壺(小型甕)	谷1203-11層 G47-9312
57	38	12985	外来系弥生土器 (瀬戸内系) 壺	谷1203-23層 G46-9735
58	39	748	土師器 甕(布留式系) 壺	谷1203-11層 G46-9935
58	39	4924	外来系弥生土器 広片口三耳鉢	柱穴1630 G46-88
58	39	8308	外来系弥生土器 (豊前系) 甕	流路1388-35層 G46-7235
58	39	9079	外来系弥生土器 壺 (高杯)	谷1203-23層 G46-9821
58	39	9184	外来系弥生土器/土師器 高坏	谷1203-10層 G46-8041

表8 掲載遺物一覧 (2)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
58	39	9185	外来系弥生土器（豊前系） 壺	谷1203-22層 G46-9942
58	39	9204	外来系弥生土器 広片口二耳鉢	谷1203-10b層 G46-8035
58	39	9206	外来系弥生土器 鉢	谷1203-11層 G46-8055
58	39	9483	外来系弥生土器（肥前型） 器台	谷1203-11層 G46-9833
36	40	471	青銅器 土鋲	谷1203-11層 G46-9052
36	40	1480	青銅器 小形仿製鏡	谷1203-11層 G46-8042
36	40	1884	青銅器 小形仿製鏡	谷1203-10b層 G46-9512
36	40	1920	青銅器 鋼鏡	谷1203-10b層 G46-9512
36	40	4027	青銅器 小形仿製鏡	谷1203-22層 G46-9634
36	40	4472	青銅器 小鋼鐸	土器投棄1569 G46-8654
36	40	5350	青銅器 貨泉	谷1203-62層 G46-9634
37	41	66	鉄器/利器 鉄斧（袋状鉄斧）	谷1203-11層 G47-9145
37	41	881	青銅器 銅鏃	谷1203-11層 G46-9815
37	41	1183	青銅器 銅鏃	濃1204-4b層 G47-6212
37	41	2293	青銅器 銅鏃	谷1203 G46-8413
37	41	2861	鉄器 鑿状鉄器	谷1203-10b層 G46-9553
37	41	3624	青銅器/利器 銅鏃	谷1203-30層 G46-8754
37	41	3655	青銅器 銅鏃	谷1203-28層 G46-8044
37	41	3686	鉄器 不整板状鉄製品	谷1203-40層 G46-9615
37	41	5153	青銅器/利器 銅鏃	谷1203-10b層 G46-9753
37	41	5222	青銅器 銅鏃	谷1203-26層 G46-8543
38	42	7083	鉄器 鉇造鉄斧	谷1203-51層 G46-7353
38	42	7309	鉄器/利器 鉄斧（鉇造鉄斧）	谷1203-52b層 G46-7354
39	43	881	青銅器 銅鏃	谷1203-11層 G46-9815
39	43	1183	青銅器 銅鏃	濃1204-4b層 G47-6212
39	43	1480	青銅器 小形仿製鏡	谷1203-11層 G46-8042
39	43	1920	青銅器 鋼鏡	谷1203-10b層 G46-9512
39	43	2293	青銅器 銅鏃	谷1203 G46-8413
39	43	3624	青銅器/利器 銅鏃	谷1203-30層 G46-8754
39	43	3651	鉄器 鉇造鉄斧	谷1203-29層 G46-8751
39	43	3655	青銅器 銅鏃	谷1203-28層 G46-8044
39	43	4027	青銅器 小形仿製鏡	谷1203-22層 G46-9634
39	43	4472	青銅器 小鋼鐸	土器投棄1569 G46-8654
39	43	5153	青銅器/利器 銅鏃	谷1203-10b層 G46-9753
39	43	5222	青銅器 銅鏃	谷1203-26層 G46-8543
39	43	5350	青銅器 貨泉	谷1203-62層 G46-9634
40	44	6376	平鍬（有肩有段）	谷1203-23層 G46-9741
40	44	6443	平鍬（有肩）	谷1203-23層 G46-9744
40	44	6487	平鍬（有肩無段）	谷1203-23層 G46-9642
40	44	6868	平鍬（有肩有段）	谷1203-49a層 G46-8434
40	44	6882	平鍬（有肩有段）	谷1203-49b層 G46-8435
40	44	6941	平鍬 （有肩有段）	谷1203-49b層 G46-8424
40	44	6976	平鍬	谷1203-49b層 G46-8422
40	44	7239	平鍬（有肩有段）	田地1557 G46-8041
40	44	7559	平鍬（有肩）	谷1203-49b層 G46-7354
41	45	4559	木器 平鍬	田地1565-23層 G46-9732
41	45	5653	木器 平鍬（有肩無段）	谷1203-23層 G46-9632
41	45	6872	平鍬（有肩有段）	谷1203-49a層 G46-8434
41	45	6998	平鍬 （有肩有段）	谷1203-49b層 G46-8423
41	45	7004	平鍬（有肩有段）	谷1203-49b層 G46-8434
41	45	7236	平鍬	谷1203-23層 G46-8051
41	45	12390	平鍬（有肩有段）	谷1203-23層 G46-9643
42	46	2648	平鍬（無肩無段）	谷1203-19層 G46-8032
42	46	4086	平鍬（有肩有段）	谷1203-49層 G46-8315
42	46	5216	平鍬（無肩無段）	田地1565 G46-9722
42	46	6495	平鍬（無肩有段）	谷1203-23層 G46-9632
42	46	6753	弥生土器	谷1203-49a層 G46-9515
42	46	7058	平鍬 （無肩有段）	谷1203-49c層 G46-8422
43	47	2084	平鍬（有肩有段/円刃）	谷1203-26層 G46-9955

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
43	47	5214	鍬柄（泥除け/紐固定）	田地1565 G46-9723
43	47	5529	鍬柄（泥除け/紐固定）	谷1203-23層 G46-9632
43	47	5652	木器 鍬柄（泥除け/紐固定）	谷1203-23層 G46-9632
43	47	5882	平鍬（五刃有肩有段）	谷1203-49b層 G46-9513
43	47	6860	平鍬（無肩無段）	谷1203-49a層 G46-8432
43	47	6862	広鍬	谷1203-49a層 G46-8411
43	47	7036	鍬柄（泥除け）	谷1203-64層 G46-7355
43	47	7069	平鍬（四刃有肩有段）	谷1203-49b層 G46-7353
44	48	2649	二又鍬（有肩）	谷1203-19層 G46-8032
44	48	3644	太股 平鍬	谷1203-19層 G46-9733
44	48	5504	狭鍬（有肩）	谷1203-23層 G46-9645
44	48	5649	二又鍬（無肩）	谷1203-23層 G46-9525
44	48	6797	三又鍬（有肩）	谷1203-49c層 G46-9513
44	48	6861	狭鍬（有肩）	谷1203-49a層 G46-8411
44	48	12295	狭鍬（無肩）	谷1203-23層 G46-9632
45	49	1913	二又鍬（無肩）	谷1203-22層 G46-9942
45	49	1916	横鍬	谷1203-19層 G46-9923
45	49	2075	二又鍬（無肩）	谷1203-26層 G46-9924
45	49	2232	又鍬（有肩）	谷1203-34層 G46-9032
45	49	5732	木器 二又鍬（有肩）	谷1203-49層 G46-9523
45	49	5795	二又鍬（無肩）	谷1203-49b層 G46-9535
45	49	5919	三又鍬（無肩）	谷1203-49c層 G46-8552
45	49	6586	二又鍬（無肩）	谷1203-23c層 G46-9741
45	49	6858	又鍬（有肩）	谷1203-55層 G46-8432
45	49	7705	木器 三又鍬	6
46	50	3644	木器 平鍬	谷1203-19層 G46-9733
46	50	4668	木器 鍬柄（鍬柄）	谷1203-23層 G46-9734
46	50	5708	鍬（柄部）	谷1203-49層 G46-9524
46	50	5736	鍬柄（鍬柄）	谷1203-49層 G46-9513
46	50	5741	鍬柄（鍬柄）	谷1203-49層 G46-8552
46	50	5918	膝柄鍬	谷1203-49b層 G46-8542
46	50	6390	二又鍬（無肩）	谷1203-23層 G46-9735
46	50	6492	鍬柄（鍬身固定具）	谷1203-23層 G46-9632
46	50	7077	鍬柄（鍬柄）	谷1203-49b層 G46-8434
46	50	7238	鍬柄（鍬身固定具）	谷1203-49b層 G46-7334
46	50	7590	鍬柄（鍬身固定具）	谷1203-49b層 G46-8314
46	50	12543	木器 鍬柄（鍬身固定具）	谷1203-26層 G46-9923
47	51	5800	一木鍬	谷1203-49b層 G46-9514
47	51	5889	一木鍬（小形鍬）	谷1203-49b層 G46-8553
47	51	5892	一木鍬（小形）	谷1203-49b層 G46-9513
47	51	7106	一木鍬	谷1203-49b層 G46-8314
47	51	7591	鍬柄（鍬柄）	谷1203-49b層 G46-8314
48	52	1911	鍬	谷1203-22層 G46-9942
48	52	2653	柄振	谷1203-19層 G46-8021
48	52	2727	柄振	土壙1391 G46-8033
48	52	4427	一木鍬（縁欠）	谷1203-19層 G46-9921
48	52	5530	田下駄/部材（和カンジキ形/横板部材）	谷1203-23層 G46-9631
48	52	5589	太鼓具（柄付）	谷1203-23層 G46-9643
48	52	5717	鍬（柄部）	谷1203-49層 G46-9524
48	52	5806	鍬（柄部）	谷1203-49a層 G46-8552
48	52	6846	柄振	谷1203-23層 G46-9632
48	52	6869	一木鍬	谷1203-49a層 G46-8434
49	53	2262	竪杵（有肩長胴溝形）	谷1203-34層 G47-9123
49	53	5210	木器 竪杵（無肩）	田地1565 G46-9723
49	53	5702	竪杵（長胴溝形）	谷1203-49層 G46-9524
49	53	5713	竪杵（長胴溝形）	谷1203-49層 G46-9514
49	53	5915	竪杵	谷1203-49c層 G46-8551

表9 掲載遺物一覧 (3)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
49	53	6784	横槌	谷1203-49b層 G46-8542
49	53	7003	竪杵（有肩涙滴形）	谷1203-49b層 G46-8434
49	53	7075	竪杵	谷1203-49b層 G46-8434
50	54	1861	木器 砧（撫肩）	谷1203-23層 G46-9823
50	54	2237	砧 （撫肩）	谷1203-23層 G46-9824
50	54	5506	竪杵（有肩）	谷1203-23層 G46-9645
50	54	5802	砧	谷1203-49b層 G46-8535
50	54	6493	竪杵	谷1203-23層 G46-9632
50	54	6545	竪杵（有肩）	谷1203-23イ層 G46-9741
50	54	7569	竪杵（単頭有肩）	谷1203-49c層 G46-7352
51	55	2123	木器 竪杵（単頭有肩）	谷1203-10層 G46-9051
51	55	2189	竪杵（単頭有肩）	谷1203-26層 G46-9913
51	55	3706	木器 砧（纏形）	谷1203-23層 G46-9743
51	55	4201	木器 竪杵（単頭有肩纏形）	谷1203-48層 G46-9524
51	55	5600	竪杵（撫肩）	谷1203-23層 G46-9645
51	55	5726	竪杵（単頭撫肩纏形）	谷1203-49層 G46-9535
51	55	5794	竪杵（単頭有肩纏形）	谷1203-49b層 G46-8552
51	55	6687	竪杵（単頭有肩纏形）	谷1203-23層 G46-9645
51	55	7545	竪杵（単頭撫肩）	谷1203-49b層 G46-8541
51	55	7546	竪杵形の木器未成品（未成品）	谷1203-49b層 G46-8541
51	55	7547	竪杵（未成品/有肩纏形）	谷1203-49b層 G46-8541
51	55	12262	竪杵（単頭撫肩）	杭群2086 G46
51	55	12362	竪杵（単頭有肩纏形）	谷1203-49c層 G46-9633
51	55	12735	砧（単頭有肩纏形）	谷1203-49c層 G46-8541
52	56	3575	横槌	土壙1391-46層 G46-8033
52	56	5841	砧（粗製）	谷1203-49層 G46-9512
52	56	5914	横杵	谷1203-49b層 G46-8551
52	56	6291	横槌	谷1203-23層 G46-9742
52	56	6870	竪杵（有段単頭短形）	谷1203-49a層 G46-8434
53	57	150	木器 尖頭器(箝)	谷1203-11層 G47-9221
53	57	1970	尖頭器(箝)	谷1203-26層 G46-9922
53	57	2279	尖頭器(箝)	谷1203-12層 G47-9112
53	57	2358	尖頭器(箝)（基部両面削ぎ）	谷1203-12層 G47-9131
53	57	2971	尖頭器(箝)（基部両面削ぎ）	谷1203-42層 G46-8655
53	57	5503	尖頭器(箝)	谷1203-23層 G46-9645
53	57	5707	尖頭器(箝)	谷1203-49層 G46-9524
53	57	5709	尖頭器(箝)（基部両面削ぎ）	谷1203-49層 G46-9524
53	57	5858	木器 尖頭器(箝)(基部両面削ぎ)	谷1203-49a層 G46-8553
53	57	5963	木器 尖頭器(箝)(未成品(基部両面削ぎ))	谷1203-49b層 G46-9513
53	57	6553	尖頭器(箝)（箆状）	凹地1565 G46-9741
53	57	6782	木器 尖頭器(箝)(胴部)	谷1203-49b層 G46-8542
53	57	6830	尖頭器(箝)	谷1203-55層 G46-8423
53	57	6853	尖頭器(箝)（長形）	谷1203-49層 G46-9545
53	57	7022	尖頭器(箝)	谷1203-49a層 G46-8324
53	57	7087	尖頭器(箝)	谷1203-49b層 G46-8422
53	57	12112	木器 尖頭器(箝)	谷1203-49b層 G46-8531
53	57	12137	木器 尖頭器(箝)(基部片面削ぎ)	谷1203-44層 G46-9743
53	57	12974	木器 箝谷1203-44	層 G46-9743
54	58	145	木器 尖頭器(箝)	谷1203-11層 G47-9135
54	58	794	木器 尖頭器(箝)	谷1203-11層 G46-8054
54	58	2688	尖頭器(箝)	谷1203-11層 G46-9514
54	58	3633	尖頭器 （短形）	谷1203-23層 G46-9735
54	58	3817	尖頭器(箝)（短形）	谷1203-23層 G46-9734
54	58	4448	尖頭器(箝)	谷1203-19層 G46-9911
54	58	5181	尖頭器(箝)（未成品）	谷1203-44層 G46-9753
54	58	5364	尖頭器(箝)（中軸部）	谷1203-45層 G46-9643
54	58	5636	尖頭器 （太形円基）	谷1203-23層 G46-9631
54	58	5718	木器 尖頭器(箝)(基部片面削ぎ)	谷1203-48層 G46-8554
54	58	5857	木器 尖頭器(箝)(未成品)	谷1203-49a層 G46-8553
54	58	5862	柄	谷1203-49b層 G46-9535
54	58	5878	尖頭器 （短形基部削ぎ）	谷1203-49b層 G46-8551
54	58	6300	尖頭器(箝)（基部両面削ぎ）	谷1203-55層 G46-8425
54	58	6494	尖頭器(箝 [illegible])	谷1[illegible]-9632
54	58	6783	木器 尖頭器(箝)(中軸部)	谷1203-49b層 G46-8542
54	58	6877	尖頭器(箝)（基部片面削ぎ）	谷1203-23層 G46-9642
54	58	6918	木器 尖頭器(箝)(中軸部材)	谷1203-49b層 G46-8435
54	58	6972	尖頭器(箝)（基部片面削ぎ）	谷1203-49c層 G46-8423
54	58	7086	尖頭器(箝)	谷1203-49b層 G46-8422
54	58	7578	尖頭器(箝)	谷1203-49b層 G46-8551
54	58	12071	尖頭器(箝)（未成品）	谷1203-44層 G46-9754
54	58	12116	木器 尖頭器(箝)(太形)	谷1203-42層 G46-8751
55	59	1305	尖頭器 （箆形）	谷1203-11層 G46-9014
55	59	5279	尖頭器 （箆形）	谷1203-11層 G46-9633
55	59	5365	両端を箆状に整形する木製品。（箆状）	谷1203-45層 G46-9643
55	59	5978	掘り棒	谷1203-49a層 G46-9525
55	59	6436	尖頭器（箆状）	谷1203-23層 G46-9633
55	59	7051	両端を楔状に整形する木製品（両端両面削ぎ）	谷1203-49b層 G46-8422
55	59	7612	尖頭器 （箆状）	谷1203-49c層 G46-8541
55	59	7613	両端を箆状に整形する木製品。（箆状）	谷1203-49c層 G46-8541
55	59	12255	尖頭器（太形）	杭群2086-49b層(下) G46-7953
56	60	4509	網枠	谷1203-23層 G46-9821
56	60	5831	櫂	谷1203-49b層 G46-9524
56	60	5916	網枠	谷1203-49c層 G46-8551
56	60	6772	網枠/部材	谷1203-23層 G46-9634
56	60	7600	網枠	谷1203-49b層 G46-8314
56	60	12338	網枠	谷1203-49層 G46-8411
56	60	12340	網枠	谷1203-49b層 G46-8422
57	61	2689	木器 斧柄（鉄斧用横斧膝柄/逃げ角）	谷1203-19層 G46-8032
57	61	5209	木器 斧柄（鉄斧用縦斧膝柄）	凹地1565 G46-9723
57	61	5581	木器 斧柄（袋状鉄斧用縦斧膝柄）	谷1203-23層 G46-9633
57	61	5828	斧柄（小形鉄斧横斧膝柄）	谷1203-49b層 G46-9524
57	61	6366	斧柄（鉄斧用横斧柄）	谷1203-23層 G46-9744
57	61	6582	斧柄（袋状鉄斧用縦斧膝柄）	谷1203-23層 G46-9744
57	61	12089	斧柄（鉄斧縦斧膝柄）	谷1203-22層 G46-9835
57	61	12258	斧柄（鉄斧用横斧膝柄）	杭群2086-49b層(下) G46-7953
57	61	12547	木器 斧柄（横斧膝柄）	谷1203-11層 G46-9514
58	62	1906	木器 斧柄（小形鉄製横斧柄）	谷1203-26層 G46-9922
58	62	2951	柄（直柄）	谷1203-11層 G46-9645
58	62	5211	斧柄（横斧膝柄）	凹地1565 G46-9733
58	62	5603	鎌柄	谷1203-23層 G46-9645
58	62	5647	斧柄（横斧膝柄）	谷1203-23層 G46-9632
58	62	5705	鎌柄	谷1203-49層 G46-9514

表10 掲載遺物一覧（4）

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
58	62	5962	鎌柄	谷1203-49b層 G46-9513
58	62	6479	柄	谷1203-23層 G46-9734
58	62	6763	柄（膝柄）	谷1203-23層 G46-9631
58	62	6773	斧柄（鉄斧横斧膝柄）	谷1203-23層 G46-9634
58	62	6794	斧柄（未成品（横斧膝柄））	谷1203-49層 G46-8553
58	62	7064	柄	谷1203-49b層 G46-7352
58	62	7079	鞘	谷1203-49b層 G46-8434
59	63	1858	木器 端部に柄をもつ板状器具（研磨具）	谷1203-23層 G46-9823
59	63	1876	木器 火鑽臼（未使用）	谷1203-23層 G46-9835
59	63	1880	木器 紡錘車（両面膨隆）	谷1203-23層 G46-9825
59	63	3802	火鑽臼	谷1203-23層 G46-9831
59	63	4511	木器 紡錘車（両面膨隆）	谷1203-22層 G46-9841
59	63	5525	刷毛目調整工具（凹形）	谷1203-45層 G46-9733
59	63	5695	火鑽臼	谷1203-49層 G46-9514
59	63	5696	紡錘車（片面膨隆）	谷1203-49層 G46-9514
59	63	5748	刷毛目調整工具	谷1203-49b層 G46-9514
59	63	5979	箆状木器	谷1203-49a層 G46-9525
59	63	6295	紡錘車（片面膨隆/円錐形）	谷1203-45層 G46-9655
59	63	6323	紡錘車 （片面膨隆/半球形）	谷1203-49a層 G46-8433
59	63	6875	紡錘車 （片面膨隆）	谷1203-23層 G46-9642
59	63	7065	叩き板	谷1203-49b層 G46-7352
59	63	7449	刷毛目調整工具（凹形）	谷1203-48層 G46-8541
59	63	7583	火鑽臼	谷1203-49b層 G46-7352
59	63	12092	木器 紡錘車（片面膨隆/半球状）	谷1203-38層 G46-8432
59	63	12102	木器 紡錘車（両面膨隆/薄形）	谷1203-42層 G46-9812
59	63	12106	木器 紡錘車（片面膨隆/半球形）	谷1203-38層 G46-8445
59	63	12107	木器 紡錘車（平形）	谷1203-19層 G46-9833
60	64	1236	木鏃 （細形紡錘形）	谷1203-11層 G46-9032
60	64	1647	盾（丹塗り盾）	谷1203-23層 G46-9921
60	64	1648	木器 盾（丹塗り盾）	谷1203-23層 G46-9921
60	64	2179	木器 短甲（右前胴部材）	谷1203-26層 G46-9922
60	64	3634	木鏃	谷1203-23層 G46-9735
60	64	3652	木器 紡錘車（未成品（連作））	谷1203-28層 G46-8044
60	64	3654	木器 紡錘車（未成品/連作）	谷1203-28層 G46-8044
60	64	3738	紡錘車（未成品（連作））	谷1203-28層 G46-8044
60	64	5288	石器/器具 紡錘車	谷1203-62層 G46-9634
60	64	5366	木鏃 （柳涙滴形）	谷1203-62層 G46-9633
61	65	1056	木器 筒形容器/蓋（漆塗）	谷1203-11層 G46-9832
61	65	2664	筒形容器（漆塗）	土壙1391-19層 G46-8033
61	65	2947	筒形容器/蓋（漆塗）	谷1203-44層 G46-9635
61	65	4404	筒形容器/蓋（漆塗）	谷1203-19層 G46-9931
61	65	4426	筒形容器/底板（漆塗）	谷1203-19層 G46-9911
61	65	4767	弓 （丸木弓）	凹地1565-19層 G46-9723
61	65	5351	壺（台付）	谷1203-45層 G46-9634
61	65	5646	弓（丸木弓）	谷1203-23層 G46-9632
61	65	5984	弓（丸木弓）	谷1203-49層 G46-8421
61	65	7119	椀	谷1203-10c層 G46-8315
61	65	7340	弓（丸木弓）	凹地2076 G46-8421
61	65	11558	木器 壺	谷1203-26層 G46-9912
61	65	12530	木器 壺（刳物/無頸平底）	谷1203-55層 G46-8423
62	66	1862	木器 桶（刳物蓋付桶/身）	谷1203-23層 G46-9834
62	66	1881	木器 桶（曲物底部/脚付/透かし入り）	谷1203-23層 G46-9825
62	66	2722	筒形容器（白木刳り抜き）	土壙1391 G46-8032
62	66	5895	高坏	谷1203-49b層 G46-9513
62	66	6664	皿（四脚付）	溝2030 G46-96
62	66	6831	筒形容器（白木刳り抜き）	谷1203-49層 G46-8433
62	66	12148	木器 高坏	谷1203-10b層 G46-9514
63	67	4635	高坏	凹地1565-19層 G46-9732
63	67	5711	槽（板状脚付槽部材）	谷1203-49層 G46-9514
63	67	6383	槽（円柱形四脚付槽）	谷1203-23層 G46-9745
63	67	6787	高坏	谷1203-49層 G46-8553
63	67	7101	槽（円柱形四脚付方形槽）	谷1203-49b層 G46-7352
63	67	12732	槽（円形鍔付鉢形）	谷1203-49層 G46-8315
64	68	3957	皿（舟形）	谷1203 G46-8355
64	68	4323	杓子（鉤柄）	谷1203-57層 G46-9921
64	68	4411	杓子（未成品）	谷1203-23層 G46-9734
64	68	5727	槽 （小形槽）	谷1203-49層 G46-8553
64	68	5779	杓子（斜め把手杓子）	谷1203-49a層 G46-8552
64	68	5780	杓子（直柄）	谷1203-49b層 G46-8552
64	68	7040	槽（円柱形四脚付長方形槽）	谷1203-49b層 G46-8421
65	69	1842	杓子（長直柄）	谷1203-23層 G46-9832
65	69	5888	鍬刃状の木製品	谷1203-49c層 G46-9512
65	69	6322	杓子（長柄）	谷1203-49a層 G46-8433
65	69	6489	杓文字（直柄）	谷1203-23層 G46-9624
65	69	6880	杓文字	谷1203-49層 G46-8434
65	69	7111	杓文字	谷1203-49b層 G46-7352
66	70	2698	蓋（長方形把手付板状）	土壙1391 G46-8031
66	70	4180	木器 蓋（把手付円形板状）	谷1203 G46-98
66	70	5361	木器 蓋（柄付長方形板状）	谷1203-62層 G46-9633
66	70	5740	蓋（把手付円形板状）	谷1203-49層 G46-8552
66	70	6320	蓋（未成品（円形笠形））	谷1203-49c層 G46-9513
66	70	7110	蓋（円形笠形（未成品か））	谷1203-49b層 G46-7352
67	71	798	木器 案/部材（天板留め具）	谷1203-11層 G47-9113
67	71	1840	案/部材（脚）	谷1203-23層 G46-9833
67	71	1874	案/部材（脚固定具）	谷1203-23層 G46-9835
67	71	5729	蓋（把手付円形板状）	谷1203-49層 G46-9513
67	71	6318	案（天板）	凹地2025 G46-8424
67	71	12341	案（脚）	谷1203-22層 G46-9833
68	72	1841	盤（板状脚付盤）	谷1203-23層 G46-9832
68	72	4419	櫛 （竪櫛/挽き櫛）	谷1203-19層 G46-9911
68	72	5510	杳	谷1203-45層 G46-9733
68	72	5583	櫛（未成品/竪櫛）	谷1203-23層 G46-9633
68	72	6319	椅子（刳物板状2脚）	谷1203-49c層 G46-8553
68	72	6541	椅子（刳物板状2脚）	谷1203-23層 G46-9741
68	72	7620	箸（三本歯）	谷1203-48層 G46-8445
69	73	1866	鳥形	谷1203-23層 G46-9834
69	73	5733	装飾部材	谷1203-49層 G46-8553
69	73	6897	木器 人形	谷1203-49b層 G46-8423
69	73	7037	木器 装飾板	谷1203-49b層 G46-8422
70	74	4186	建築部材 鼠返し	谷1203-36層 G46-8422
70	74	5710	建築部材 部材（軸台）	谷1203-49層 G46-9524
70	74	6764	構造部材	谷1203-23層 G46-9631
70	74	6818	建築部材（栓）	谷1203-49層 G46-9513

表11 掲載遺物一覧（5）

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
70	74	7089	建築部材（栓）	谷1203-49b層 G46-8422
70	74	7170	木材 板	谷1203-49b層 G46-7341
70	74	12257	建築材	杭群2086-49b層(下) G46-7953
70	74	12259	建築部材（栓）	杭群2086-49b層(下) G46-7953
71	75	1903	笹葉形木製品	谷1203-22層 G46-9932
71	75	3459	隅穴のある部材	土壇1391 G46-8033
71	75	5610	留め具（楔形）	谷1203-23層 G46-9742
71	75	6460	組輪の掛かった棒材（鍬形）	谷1203-49a層 G46-9642
71	75	12733	切断材（厚板両端切断）	谷1203-49層 G46-8315
71	75	12734	槽	谷1203-49層 G46-8315
95	76	337	弥生土器 壺	流路1202-5層 G47-6343
95	76	341	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6344
95	76	344	弥生土器 支脚	流路1202-5層 G47-6344
95	76	365	弥生土器 壺	流路1202-16層 G47-6332
95	76	438	弥生土器 蓋	流路1202-16層 G47-6332
95	76	945	弥生土器 甕	流路1202-4層 G47-6355
95	76	1095	弥生土器 甕	流路1202-16層 G47-6342
95	76	9198	弥生土器 壺	流路1202-5層 G47-6333
95	76	11995	弥生土器 壺	流路1202-5層 G47-6322
95	76	11997	弥生土器 壺	流路1202-4層 G47-62
95	76	12056	弥生土器 大形壺	流路1202-5層 G47-6321
95	76	12057	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6321
96	77	278	弥生土器 壺	谷1203-11層 G47-9312
96	77	1174	弥生土器 壺	溝1204-4層 G47-6253
96	77	1334	弥生土器 甕	溝1204-4a層 G47-6223
96	77	5267	弥生土器 高坏	谷1203-11層 G46-9634
96	77	5670	弥生土器	谷1203-11層 G46-8554
96	77	8051	弥生土器 壺	谷1203-10b層 G46-9753
96	77	8701	弥生土器 甕	谷1203-10b層 G46-8035
96	77	8724	石器/利器 模形石器	谷1203-10b層 G46-9753
96	77	8739	弥生土器 支脚	谷1203-11層 G46-9723
96	77	8795	弥生土器 高坏	谷1203-11層 G46-8032
96	77	12378	弥生土器 壺	谷1203-11層 G47-9311
97	78	231	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G47-9212
97	78	247	弥生土器 高坏	谷1203-11層 G47-9241
97	78	1682	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G46-8044
97	78	1690	甕	谷1203-11層 G46-8034
97	78	1717	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-8033
97	78	3785	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631
97	78	8742	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G46-9631
97	78	9161	弥生土器 小形鉢	谷1203-11層 G47-8353
97	78	9180	弥生土器 小形壺	谷1203-11層 G46-9923
97	78	9182	弥生土器 台付壺	谷1203-11層 G47-9252
97	79	1423	弥生土器 甕	谷1203-21層 G46-9924
98	79	1726	弥生土器 支脚	谷1203-11層 G46-8042
98	79	3369	弥生土器 鉢	谷1203-27層 G46-8024
98	79	3371	弥生土器 甕	谷1203-27層 G46-8024
98	79	3953	弥生土器 壺（長頸壺）	谷1203-22層 G46-9645
98	79	4052	弥生土器 甕	谷1203-44層 G46-9643
98	79	8837	弥生土器 甕	谷1203-22層 G46-9644
98	79	8852	弥生土器 壺（複合口縁壺）	谷1203-19層 G46-8033
98	79	8853	弥生土器 壺（複合口縁壺）	谷1203-19層 G46-8033
98	79	9155	弥生土器 器台	谷1203-11層 G46-8032
98	79	9195	弥生土器 器台	谷1203-22層 G46-9922
98	79	9196	弥生土器 支脚	谷1203-11層 G46-9922
98	79	12379	弥生土器 器台	谷1203-11層 G47-8253
99	80	3400	弥生土器 壺	谷1203-35層 G46-8643
99	80	5657	弥生土器 壺	谷1203-36層 G46-7353
99	80	5658	弥生土器 壺	谷1203-36層 G46-7353
99	80	6512	弥生土器 甕	谷1203-36層 G46-8313
99	80	7357	弥生土器 壺	谷1203-36層 G46-8411
99	80	8318	弥生土器 甕	谷1203-27層 G46-8015
99	80	8758	弥生土器 壺	谷1203-36層 G46-9922

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
99	80	9176	弥生土器 甕	谷1203-26層 G46-9921
99	80	9178	弥生土器 器台	谷1203-25b層 G46-9824
99	80	9587	弥生土器 窓付壺	谷1203-27層 G46-8024
99	80	11964	弥生土器 壺（二重口縁壺）	谷1203-36層 G46-8421
99	80	12393	弥生土器 器台	谷1203-27a層 G46-8023
100	81	2884	弥生土器 高坏	流路1388-39層 G46-9625
100	81	2885	弥生土器 壺	流路1388-39層 G46-9625
100	81	3958	弥生土器 壺（長頸壺）	谷1203-39層 G46-9612
100	81	5336	弥生土器 鉢	谷1203-36層 G46-7355
100	81	5341	弥生土器 器台	谷1203-36層 G46-8314
100	81	5343	弥生土器 器台	谷1203-36層 G46-7354
100	81	6359	弥生土器 壺	谷1203-40層 G46-8733
100	81	8702	弥生土器 有孔鉢	谷1203-39層 G46-9715
100	81	8953	弥生土器 小形壺	流路1388 G46-9615
100	81	9046	弥生土器 鉢	谷1203-36層 G46-7354
100	81	9094	弥生土器 甕	谷1203-36層 G46-8422
100	81	11983	弥生土器 甕	谷1203-36層 G46-8542
101	82	4606	弥生土器 壺	土器段葉1570-40層 G46-9713
101	82	4607	弥生土器 壺	土器段葉1570-40層 G46-9713
101	82	4608	弥生土器 鉢（有孔鉢）	土器段葉1570-40層 G46-9713
101	82	6359	弥生土器 壺	谷1203-40層 G46-8733
101	82	6433	弥生土器 高坏	谷1203-50層 G46-8411
101	82	8123	弥生土器 甕	土器段葉1570-40層 G46-8654
101	82	8274	弥生土器 鉢	谷1203-40層 G46-9715
101	82	8747	弥生土器 壺	谷1203-50層 G46-7341
101	82	8749	弥生土器 壺	谷1203-50層 G46-8531
101	82	8832	弥生土器 甕	谷1203-40層 G46-9811
102	83	5242	弥生土器 器台	谷1203-23層 G46-9731
102	83	5744	弥生土器 鉢（有孔鉢）	谷1203-49層 G46-9513
102	83	6574	弥生土器 器台	谷1203-50層 G46-7354
102	83	6700	弥生土器 高坏	谷1203-23-f 層 G46-9644
102	83	6796	弥生土器 壺	谷1203-49a層 G46-8554
102	83	7404	弥生土器 高坏	谷1203-50層 G46-8531
102	83	8744	弥生土器 小形甕	谷1203-45層 G46-9631
102	83	9220	弥生土器 小形壺	谷1203-38層 G46-9635
102	83	9291	弥生土器 甕	谷1203-38層 G46-9513
102	83	9314	弥生土器 支脚（壺形支脚）	谷1203-50層 G46-8425
103	83	9360	弥生土器 甕	谷1203-48層 G46-8554
103	84	2989	弥生土器 壺	谷1203-42層 G46-8655
103	84	3145	弥生土器 高坏	谷1203-42層 G46-9645
103	84	7123	弥生土器 壺	谷1203-42層 G46-8535
103	84	7387	弥生土器 鉢	谷1203-42層 G46-8644
103	84	7416	弥生土器 壺	谷1203-42層 G46-8752
103	84	8145	弥生土器 鉢	谷1203-42層 G46-8741
103	84	8240	弥生土器	谷1203-49b層 G46-7351
103	84	8243	弥生土器 窓付壺	谷1203-49b層 G46-8312
103	84	8321	弥生土器 壺	谷1203-57層 G46-9923
103	84	8684	弥生土器 器台	谷1203-49a層 G46-8542
103	84	9309	弥生土器 器台	谷1203-56層 G46-83
103	84	12388	弥生土器 器台	谷1203-49b層 G46-8314
104	85	5064	弥生土器 器台	谷1203-42層 G46-8645
104	85	8076	弥生土器 鉢（有孔鉢）	谷1203-51層 G46-8544
104	85	8225	弥生土器 小形手捏土器	谷1203-51層 G46-8543
104	85	8227	弥生土器 鉢	谷1203-51層 G46-8532
104	85	8752	弥生土器 支脚	谷1203-42層 G46-8753
104	85	8830	弥生土器 甕	谷1203-51層 G46-8555
104	85	9138	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8645
104	85	9618	弥生土器 器台	谷1203-51層 G46-8533
104	85	9665	弥生土器 壺（広口壺）	谷1203-51層 G46-7344
104	85	11786	弥生土器 鉢	谷1203-51層 G46-7345
104	85	11969	弥生土器 壺（広口壺）	谷1203-51層 G46-8414
105	86	4780	弥生土器 高坏	田地1565-19層 G46-9723

表12 掲載遺物一覧（6）

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
105	86	5163	弥生土器 器台	団地1565-19層 G46-9712
105	86	6177	弥生土器 壺	溝状団地1567 G46-8334
105	86	6253	弥生土器	溝状団地1567 G46-9415
105	86	7334	弥生土器	谷1203-52層 G46-8414
105	86	8130	弥生土器 甕	谷1203-52層 G46-8533
105	86	8233	弥生土器 甕	谷1203-52層 G46-8424
105	86	8234	弥生土器	谷1203-52層 G46-8424
105	86	8836	弥生土器 壺	団地1565-19層 G46-9733
105	86	9280	弥生土器 器台	団地1557 G46
105	86	9281	弥生土器 小形手捏土器	団地1557 G46
105	86	9282	弥生土器 器台	団地1557 G46
106	87	4578	弥生土器 器台	土器投棄1569-39層 G46-9614
106	87	4580	弥生土器 甕	土器投棄1569-39層 G46-9614
106	87	4583	弥生土器 高坏	土器投棄1569-39層 G46-9614
106	87	4615	弥生土器 大形甕	土器投棄1569-39層 G46-9613
106	87	6103	弥生土器 鉢	柱穴21866 G46-75
106	87	8682	弥生土器 甕	土器投棄1569-39層 G46-9613
106	88	141	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-8253
106	88	5732	楽浪系土器 鉢	谷1203-23層 G46-9721
107	89	1552	土製品 土製円板（剥状）	谷1203-11層 G46-9042
107	89	1922	土製品 投弾	谷1203-25層 G46-9912
107	89	8666	土製品 土製勾玉	谷1203-10b層 G46-9544
107	89	9081	土製品 土製円板	谷1203-40層 G46-8751
107	89	9086	土製品 土製投弾	谷1203-40層 G46-9711
107	90	465	石器/剥器 石鏃（小形凹基）	流路1202 G47-6333
107	90	548	石器/剥器 石鏃（深凹基）	谷1203-10層 G46-8013
107	90	563	石器/剥器 石鏃/剥片鏃（短身深凹基）	谷1203-11層 G46-9015
107	90	2230	石器/剥器 石鏃（浅凹基）	谷1203-30層 G46-9042
107	90	2473	石器/剥器 石鏃（長身浅凹基）	G47-6145
107	90	3883	石器/剥器 石鏃/磨製石鏃（有茎）	谷1203-11層 G46-9632
107	90	4066	石器/剥器 石鏃（凹基）	谷1203-38層 G46-9455
107	90	4996	石器/剥器 石斧/磨製石斧（偏平片刃石斧）	谷1203-42層 G46-9751
107	90	7533	石器/剥器 石鏃（浅凹基）	谷1203-51層 G46-7451
107	90	8590	石器/剥器 ナイフ形石器（二側辺加工）	谷1203-50層 G46-8544
107	90	8603	石器/剥器 石斧/磨製石斧（偏平片刃石斧）	谷1203-10b層 G46-9754
107	90	8658	石器/剥器 石匙	谷1203-51層 G46-7451
107	90	9270	石器/剥器 石匙	谷1203-11層 G46-8035
107	90	9384	石器/剥器 柱状片刃石斧	柱穴1841
107	90	12369	石器/剥器 石鏃（長身/浅凹基細調整）	谷1203-11層 G46-9033
108	91	997	石器/剥器 石包丁	谷1203-11層 G46-9813
108	91	5854	石器/剥器 石包丁	谷1203-63層 G46-7533
108	91	8514	石器/剥器 石包丁	谷1203-50層 G46-8532
108	91	8552	石器/剥器 磨製石斧（未成品）	谷1203-11層 G46-8043
108	91	8615	石器/剥器 石包丁	溝状団地1567 G46-9415
108	91	8616	石器/剥器 石包丁	谷1203-50層 G46-7341
108	91	8617	石器/剥器 石包丁	谷1203-11層 G46-9525
108	91	8672	石器/剥器 石包丁	谷1203-22層 G46-9851
108	91	8928	石器/剥器 石斧	谷1203-26層 G46-9921
108	91	9387	石器/剥器 石包丁	0
108	91	9942	石器/剥器 石包丁（半月形）	谷1203-22層 G46-9845
108	91	9992	石器/剥器 磨製石斧（太形蛤刃石斧）	谷1203-23層 G46-8041
108	91	10100	石器/剥器 石包丁/未成品	谷1203-10b層 G46-7353

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
108	91	10105	石器/縄器 敲打刃器	流路1202-5層 G47-6345
108	91	10361	石器/縄器 敲打刃器	谷1203-11層 G47-8153
108	91	10644	石器/剥器 石包丁/未成品	谷1203-11層 G46-9825
108	91	10685	石器/縄器 敲打刃器	谷1203-11層 G47-9152
108	91	10686	石器/縄器 敲打刃器	谷1203-11層 G47-9152
108	91	11693	石器/剥器 磨製石斧	流路1202-5層 G47-6354
108	91	12638	石器/剥器 磨製石斧（太形蛤歯石斧）	谷1203-39層 G46-8555
108	91	12808	石器/剥器 磨石石斧（太形蛤刃石斧）	谷1203-23?層 G46-9741
109	92	1947	石器/器具 紡錘車	谷1203-26層 G46-9913
109	92	1987	石器/器具 紡錘車	谷1203-25層 G46-8041
109	92	2071	石器/器具 石錘/整形石錘（紡錘形交差溝）	谷1203-22層 G46-9844
109	92	2152	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形交差溝）	谷1203-19層 G46-8033
109	92	2842	石器/器具 紡錘車	谷1203 G46-9655
109	92	3448	石器/器具 紡錘車	谷1203-11層 G46-8024
109	92	3581	石器/器具 紡錘車	谷1203-22層 G46-8821
109	92	3600	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形交差溝）	谷1203-23層 G46-9735
109	92	4038	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形交差溝）	谷1203-38層 G46-8325
109	92	4731	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形交差溝）	土器投棄1569-39層 G46-9611
109	92	5221	石器/器具 紡錘車	谷1203-50層 G46-8533
109	92	6533	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形縦溝）	谷1203-23層 G46-9634
109	92	8540	石器/器具 石錘/整形石錘（紡錘形交差溝）	谷1203-11層 G46-9843
109	92	8572	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形縦溝）	谷1203-22層 G46-9822
109	92	8624	石器/器具 紡錘車	谷1203-40層 G46-9615
109	92	8627	石器/器具 紡錘車	溝状団地1567 G46-8335
109	92	8630	石器/器具 紡錘車	谷1203-39層 G46-8545
109	92	8661	石器/器具 紡錘車	谷1203-49b層 G46-8315
109	92	8857	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形縦溝）	谷1203-42層 G46-8644
109	92	8876	石器/器具 紡錘車	流路1202-16層 G47-6341
109	92	9002	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形交差溝）	谷1203-44層 G46-9643
109	92	9008	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形縦溝）	谷1203-10b層 G46-9755
109	92	9026	石器/器具 石錘/整形石錘（紡錘形縦溝）	谷1203-10b層 G46-9753
109	92	9029	石器/器具 石錘（整形石錘/紡錘形縦溝）	谷1203-23層 G46-9735
109	92	9383	石器/器具 紡錘車	谷1203-10層 G46-8945
109	92	11071	石器/器具 紡錘車（未成品）	谷1203-39層 G46-9713
109	92	11117	石器/器具 紡錘車（未成品）	谷1203-50層 G46-7354
109	92	11510	石器/器具 紡錘車（未成品）	谷1203-12層 G47-8155
109	92	11733	石器/器具 紡錘車	谷1203-19層 G46-9915
110	93	343	石器/器具 石錘/整形石錘（繰形太形）	流路1202-5層 G47-6344
110	93	924	石器/器具 石錘/整形石錘（繰形）	流路1202-16層 G47-6343
110	93	1941	石器/器具 石錘/整形石錘（繰形細形/未成品）	谷1203-10層 G46-8013
110	93	2163	石器/器具 石錘/整形石錘（繰形太形）	谷1203-32層 G46-8051

表13 掲載遺物一覧（7）

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
110	93	3959	石器/器具 石錘/敲形石錘（派生形長形）	谷1203-39層 G46-8652
110	93	4794	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形縁形（派生形）交差溝）	溝1579 G46-88
110	93	5676	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形縁形（派生形）	谷1203-11層 G46-8554
110	93	7234	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形太形（派生形）	谷1203-49層 G46-9633
110	93	7283	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形太形）	谷1203-51層 G46-8532
110	93	7492	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形縁形）	谷1203-49b層 G46-7351
110	93	8512	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形縁形）	谷1203-11層 G46-9534
110	93	8533	石器/器具 石錘/敲形石錘（円形半球形（未成品）	谷1203-23層 G46-9742
110	93	8538	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形縁形）	谷1203-10b層 G46-9514
110	93	9640	石器/器具 石錘/敲形石錘（楕形縁形）	谷1203-35層 G46-7332
11	94	317	石器/器具 石錘/敲形石錘（円形厚形）	流路1202-5層 G47-6344
11	94	1292	石器/器具 浮子	谷1203-11層 G46-8031
11	94	8509	石器/器具 石錘/敲形石錘（円形厚形）	谷1203-19層 G46-9911
11	94	8692	石器/器具 浮子（未成品）	谷1203-44層 G46-9643
11	94	9507	石器/器具 浮子	谷1203-10b層 G46-9753
11	94	9519	石器/器具 石錘/礫石錘（横形大形）	谷1203-40層 G46-8425
11	94	10075	石器/器具 石錘/礫石錘（横形）	谷1203-50層 G46-8425
11	94	10465	石器/器具 石錘/礫石錘（礫石錘/横形）	谷1203-11層 G46-8055
11	94	11336	石器/器具 石錘/礫石錘（礫石錘/横形）	谷1203-27b層 G46-8023
11	94	12043	石器/器具 浮子	谷1203-10b層 G46-9811
112	95	1287	石器/器具/未分類 島形	谷1203-11層 G46-8032
112	95	3180	石器/器具 石皿	谷1203-10b層 G46-9754
112	95	8677	石器/器具 砥石（半形長形）	谷1203-19層 G46-9743
112	95	9967	石器/鳳器 敲打刃器	谷1203-11層 G46-9842
112	95	10343	石器/器具 砥石（半形）	谷1203-50層 G46-8544
112	95	10345	石器/器具 砥石	谷1203-10層 G46-0811
112	95	10349	石器/器具 砥石（有溝砥石小）	谷1203-10b層 G46-8225
112	95	10618	石器/器具 砥石	谷1203-11層 G46-9941
112	95	10664	石器/器具 砥石	谷1203-11層 G46-9724
112	95	10913	石器/器具 砥石	谷1203-10b層 G46-9841
112	95	11446	石器/器具 砥石	谷1203-10b層 G46-9633
112	95	12524	石器/器具 砥石（有溝砥石）	谷1203-49c層 G46-8411
112	95	12525	石器/器具 砥石（有溝砥石）	谷1203-23層 G46-9725
112	95	12526	石器/器具 砥石（有溝砥石）	谷1203-11層 G46-9033
113	96	454	石器/器具 石杵	流路1202-5層 G47-6332
113	96	757	攻玉穐津 石核（角柱形）	谷1203-11層 G46-9955
113	96	1020	攻玉穐津 石核（角柱形）	谷1203-11層 G46-9924
113	96	1945	攻玉穐津 石核（角柱形）	谷1203-11層 G46-9851
113	96	2139	攻玉穐津 石核（角柱形）	谷1203-23層 G46-9833
113	96	2294	玉類/玉 ガラス玉	谷1203 G46-8414
113	96	2295	玉類/石製管玉	谷1203 G46-8413
113	96	2341	攻玉穐津 石核（角柱形）	G46-6014
113	96	3398	玉類/石製 勾玉	谷1203-11層 G46-9534

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
113	96	3414	玉類/石製 勾玉（未成品）	谷1203-36層 G46-8353
113	96	8579	攻玉穐津 砕片	谷1203-10b層 G46-9822
113	96	8642	攻玉穐津 石核（角柱形）	谷1203-10b層 G46-9031
113	96	10344	石器/鳳器 磨石	谷1203-10b層 G46-0911
113	96	10766	石器/器具 石杵	谷1203-36層 G46-8424
113	96	10767	石器/鳳器 石杵	谷1203-11層 G46-9733
113	96	11676	石器/器具 石皿	流路1202-5層 G47-6344
113	96	12737	攻玉穐津 石核	谷1203-62層 G46-9633

表14 掲載遺物一覧（8）

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
55	36	141	楽浪系土器　鉢	谷1203-11層 G47-8253	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部静止糸切→側縁をケズリ、ナデ　内面：回転ナデ　〈文様等〉内面に放射状暗文。外底面に種子圧痕あり。〈年代〉弥生/後期～終末期　〈遺存状態〉底部周りほぼ100%　〈計測〉底径6.9cm
55	36	192	楽浪系土器 鉢(平底鉢)	谷1203-11層 G47-9254	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期　〈遺存状態〉〈遺存〉口縁周り1/10　〈計測〉口縁部径（復原）14.7cm
55	36	1986	楽浪系土器 鉢	谷1203-19層 G46-8032	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部静止糸切→ケズリ、　内面：回転ナデ〈文様等〉内面に放射状暗文。〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉〈遺存〉底部周り1/4　〈計測〉底部径8.0cm
55	36	2701	楽浪系土器 鉢	谷1203-10層 G46-8031	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部静止糸切→ケズリ　内面：回転ナデ　〈年代〉年代）弥生/後期～終末期　〈遺存状態〉〈遺存〉底部周り1/4　〈計測〉底部径9.2cm
55	36	3314	楽浪系土器 鉢	谷1203-10b層 G46-7235	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化。内面黒化処理の痕跡。)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ　内面：回転ナデ〈年代〉弥生/後期～終末期　〈遺存状態〉細片(胴部周り1/10)
55	36	3625	楽浪系土器 椀	谷1203-40層 G46-9714	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈特記〉R3732と同一個体か。〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁部細片(口縁周り1/8)　〈計測〉口縁部径(復原)14.9cm
55	36	3702	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-8654	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部は静止糸切り→側縁ケズリ　内面：回転ナデ　〈文様等〉底部外面にX字状ヘラ記号（焼成前刻み）〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉略完形　〈計測〉口縁部径11.6cm 底部径8.3cm 器高5.4cm
55	36	3732	楽浪系土器 鉢	谷1203-23層 G46-9721	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部は静止糸切り→ケズリ、ミガキ　内面：回転ナデ〈文様等〉内底面に沈線に近い斜格子状の暗文、側面に放射状の平行線暗文〈特記〉同一個体：R12981・10077・(3625)〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉上部の大半を欠く(口縁周り1/8、胴部以下は略完存)　〈計測〉口縁部径(復原)15.0cm 底部径8.2cm 器高6.6cm
55	36	8602	楽浪系土器 鉢	谷1203-10b層 G46-9812	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈文様等〉内面に暗文　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁周り1/10　〈計測〉口縁部径(復原)17.0cm
55	36	8604	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-9713	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色（風化）　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉細片(口縁周り1/10)　〈計測〉口縁部径(復原)15.1cm
55	36	8606	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-9614	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：不明　内面：回転ナデ〈文様等〉底面に円形刺突あり　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉底部周り1/5　〈計測〉底部径9.2cm
55	36	8607	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-8654	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁周り1/8　〈計測〉口縁部径(復原)13.0cm
55	36	8608	楽浪系土器 大型鉢	谷1203-23層 G46-9821	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色～黒色(外面風化。黒化処理。)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部静止糸切→ケズリ　内面：回転ナデ〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉底部周り1/8　〈計測〉12.0cm
55	36	8660	楽浪系土器 鉢	谷1203-39層 G46-9713	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁周り1/8　〈計測〉口縁部径(復原)16.7cm
55	36	8663	楽浪系土器 鉢	谷1203-22層 G46-9831	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：不明、内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉小片
55	36	8664	楽浪系土器 鉢	谷1203-22層 G46-9821	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理、磨滅気味)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ　内面：回転ナデ　〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁周り1/10未満　〈計測〉口縁部径(復原)14.9cm
55	36	8665	楽浪系土器 鉢	谷1203-10b層 G46-9831	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ→底側縁ケズリ、内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉細片
55	36	8994	楽浪系土器 鉢	凹地1565 G46-9733	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈文様等〉内面に暗文あり〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉胴部周り1/4
55	36	8995	楽浪系土器 鉢	谷1203-10層 G46-0011	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉図示部1/6
55	36	9051	楽浪系土器 鉢	谷1203-23層 G46-9843	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、底部静止糸切→ケズリ　内面：回転ナデ　〈文様等〉内面に放射状暗文。〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉底部周り1/5　〈計測〉底部径9.0cm
55	36	9202	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-9135	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉細片
55	36	9203	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-9153	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理、風化気味)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ　内面：回転ナデ　〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁周り1/10　〈計測〉口縁部径(復原)16.5cm
55	36	9437	楽浪系土器 鉢	谷1203-34層 G46-0923	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：ケズリ、底面不明　内面：回転ナデ〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉底部周り1/4　〈計測〉底部径10.0cm
55	36	9438	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G46-9824	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ 内面：回転ナデ　〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉口縁周り1/10　〈計測〉口縁部径(復原)14.8cm
55	36	9440	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G46-8542	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化。外面に黒化処理の痕跡)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ、内面：回転ナデ　〈年代〉弥生/後期～終末期〈遺存状態〉細片
55	36	9442	楽浪系土器 大型鉢	谷1203-11層 G46-9051	〈胎土・焼成〉胎土：泥質。器表：灰白色(風化。黒化処理の痕跡。)　〈成形・調整〉外面：回転ナデ　内面：回転ナデ　〈年代〉年代）弥生/後期～終末期〈遺存状態〉底部付近図示部1/10弱　〈計測〉底部径15.4cm

表15 搬入土器観察表 (1)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
55	36	12982	楽浪系土器 鉢	谷1203-48層 G46-8551	〈胎土・焼成〉 胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 〈成形・調整〉 外面：底部静止糸切→ケズリ 内面：回転ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 底部細片(底部周り1/10) 〈計測〉 底部径8.6cm
55	36	12984	楽浪系土器 鉢	谷1203-11層 G47-9214	〈胎土・焼成〉 胎土：泥質。器表：黒色(黒化処理、風化気味) 〈成形・調整〉 外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈特記〉 R9203と同一個体か。 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 口縁部細片、複数破片。
56	37	716	三韓系瓦質土器 鉢	谷1203-10層 G46-9924	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒極少量。器表：灰色～黒灰色 〈成形・調整〉 外面：口頸部は回転ナデ、胴部は格子目タタキ (図下部はナデ消し気味) 内面：ナデ 〈文様等〉胴上部に沈線4段以上 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉〈遺存〉口縁周り1/10未満 〈計測〉 口縁部径 (復原) 9.7cm
56	37	3485	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-40層 G46-7355	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒極少量。器表：灰褐色 〈成形・調整〉 外面：縄目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 細片(胴部)
56	37	6579	三韓系瓦質土器 椀	谷1203-50層 G46-7354	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒極少量。器表：灰褐色 〈成形・調整〉 外面：縄目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 胴部小片
56	37	7621	三韓系土器	谷1203-36層 G46-7352	〈成形・調整〉 内面ナデ消し 〈特記〉 R8501と同一か・〈遺存状態〉 体部破片
56	37	8501	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-48層 G46-8313	〈胎土・焼成〉 (胎土・焼成) 胎土：砂粒極少量。器表：灰褐色～黒色 〈成形・調整〉 (調整) 外面：頸部回転ナデ、胴部縄目タタキ 内面：無文当て具痕→ナデ 〈特記〉 同一個体：R9061(M1203-38層 G46-8313) 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 頸周り1/6
56	37	8506	三韓系瓦質土器 壺	溝状凹地 1567-47層 G46-8323	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒少量。器表：灰褐色 〈成形・調整〉 外面：縄目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 胴部小片
56	37	8605	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-36層 G46-8411	〈胎土・焼成〉 胎土：2mm砂粒少量。器表：暗灰色～淡褐灰色 〈成形・調整〉 外面：格子目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 胴部小片
56	37	8789	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10b層 G46-9534	〈胎土・焼成〉 胎土：1～2mm砂粒少量。器表：灰褐色～黒灰色 〈成形・調整〉 外面：縄目タタキ 内面：ナデ (〈特記〉 接合：R9439(M1203-10b層 G46-8312) 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 小破片(胴部)
56	37	9056	陶質土器 鉢	谷1203-10b層 G46-9851	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒極少量。器表：淡暗青灰色 〈成形・調整〉 外面：口頸部は回転ナデ、 内面：回転ナデ→ナデ 〈年代〉 古墳前期 〈遺存状態〉 頸部周り1/5 〈計測〉 口縁部径(復原)21.7cm
56	37	9057	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-11層 G46-9743	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒極少量。器表：灰褐色 〈成形・調整〉 外面：頸部回転ナデ、胴部縄目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 体部細片(頸周り)
56	37	9062	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-49a層 G46-8312	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒極少量。器表：灰褐色 〈成形・調整〉 外面：縄目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 小破片(肩付近)
56	37	9581	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-35層 G46-8412	〈胎土・焼成〉 胎土：砂粒少量。器表：灰褐色～淡黒灰色 (調整) 〈成形・調整〉 外面：頸部回転ナデ、胴部縄目タタキ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 頸周り細片
56	37	9656	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10b層 G46-8235	〈胎土・焼成〉 (胎土・焼成) 胎土：砂粒少量。器表：灰褐色 〈成形・調整〉 (調整) 外面：縄目タタキ 内面：ナデ 〈特記〉〈備考〉8506と同一個体か。ほか未図化9441、1204の4点も同一。 〈年代〉 (年代) 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 胴部細片
57	38	1382	外来系弥生土器 (山陰か) 壺	谷1203 G46-8023	〈胎土・焼成〉 胎土：1～3mm砂粒多量。器表：淡褐色 (白み) 〈成形・調整〉 外面：タテハケ→ヨコナデ 内面：口頸部ヨコナデ～弱いケズリ、頸部以下ケズリ 〈文様等〉口縁外面に凹線2条、頸部外面に列点文状の調整工具当り 〈年代〉 年代) 弥生/後期前半型式 〈遺存状態〉 口縁部破片(1/5) 〈計測〉 口縁部径 (復原) 19.4cm
57	38	2661	外来系弥生土器 (近畿西部系) 器台	谷1203-36層 G46-8542	〈胎土・焼成〉 胎土：1～3mm砂粒多量(雲母、角閃石、赤褐色粒子含む)。器表：淡橙褐色 〈成形・調整〉 外面：口縁ヨコナデ (擬凹線文状) 、受部以下タテハケ→タテミガキ 内面：受部タテハケ→ミガキ？、脚部以下ケズリ、裾部ナデ 〈文様等〉口縁外面貼付文の有無は不明確。脚部円形透孔1対3単位×２種 〈年代〉 弥生/後期後半～終末 〈遺存状態〉 上半部(図示部ほぼ全周) 〈計測〉 遺存高13.5cm 口縁部径(復原)25.4cm
57	38	4049	外来系弥生土器 (山陰系) 壺	谷1203-36層 G46-8435	〈胎土・焼成〉 胎土：1mm砂粒多量。器表：淡褐灰色 〈年代〉 弥生/終末 〈遺存状態〉 口縁部破片(頸部周り1/4)
57	38	8788	外来系弥生土器 (山陰系) 壺	谷1203-48層 G46-8551	〈胎土・焼成〉 胎土：1～4mm砂粒定量。器表：淡赤褐色 〈成形・調整〉 外面：タテハケ→ナデ 内面：ヨコハケ 〈文様等〉頸部外面にヘラ描の有軸羽状文 〈年代〉 弥生/後期～終末 〈遺存状態〉 頸部細片(頸部)
57	38	8812	外来系弥生土器 (山陰系) 小型甕	谷1203-38層 G46-7352	〈胎土・焼成〉 胎土：1～3mm砂粒多量。器表：暗褐色 〈成形・調整〉 口縁部外面：ヨコナデ、擬凹線文3～5条 内面：口頸部ヨコナデ、頸部以下ケズリ 〈年代〉 弥生/後期後半 〈遺存状態〉 口縁周り1/5 〈計測〉 口縁部径 (復原) 12.4cm
57	38	9054	外来系弥生土器 (西部瀬戸内系) 壺	谷1203-49a層 G46-8433	〈胎土・焼成〉 胎土：1～3mm砂粒定量。器表：暗褐灰色 〈成形・調整〉 外面：タテハケ 内面：ヨコナデ 〈文様等〉頸基部外面に櫛描波状文 〈年代〉 弥生/後期後半型式 〈遺存状態〉 頸部細片
57	38	9078	外来系弥生土器 (西部瀬戸内系) 壺	谷1203-36層 G46-8422	〈胎土・焼成〉 胎土：1～3mm砂粒定量。器表：暗褐色 (赤み) 〈成形・調整〉 外面：ヨコナデ→タテミガキ 内面：口頸部ヨコナデ 〈文様等〉口縁内外面に櫛描波状文 〈年代〉 弥生/後期後半型式 〈遺存状態〉 口縁部細片
57	38	9089	外来系土師器甕 (山陰系) 甕	谷1203-36層 G46-8423	〈胎土・焼成〉 胎土：1～2mm砂粒多量。器表：淡褐灰色 〈成形・調整〉 外面：ヨコナデ 内面：口頸部ヨコナデ、頸部以下ケズリ 〈年代〉 年代) 古墳/前期 〈遺存状態〉 口縁周り1/8 〈計測〉 口縁部径 (復原) 20.0cm
57	38	9091	外来系弥生土器 (近畿系河内か) 壺	谷1203-49層 G46-7351	〈胎土・焼成〉 胎土：4mm砂粒含むが精製(雲母、角閃石含む)。器表：暗茶褐色 〈成形・調整〉 外面：タテハケ→ヨコナデ→頸部タテミガキ 内面：口頸部ヨコナデ (簾状) 、頸部ケズリ状ナデ、胴部ユビオサエ痕 〈文様等〉口縁内外面竹管文2段、胴部外面竹管文2段＋櫛描波状文 〈年代〉 年代) 弥生/後期 〈遺存状態〉 口縁周り40% 〈計測〉 口縁部径(復原)12.5cm
57	38	9164	外来系弥生土器 (山陰系) 器台 (鼓形器台)	谷1203-11層 G46-9014	〈胎土・焼成〉 胎土：1～3mm砂粒多量。器表：暗茶褐色 〈成形・調整〉 外面：タテハケ→ヨコナデ 内面：受部ヨコナデ→脚部以下ケズリ、ナデ 〈年代〉 弥生/終末 〈遺存状態〉 脚周り1/5 〈計測〉 脚部径(復原)18.6cm

表16 搬入土器観察表 (2)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
57	38	9278	外来系弥生土器（山陰系） 低脚杯	谷1203-36層 G46-8553	〈胎土・焼成〉胎土：1～3mm砂粒多量。器表：灰白色～淡褐色 〈成形・調整〉外面：ハケ→ヨコナデ、脚部オサエ痕 内面：杯部タテミガキ、脚部ナデ 〈年代〉弥生/終末〈遺存状態〉脚を半分欠くほかは略完形 〈計測〉高4.7cm 口縁部径14.0cm 脚部径7.0cm
57	38	9528	外来系弥生土器（山陰系） 甕	谷1203-10b層 G46-9822	〈胎土・焼成〉胎土：1mm砂粒多量(雲母、角閃石、赤褐色粒子含む)。器表：淡褐色(白み)〈成形・調整〉口頸縁部外面：ヨコナデ、胴部タテハケ 内面：口頸部ヨコナデ、頸部以下ケズリ 〈年代〉弥生/終末〈遺存状態〉口縁周り1/8 〈計測〉口縁部径（復原）15.6cm
57	38	11782	外来系弥生土器（瀬戸内系） 甕	谷1203-49a層 G46-8445	〈胎土・焼成〉胎土：1mm砂粒少量（雲母微砂多い）。器表：外面黒みのある暗褐色〈成形・調整〉外面：タテハケ→口頸部強いヨコナデ 内面：ナデ〈文様等〉口縁内外面に凹線3条 〈年代〉弥生/瀬戸内中期後半型式〈遺存状態〉口縁周り1/6 〈計測〉口縁部径(復原)15.5cm
57	38	11862	外来系弥生土器（山陰系） 鼓形器台	谷1203-11層 G46-9032	〈成形・調整〉R11867と同様 〈特記〉R11867と同一個体か。擬似口縁部〈年代〉弥生/終末 〈遺存状態〉脚周り1/6 〈計測〉脚部径(復原)14.7cm
57	38	11867	外来系弥生土器（山陰系） 鼓形器台	谷1203-11層 G46-9032	〈胎土・焼成〉胎土：1～3mm砂粒定量。器表：茶褐色 〈成形・調整〉外面：ヨコナデ→タテミガキ 内面：受部ヨコナデ→弱タテミガキ、脚部以下ケズリ〈年代〉弥生/終末〈遺存状態〉口縁周り1/3 〈計測〉口縁部径(復原)15.0cm
57	38	11926	外来系弥生土器（瀬戸内系） 甕	谷1203-23層 G46-9612	〈胎土・焼成〉胎土：1～2mm砂粒多量。器表：淡赤褐色〈成形・調整〉外面：横ナデ 内面：ナデ、頸部以下ケズリ 〈年代〉弥生/後期前半型式〈遺存状態〉口縁周り1/8 〈計測〉口縁部径（復原）17.2cm
57	38	12377	外来系弥生土器（山陰系） 壺(小型甕)	谷1203-11層 G47-9312	〈胎土・焼成〉胎土：1～3mm砂粒定量。器表：暗赤褐色〈成形・調整〉口縁部外面：ヨコナデ、擬凹線文→ヨコミガキ 内面：ヨコミガキ〈年代〉弥生/終末〈遺存状態〉口縁周り1/5 〈計測〉口縁部径(復原)11.6cm
57	38	12965	外来系弥生土器（瀬戸内系） 壺	谷1203-23層 G46-9735	〈胎土・焼成〉胎土：1～2mm砂粒多量。器表：外面黒色～淡橙褐色（炭素吸着の黒化処理？）、内面灰色〈成形・調整〉外面：ヨコナデ→粗ミガキ 内面：ナデ〈文様等〉口縁外面に凹線2条、肩部に瘤（単位不明） 〈年代〉弥生/後期前半型式〈遺存状態〉口縁周り1/4 〈計測〉口縁部径（復原）13.4cm
58	39	748	土師器 甕（布留式系） 壺	谷1203-11層 G46-9935	〈胎土・焼成〉胎土：1～2mm砂粒定量。器表：淡灰白褐色 〈成形・調整〉外面：口頸部ヨコナデ 内面：口頸部ヨコナデ、頸部以下ケズリ 〈年代〉古墳/前期初〈遺存状態〉口縁部細片(頸周り1/8) 〈計測〉口縁部径（復原）19.8cm
58	39	4924	外来系弥生土器 広片口三耳鉢	柱穴1630 G46-88	〈胎土・焼成〉胎土：1～3mm砂粒多量。器表：褐色 〈成形・調整〉外面：ハケ→ナデ、内面：ハケ→ナデ 〈文様等〉口縁が片口。把手の有無は不明。 〈特記〉赤色顔料の付着や煮沸痕跡はなし。二次被熱赤変。 〈年代〉弥生/後期〈遺存状態〉前部
58	39	8308	外来系弥生土器（豊前系） 甕	流路1388-35層 G46-7235	〈胎土・焼成〉胎土：1mm砂粒多量、3mm少量。器表：淡褐灰色〈成形・調整〉 外面：口頸部ヨコナデ、胴部タテハケ 内面：ナデ 〈年代〉年代〉弥生/中期後半〈遺存状態〉口縁部破片(口縁周り1/6) 〈計測〉口縁部径（復原）29.2cm
58	39	9079	外来系弥生土器 壺(高杯)	谷1203-23層 G46-9821	〈胎土・焼成〉胎土：1mm砂粒少量。器表：明褐色 〈成形・調整〉外面：ミガキ 内面：ヨコナデ→タテミガキ 〈文様等〉口縁外面に櫛描直線文＋貝殻腹縁羽状列点文2段以上〈年代〉年代〉弥生/後期～終末〈遺存状態〉口縁部細片(口縁周り1/10未満) 〈計測〉口縁部径(復原)12.5cm
58	39	9184	外来系弥生土器/土師器 高坏	谷1203-10層 G46-8041	〈胎土・焼成〉胎土：1mm砂粒少量（雲母、赤褐色粒子含む）。器表：淡橙色（外面丹塗りの可能性あり） 〈成形・調整〉外面：ハケ→ミガキ 内面：柱部ナデ、裾部ハケ 〈文様等〉脚段上端に刻入突帯、円形透孔は2単位 〈年代〉弥生終末～古墳初〈遺存状態〉脚部(図示部ほぼ100%) 〈計測〉高(遺存)3.8cm
58	39	9185	外来系弥生土器（豊前系） 壺	谷1203-22層 G46-9942	〈胎土・焼成〉胎土：1～3mm砂粒多量。器表：淡橙色～淡褐色 〈成形・調整〉外面：ナデ 内面：ナデ 〈文様等〉外面に櫛描波状文 〈特記〉同一個体：R8783(M1203-10b層 G46-9931)。〈年代〉弥生/後期～終末〈遺存状態〉口縁部細片
58	39	9204	外来系弥生土器 広片口三耳鉢	谷1203-10b層 G46-8035	〈胎土・焼成〉胎土：1～5mm砂粒多量。器表：暗褐色～赤褐色 〈成形・調整〉外面：ハケ→ナデ、耳の周辺オサエ痕 内面：ナデ 〈文様等〉外面に竹管状圧痕あり。尾部把手あるが、側面把手の有無は不明。〈特記〉赤色顔料の付着や煮沸痕跡はなし 〈年代〉弥生/後期 〈遺存状態〉基部 〈計測〉長（遺存）11.4cm
58	39	9206	外来系弥生土器 鉢	谷1203-11層 G46-8055	〈胎土・焼成〉胎土：砂粒少量。器表：暗褐灰色 〈成形・調整〉外面：タテミガキ 内面：ヨコハケ→ヨコナデ→タテミガキ 〈文様等〉外面にヘラ描細線文（羽状文、鋸歯文等） 〈年代〉年代〉弥生/終末〈遺存状態〉上部細片(口縁周り1/8) 〈計測〉口縁部径（復原）7.3cm
58	39	9483	外来系弥生土器（肥前型） 器台	谷1203-11層 G46-9833	〈胎土・焼成〉胎土：1～3mm砂粒定量（雲母、角閃石、赤褐色粒子含む）。器表：淡橙色（内外面丹塗りの可能性あり） 〈成形・調整〉外面：タテミガキ 内面：ヨコナデ 〈文様等〉縦長透孔２箇所以上。〈年代〉弥生/後期〈遺存状態〉脚部細片

表17 搬入土器観察表（3）

4 おわりに

今宿五郎江第11次調査では、遺跡西縁部の低い台地部とそれを開析して流れる谷部の調査を行った。調査面積は6,900㎡となり、台地部では多数の掘立柱建物の分布を確認し、谷部では、遺跡外縁をめぐるような位置にある溝（2195）を調査した。

第11次調査地点では、出土遺物からは先土器時代に始まり縄文時代、弥生時代初頭の痕跡をたどることができるが、発掘調査出土遺物の大部分は、この溝の埋没が進行し、更に谷全体が埋没する段階に遺棄あるいは投棄されたものである。その量は、重量にして24.9tとなり、本調査で出土した土器量の87％を占める。このうち、溝2195がほぼ埋没し、堆積が谷1203を梅は初めて後（谷1203上部層）からの土器出土量は14.642kgで、谷1203出土量の59％を占める。

対象を変えて、石器についてみると、上部層から谷内出土石器数の75％が出土している。更に金属製品の大部分、攻玉遺物のほとんどがやはり、この上部層からの出土である。また、地域外から搬入されたと考えられる土器も同様の傾向が認められる。

このように、多様な遺物も含め、今宿五郎江遺跡は、それをめぐる大溝が痕跡を残して埋没しつつあって、溝の内外という関係の判然としない景観の中で考えてゆく必要がある。

今回、出土土器の検討が全く不十分なまま報告に至ったが、現状では、土器が大量に投棄される時点として弥生時代後期後半期を考えることができよう。この後も、谷全体に土器の遺棄、投棄が継続する中で泥炭層の堆積が進行し、極緩く窪んだ地形へと移ってゆく。

ここで、遡って溝2195掘削前後の状況をみてみる。溝2195は、谷1203の底に掘削されて、やや蛇行しながら第11次調査区の中央を超えた位置、谷1203がその幅を急に広げる地点で掘削をやめている。それが、当初から意図されたものかどうかはわからない。調査時の所見では、この位置に流水が集中し、短時間で埋没したような堆積が観察される。さらに溝の北端部には、多数の杭が打設されている。このことからすると、何らかの不測の事態が発生した可能性も考えられる。一方、図上では調査区の東にある溝1204と対応しているようにも見える。この溝は隣接する第２次調査区の溝（SD50）へ続き、谷の縁辺に沿うように弧状に掘削され、その延長が第11次調査区へ向かうが、両調査区の間で終わる。これからみると、溝2195も意図した位置で掘削を停止したものかとも思われる。

溝2195掘削時の残土による盛土層（29層・53層）中から土器が出土し、またその層中に埋置されたとみられる土器が出土した（M1716～ 1718）。土器は何れも弥生時代中期後半を示している。一方、谷1203東岸から谷底部に向かって土器包含層（27b層・24層・41層・42層・52層）が形成されている。出土状況から人為的な投棄を想定するが、やはり中期後半頃か。調査区南部で51層と52層が重なり、51層が上位となる。ただし52層とした部位は谷底に薄く広がるもので、不明瞭。他地点とは堆積状況が異なる。

溝2195掘削前後の遺構について、第11次地点では該当する遺構は確認できなかった。他調査地点の成果をみると、隣接する第２次地点では井戸（SE-1）を調査している。遺跡中央部に近い東の第５次地点では、東西方向の溝（SD-01・02）に土器の投棄が行われる。溝2195に続く溝427を検出した第９次地点では台地上に２基の井戸（M421・422）が分布する。更に溝427が北東へ繋がる第10次地点では、溝が断片的に遺存する（M1017・1096）。以上、散漫ではあるが、遺構の分布を見ることができる。

なお、第９次地点では、溝の外側（谷側）に本地点と同様残土による盛土層が残り、同様に土器が出土している。

報告書抄録

ふりがな	いまじゅくごろうえ 16
書名	今宿五郎江 16
副書名	今宿五郎江遺跡第11次調査報告 (2)
巻次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	1221
編集者名	杉山富雄
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号 TEL092-711-4667
	2014年3月24日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
今宿五郎江11次	福岡県 福岡市西区 今宿町	40130	626	33° 34′ 28″	130° 16′ 19″	20050708 ～ 20061209	6,500	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
今宿五郎江11次	集落 包含層	弥生 古墳 中世	溝、掘立柱建物、井戸、土壙	弥生土器、石器、木器、玉類、鉄器・青銅器	

要約

遺物の出土は大量で、土器の総量で28.6㎥の分量となった。遺物の大半は谷部から出土した。

土器は、弥生土器が殆どで、土師器・須恵器・古代・中世の土器が微跡的に混じる。弥生土器は後期後半ものが主で、他に中期後半の土器が加わる。瀬戸内他の地方からの搬入土器、薬老兄土器をはじめとする朝鮮半島からの搬入土器が混じって出土した。

本器類も多量に出土した。農具、漁撈具、容器の他、短甲等の出土があった。金属器は、小形仿製鏡、銅鐸、鋳造鉄斧、鍛造鉄斧、銅鏃などが出土している。石器類では、石鏃の出土が多く、砥石・敲石の類も多数出土した。金属器、搬入土器は、殆どが弥生時代後期後半期以降の包含層から出土している。

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1221集

今宿五郎江 16

— 今宿五郎江遺跡第11次調査報告(2) —

2014年（平成26年）3月24日

発行　福岡市教育委員会
　　福岡市中央区天神１丁目８番１号
印刷　協文社印刷株式会社
　　福岡市西区小戸４丁目24番５号